

第1章

一般高齢者 調査

1. 調査の概要

(1) 目的

65歳以上の住民における健康や生活の状況と問題点、医療・介護、福祉等に関するニーズ、地域環境、介護保険制度に対する評価等を把握し、日常生活圏域や対象者の属性ごとに特徴と課題を探ることを目的とする。加えて、市の施策への要望についても把握する。

(2) 調査対象者

平成25（2013）年9月1日時点で三鷹市在住の65歳以上住民36,821人の中から無作為に抽出した3,648人

(3) 調査方法

郵送により調査票の配布・回収を行った。調査票の回答・記入は、原則、対象となった高齢者本人であるが、健康上の理由等により本人が回答できない場合は、家族等に代理で回答・記入を依頼した。

(4) 実施期間

平成25（2013）年9月5日～9月30日（12月末までの返送分は回収に含めた）

(5) 回収状況

有効回収数： 2,449票 （回収率 67.1%）

【集計を見る際の注意事項】

回答比率は小数第2位を四捨五入しているため、合計が100.0%にならない場合がある。

2. 回答者の属性^{注)}

- 調査回答者の属性を表1-2-1～表1-2-9に示した（注：調査対象者の代わりに別の人が代理で回答している場合は、本来の調査対象者の属性を示している）。
- 男女比は概ね4:6で、年齢構成は「65～74歳」と「75歳以上」の割合は半々であった。
- 要介護認定は、12.7%の人が認定を受けていた。
- 世帯構成は、「単身世帯」が17.1%、「夫婦二人世帯」が38.4%で、55.5%が高齢者の1人または2人暮らしであった。
- 住居は「一戸建ての持ち家」に居住している人が最も多かった（61.4%）。居住地域は下連雀、上連雀地域の人が多かった。
- 所得段階は「第2段階」「軽減第4段階」「第7段階」の人が、それぞれ14.3%、14.9%、16.0%と比較的多かった。
- 性・年齢構成、要介護認定者、世帯構成、居住地域、住居形態、学歴は、平成22年度の調査結果とほぼ同程度であった。所得段階については、平成22年度にはなかった「軽減第3段階」と「第12段階」が今回は新たに加入している。

表1-2-1 性別

男性	女性	不明	総数
1,027 (41.9%)	1,414 (57.7%)	8 (0.3%)	2,449 (100.0%)

表1-2-2 年齢階級別

65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～90歳	90歳以上	不明	総数
606 (24.7%)	620 (25.3%)	518 (21.2%)	412 (16.8%)	199 (8.1%)	86 (3.5%)	8 (0.3%)	2,449 (100.0%)

表1-2-3 性別・年齢階級別構成

	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～90歳	90歳以上	総数
男性	289 (28.1%)	263 (25.6%)	214 (20.8%)	167 (16.3%)	75 (7.3%)	19 (1.9%)	1,027 (100.0%)
女性	317 (22.4%)	357 (25.2%)	304 (21.5%)	245 (17.3%)	124 (8.8%)	67 (4.7%)	1,414 (100.0%)
総数	606 (24.8%)	620 (25.4%)	518 (21.2%)	412 (16.9%)	199 (8.2%)	86 (3.5%)	2,441 (100.0%)

注) 性、年齢の不明者は除外。

表1-2-4 要介護認定の状況

認定なし	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	不明	総数
2,101 (85.8%)	92 (3.8%)	45 (1.8%)	62 (2.5%)	51 (2.1%)	21 (0.9%)	18 (0.7%)	22 (0.9%)	37 (1.5%)	2,449 (100.0%)

表1-2-5 世帯構成

単身世帯	夫婦二人世帯	二世帯 (子と同居)	三世帯 (子・孫と同居)	その他	不明	総数
420 (17.1%)	940 (38.4%)	738 (30.1%)	181 (7.4%)	122 (5.0%)	48 (2.0%)	2,449 (100.0%)

表1-2-6 居住地域

下連雀1-4 上連雀1-5	下連雀5-9 上連雀6-9 野崎1	井の頭	牟礼 北野 新川2-3	新川1,4-6 中原	野崎2-4 井口 深大寺	大沢	不明	総数
453 (18.5%)	505 (20.6%)	231 (9.4%)	347 (14.2%)	396 (16.2%)	321 (13.1%)	188 (7.7%)	8 (0.3%)	2,449 (100.0%)

表1-2-7 住居形態

持ち家 (一戸建て)	持ち家 (分譲住宅)	民間賃貸 マンション	民間賃貸 アパート	都営・ 市営住宅	その他	不明	総数
1,503 (61.4%)	252 (10.3%)	215 (8.8%)	150 (6.1%)	176 (7.2%)	79 (3.2%)	74 (3.0%)	2,449 (100.0%)

表1-2-8 所得段階

1段階	2段階	軽減 3段階	3段階	軽減 4段階	4段階	5段階	6段階
71 (2.9%)	350 (14.3%)	138 (5.6%)	129 (5.3%)	364 (14.9%)	230 (9.4%)	266 (10.9%)	237 (9.7%)
7段階	8段階	9段階	10段階	11段階	12段階	不明	総数
393 (16.0%)	113 (4.6%)	46 (1.9%)	22 (0.9%)	20 (0.8%)	33 (1.3%)	37 (1.5%)	2,449 (100.0%)

表1-2-9 最終学歴

中学校	高校	専門・ 専修学校	短大・ 高専	大学・ 大学院	その他	不明	総数
382 (15.6%)	964 (39.4%)	162 (6.6%)	207 (8.5%)	606 (24.7%)	15 (0.6%)	113 (4.6%)	2,449 (100.0%)

3. 健康状態

1) 健康度自己評価

- 健康度自己評価は、「良い」「まあ良い」と肯定的な回答が 31.1%、「普通」が 42.0%、「あまり良くない」「良くない」と否定的な回答が 25.5%であった。平成 22 年の調査では「良い」「まあ良い」が 40.8%、「普通」が 37.2%、「あまり良くない」「良くない」が 20.8%であったので、3 年前と比べると健康度自己評価は若干低下していた。
- 肯定的な回答（良い・まあ良い）は、「男性」33.4%、「女性」29.7%で、女性の方が健康度自己評価は低い傾向がみられた。
- 高齢になるほど健康度自己評価は低下し、「65～69 歳」では肯定的な回答は 39.8%であったものの、「85 歳以上」の人では 17.9%まで下がっていた。
- 日常生活圏域別では、肯定的な回答の割合が最も高かったのは「井の頭」36.4%であった。他方、肯定的な回答の割合が低かったのは「牟礼、北野、新川 2～3 丁目」28.0%と「新川 1・4～6 丁目、中原」28.3%であった。
- 所得段階が低いほど肯定的な回答は低下し、「第 6 段階以上」の人では肯定的な回答が 38.2%であったのに対して、「第 1～3 段階」の人では 24.3%と、格差が大きかった。
- 住居形態では、「持ち家」の人では肯定的な回答が 33.0%であったのに対して、「公営住宅」の居住者では 19.9%と少なかった。
- 世帯構成別では、「単身世帯」では肯定的な回答の割合が 28.8%で、夫婦世帯や二世帯、三世帯で暮らしている人よりも健康度自己評価が低い傾向がみられた。「その他」の世帯で健康度自己評価が低いのは、この中に有料老人ホームなどの施設入居者が含まれているからである。

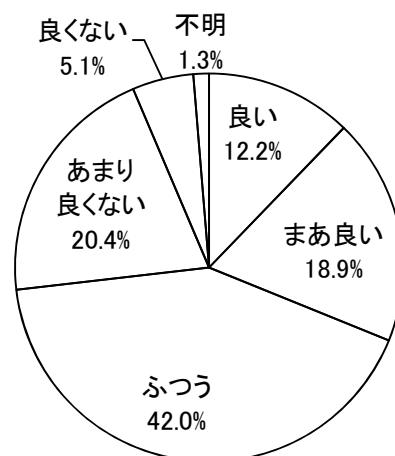


図1-3-1 健康度自己評価

表 1-3-1 健康度自己評価

		人数	良い	まあ良い	ふつう	あまり 良くない	良くない	不明
総数		2,449	12.2%	18.9%	42.0%	20.4%	5.1%	1.3%
性別	男性	1,027	13.3%	20.1%	40.2%	19.2%	5.6%	1.7%
	女性	1,414	11.5%	18.2%	43.1%	21.4%	4.9%	1.0%
年齢階級	65～69歳	606	18.0%	21.8%	43.9%	12.7%	2.3%	1.3%
	70～74歳	620	13.7%	22.9%	42.7%	15.8%	4.4%	0.5%
	75～79歳	518	10.6%	18.3%	40.7%	23.9%	5.0%	1.4%
	80～84歳	412	7.8%	14.8%	38.8%	28.2%	8.7%	1.7%
	85歳以上	285	6.3%	11.6%	42.5%	29.5%	8.1%	2.1%
認定状況	認定なし	2,101	13.7%	20.6%	44.1%	17.8%	3.0%	1.0%
	要支援 1・2	137	4.4%	9.5%	24.8%	43.1%	16.8%	1.5%
	要介護 1・2	113	2.7%	6.2%	31.9%	38.9%	17.7%	2.7%
	要介護 3～5	61	0.0%	6.6%	21.3%	29.5%	32.8%	9.8%
日常生活圏域	下連雀 1-4、上連雀 1-5	453	12.6%	21.4%	40.6%	19.0%	5.1%	1.3%
	下連雀 5-9、上連雀 6-9、野崎 1	505	12.3%	19.0%	39.2%	22.8%	5.7%	1.0%
	井の頭	231	15.6%	20.8%	40.3%	17.3%	4.8%	1.3%
	牟礼、北野、新川 2-3	347	12.7%	15.3%	44.4%	21.6%	5.8%	0.3%
	新川 1、4-6、中原	396	10.9%	17.4%	44.2%	18.9%	6.1%	2.5%
	野崎 2-4、井口、深大寺	321	10.3%	18.7%	42.4%	23.4%	4.4%	0.9%
	大沢	188	12.8%	21.3%	44.1%	17.6%	2.7%	1.6%
所得段階	第1～3段階	688	9.3%	15.0%	36.8%	29.1%	7.8%	2.0%
	第4～5段階	860	12.6%	17.1%	46.3%	18.0%	5.0%	1.0%
	第6段階～	864	14.4%	23.8%	41.6%	16.1%	3.2%	0.9%
住居形態	持家	1,755	12.8%	20.2%	41.8%	19.6%	4.8%	0.9%
	借家	365	12.1%	18.1%	41.1%	21.6%	5.5%	1.6%
	公営住宅	176	9.1%	10.8%	43.8%	27.3%	6.3%	2.8%
	その他	79	6.3%	21.5%	44.3%	16.5%	10.1%	1.3%
世帯構成	単身世帯	420	11.4%	17.4%	39.3%	24.3%	6.4%	1.2%
	夫婦二世帯	940	13.6%	19.7%	42.2%	19.8%	3.7%	1.0%
	子と同居	738	11.9%	18.2%	42.8%	20.2%	5.7%	1.2%
	子・孫と同居	181	12.2%	21.5%	43.6%	16.0%	4.4%	2.2%
	その他	122	5.7%	22.1%	44.3%	17.2%	9.0%	1.6%

注)クロス集計については、属性が不明なケースは除外して分析した。

2) 通院・受療状況

- 病院や診療所への通院（往診や薬だけ出してもらっている場合も含む）に関しては、8割の人が「はい」と回答しており、高齢者の医療ニーズが大きいことがわかる。
- 性別では、通院状況に大きな差がなかった。
- 高齢になるほど通院者は増加し、特に「80歳以上」では9割弱が通院していた。
- 認定状況別では、要支援認定者の通院率が最も高く、97.1%であった。
- 日常生活圏域別では、「井の頭」で通院している人の割合が最も低く（75.8%）、「下連雀5～9、上連雀6～9、野崎1丁目」や「牟礼、北野、新川2～3丁目」では通院者の割合が高かった（それぞれ83.2%と82.7%）。
- 所得段階や住居形態による通院状況の違いについては、はっきりした傾向はつかめなかった。
- 世帯構成別では、「その他」の人の通院率が85.2%と最も高かった。

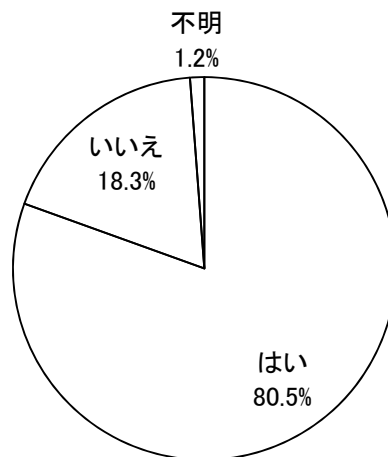


図1-3-2 病院や診療所に通っているか
（往診や薬だけ出してもらっている場合も含む）

表 1-3-2 病院や診療所に通っているか(往診や薬だけ出してもらっている場合も含む)

		人数	はい	いいえ	不明
総数		2,449	80.5%	18.3%	1.2%
性別	男性	1,027	80.0%	18.6%	1.4%
	女性	1,414	80.8%	18.0%	1.1%
年齢階級	65～69歳	606	68.6%	30.0%	1.3%
	70～74歳	620	78.4%	21.0%	0.6%
	75～79歳	518	85.7%	12.7%	1.5%
	80～84歳	412	89.8%	9.2%	1.0%
	85歳以上	285	87.4%	10.5%	2.1%
認定状況	認定なし	2,101	78.4%	20.6%	1.0%
	要支援 1・2	137	97.1%	1.5%	1.5%
	要介護 1・2	113	92.9%	4.4%	2.7%
	要介護 3～5	61	90.2%	3.3%	6.6%
日常生活圏域	下連雀 1-4、上連雀 1-5	453	80.4%	18.5%	1.1%
	下連雀 5-9、上連雀 6-9、野崎 1	505	83.2%	15.8%	1.0%
	井の頭	231	75.8%	22.5%	1.7%
	牟礼、北野、新川 2-3	347	82.7%	16.7%	0.6%
	新川 1、4-6、中原	396	79.8%	18.4%	1.8%
	野崎 2-4、井口、深大寺	321	80.7%	18.1%	1.2%
	大沢	188	76.6%	21.8%	1.6%
所得段階	第 1～3 段階	688	82.7%	15.4%	1.9%
	第 4～5 段階	860	78.3%	20.5%	1.3%
	第 6 段階～	864	80.8%	18.5%	0.7%
住居形態	持家	1,755	81.3%	17.9%	0.8%
	借家	365	75.1%	23.0%	1.9%
	公営住宅	176	80.1%	17.6%	2.3%
	その他	79	88.6%	11.4%	0.0%
世帯構成	単身世帯	420	79.5%	19.3%	1.2%
	夫婦二世帯	940	79.7%	19.6%	0.7%
	子と同居	738	81.4%	17.6%	0.9%
	子・孫と同居	181	80.7%	16.0%	3.3%
	その他	122	85.2%	13.1%	1.6%

注)クロス集計については、属性が不明なケースは除外して分析した。

3) 日常生活動作/手段的日常生活動作能力 (ADL/IADL 障害)

- 日常生活動作能力 (ADL) と手段的日常生活動作能力 (IADL) について質問した結果、援助を要する者の割合が最も高かったのは、ADL では「歩行」 (5.8%が「一部または全面的に手助けが必要」と回答)、IADL では「食事の用意」 (9.0%が「できない」と回答) であった。
- 性別では、「食事の用意」と「掃除」以外は、男性よりも女性の方が援助を要する者の割合が高かった。
- 高齢になるほど援助を要する割合は増加するが、特に85歳以上では急増していた。
- 認定状況別にみると、ADL については、要支援1～要介護2の人では「歩行」、要介護3～5の人では「入浴」に援助を要する割合が高かった。IADL では、要支援認定者では「掃除」、要介護認定者では「外出」に援助を要する割合が高かった。要介護3以上の人では、すべてのIADL項目についてほとんどの人が援助を要する状況であった。
- 日常生活圏域別では、「大沢」は総じて援助を要する者の割合が低い傾向が見られた。
- 所得段階が「第1～3段階」の人や住居形態が「その他(施設等の入居者が多く含まれる)」の人で、援助を要する割合が高かった。
- 世帯構成別では、「その他」の世帯構成の人で援助を要する割合が高く、「単身世帯」や「夫婦世帯」では低かった。

表1-3-3 日常生活動作能力(ADL障害の程度)

	人数	一人で普通にできる	何とか一人でできる	一部手助けが必要	全面的に手助けが必要	不明
食事	2,449	88.8%	7.0%	2.0%	1.1%	1.2%
着替え	2,449	89.1%	6.6%	1.8%	1.2%	1.2%
入浴	2,449	87.4%	6.5%	2.6%	2.4%	1.1%
排泄	2,449	91.3%	5.3%	1.1%	1.3%	1.1%
歩行	2,449	80.8%	12.2%	4.0%	1.8%	1.1%

表1-3-4 手段的日常生活動作能力(IADL障害の程度)

	人数	している	できるけどしていない	できない	不明
バスや電車を使って1人で外出	2,449	83.4%	7.3%	8.0%	1.3%
日用品の買い物をする	2,449	83.6%	8.2%	7.2%	1.1%
自分で食事の用意をする	2,449	69.5%	20.3%	9.0%	1.3%
掃除をする	2,449	74.3%	16.7%	8.0%	1.0%
請求書の支払いをする	2,449	81.3%	11.6%	5.7%	1.4%
預貯金の出し入れをする	2,449	81.2%	10.9%	7.0%	1.0%

表 1-3-5 日常生活動作(ADL)に援助を要する人の割合

		人数	食事	着替え	入浴	排泄	歩行
総数		2,449	3.0%	3.1%	4.9%	2.3%	5.9%
性別	男性	1,027	2.6%	2.8%	2.8%	1.9%	4.5%
	女性	1,414	3.2%	3.1%	3.1%	2.5%	6.8%
年齢階級	65～69歳	606	0.8%	0.5%	0.3%	0.2%	0.7%
	70～74歳	620	1.6%	1.3%	1.3%	0.5%	3.2%
	75～79歳	518	1.9%	1.9%	3.1%	1.2%	4.2%
	80～84歳	412	3.2%	3.6%	5.8%	2.4%	7.5%
	85歳以上	285	11.9%	13.0%	23.9%	12.6%	22.8%
認定状況	認定なし	2,101	0.8%	0.4%	0.3%	0.0%	1.2%
	要支援 1・2	137	5.1%	2.9%	4.4%	0.7%	14.6%
	要介護 1・2	113	10.6%	15.9%	39.8%	11.5%	43.4%
	要介護 3～5	61	60.7%	70.5%	93.4%	68.9%	77.0%
日常生活圏域	下連雀 1-4、上連雀 1-5	453	2.2%	2.9%	5.7%	5.7%	6.2%
	下連雀 5-9、上連雀 6-9、野崎 1	505	3.6%	3.8%	4.8%	4.8%	6.3%
	井の頭	231	3.0%	3.9%	5.2%	5.2%	5.6%
	牟礼、北野、新川 2-3	347	3.2%	3.7%	4.6%	4.6%	8.1%
	新川 1、4-6、中原	396	2.5%	2.0%	4.0%	4.0%	4.5%
	野崎 2-4、井口、深大寺	321	2.8%	2.5%	6.2%	6.2%	5.9%
	大沢	188	3.7%	1.6%	2.1%	2.1%	2.1%
所得段階	第1～3段階	688	5.1%	5.1%	8.4%	3.8%	9.0%
	第4～5段階	860	1.7%	1.7%	2.8%	1.4%	5.2%
	第6段階～	864	2.5%	2.5%	3.8%	2.1%	3.9%
住居形態	持家	1,755	2.7%	2.6%	3.9%	2.0%	5.1%
	借家	365	2.2%	2.5%	4.4%	1.1%	4.9%
	公営住宅	176	2.3%	2.8%	5.1%	0.6%	5.7%
	その他	79	11.4%	16.5%	31.6%	19.0%	26.6%
世帯構成	単身世帯	420	1.2%	0.7%	2.1%	0.2%	3.8%
	夫婦二人世帯	940	1.7%	1.5%	2.6%	0.7%	3.0%
	子と同居	738	4.3%	4.2%	6.6%	3.8%	8.4%
	子・孫と同居	181	3.9%	5.5%	6.6%	2.8%	7.2%
	その他	122	9.8%	10.7%	18.9%	10.7%	16.4%

注)クロス集計については、属性が不明なケースは除外して分析した。

表 1-3-6 手段的日常生活動作 (IADL) に援助を要する人の割合

		人数	一人で 外出	買い物	食事の 用意	掃除	請求書 支払い	預貯金 出入
総数		2,449	8.0%	7.2%	9.0%	8.0%	5.7%	7.0%
性別	男性	1,027	6.2%	5.7%	12.4%	7.9%	4.9%	6.3%
	女性	1,414	9.2%	8.1%	6.5%	7.9%	6.2%	7.4%
年齢階級	65～69歳	606	1.7%	1.5%	3.5%	2.3%	1.0%	1.2%
	70～74歳	620	3.1%	2.3%	4.4%	3.9%	1.9%	2.6%
	75～79歳	518	5.0%	5.4%	6.9%	6.6%	3.5%	6.0%
	80～84歳	412	10.9%	10.0%	12.4%	8.7%	7.3%	8.5%
	85歳以上	285	33.0%	28.8%	29.5%	29.5%	24.9%	28.1%
認定状況	認定なし	2,101	1.6%	1.3%	3.5%	1.8%	1.3%	1.8%
	要支援 1・2	137	19.7%	17.5%	15.3%	24.8%	8.8%	12.4%
	要介護 1・2	113	60.2%	52.2%	54.0%	54.0%	36.3%	49.6%
	要介護 3～5	61	98.4%	98.4%	95.1%	93.4%	88.5%	91.8%
日常生活圏域	下連雀 1-4、上連雀 1-5	453	8.2%	7.5%	10.4%	8.4%	5.7%	7.5%
	下連雀 5-9、上連雀 6-9、野崎 1	505	8.7%	7.5%	10.9%	9.5%	7.5%	8.3%
	井の頭	231	7.4%	7.4%	7.8%	6.5%	4.3%	5.6%
	牟礼、北野、新川 2-3	347	9.5%	8.1%	7.8%	8.1%	6.3%	7.5%
	新川 1、4-6、中原	396	8.1%	6.8%	8.6%	6.8%	5.6%	6.8%
	野崎 2-4、井口、深大寺	321	7.5%	7.5%	8.1%	7.5%	4.0%	5.9%
	大沢	188	3.7%	3.2%	6.4%	6.4%	3.2%	4.3%
所得段階	第 1～3 段階	688	12.8%	11.5%	12.5%	12.8%	8.6%	10.3%
	第 4～5 段階	860	5.9%	5.2%	5.2%	5.2%	4.3%	5.5%
	第 6 段階～	864	5.8%	5.3%	9.6%	6.5%	4.5%	5.7%
住居形態	持家	1,755	6.8%	5.9%	7.9%	7.0%	4.9%	5.8%
	借家	365	6.8%	6.0%	7.9%	6.8%	4.7%	6.6%
	公営住宅	176	8.0%	8.0%	8.0%	9.1%	5.7%	6.8%
	その他	79	38.0%	36.7%	41.8%	32.9%	27.8%	35.4%
世帯構成	単身世帯	420	5.5%	3.3%	2.6%	6.0%	1.4%	3.1%
	夫婦二人世帯	940	4.3%	4.0%	7.4%	5.5%	3.3%	4.7%
	子と同居	738	10.8%	9.6%	10.8%	9.6%	8.4%	8.5%
	子・孫と同居	181	10.5%	11.0%	13.3%	9.4%	7.7%	11.0%
	その他	122	24.6%	23.0%	24.6%	19.7%	18.0%	22.1%

注)クロス集計については、属性が不明なケースは除外して分析した。

4) 認知機能障害

- 認知機能障害の程度をCPS(Cognitive Performance Scale)という指標に準じた設問で評価した結果、「認知機能障害なし」74.7%、「境界的」15.1%、「軽度」4.1%、「中等度以上」4.8%という状況であった。
- 厚生労働省が平成22年に全国57保険者で実施した調査結果^(注)では、「障害なし」61.9%、「境界的」15.5%、「軽度」8.7%、「中等度以上」5.8%で、これと比べると三鷹市は認知機能障害を有する人の割合が低いことがわかる。
- 男女で大きな差はなかった。
- 高齢になるほど認知機能障害を有する割合は増加し、85歳以上では約2割が「中等度以上」の認知機能障害を有していた。
- 要介護度が重くなるに従って認知機能障害の割合は急増し、要介護3～5の人では82%が「中等度以上」の認知機能障害を有していた。
- 日常生活圏域別では、「大沢」で認知機能障害を有する者の割合が低い傾向が見られた。
- 所得段階が「第1～3段階」の人や住居形態が「その他(施設等の入居者が多く含まれる)」の人で、認知機能障害を有する者の割合が高かった。
- 世帯構成別では、「その他」の世帯構成の人で認知機能障害を有する者の割合が高く、「単身世帯」や「夫婦世帯」では低かった。

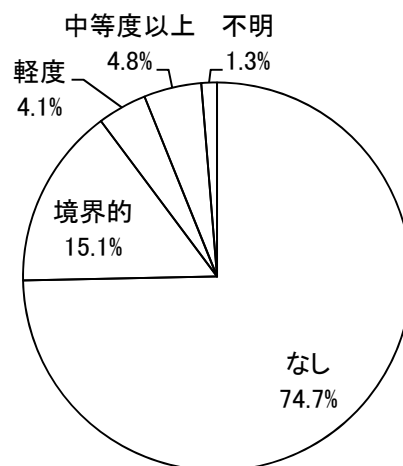


図1-3-3 認知機能障害の程度(CPS指標)

注)厚生労働省.平成22年10月.「日常生活圏域ニーズ調査 モデル事業・結果報告書」

<http://www.mhlw.go.jp/topics/kaigo/dl/tp101027-01c.pdf>

表 1-3-7 認知機能障害(CPS 指標)

		人数	なし	境界的	軽度	中等度以上	不明
総数		2,449	74.7%	15.1%	4.1%	4.8%	1.3%
性別	男性	1,027	72.3%	17.7%	3.2%	4.7%	2.0%
	女性	1,414	76.2%	13.2%	4.7%	5.0%	0.8%
年齢階級	65～69歳	606	86.6%	10.6%	0.8%	1.0%	1.0%
	70～74歳	620	80.3%	14.7%	1.9%	2.3%	0.8%
	75～79歳	518	73.7%	18.3%	3.5%	2.9%	1.5%
	80～84歳	412	64.8%	18.4%	7.8%	6.6%	2.4%
	85歳以上	285	52.3%	15.1%	11.6%	19.6%	1.4%
認定状況	認定なし	2,101	80.6%	14.6%	2.4%	1.1%	1.2%
	要支援 1・2	137	48.2%	26.3%	16.1%	8.8%	0.7%
	要介護 1・2	113	31.0%	18.6%	20.4%	27.4%	2.7%
	要介護 3～5	61	3.3%	3.3%	6.6%	82.0%	4.9%
日常生活圏域	下連雀 1-4、上連雀 1-5	453	74.2%	15.5%	4.4%	5.3%	0.7%
	下連雀 5-9、上連雀 6-9、野崎 1	505	75.2%	12.7%	4.4%	6.7%	1.0%
	井の頭	231	73.6%	16.5%	4.8%	3.9%	1.3%
	牟礼、北野、新川 2-3	347	73.8%	17.0%	3.2%	4.6%	1.4%
	新川 1、4-6、中原	396	73.0%	15.9%	4.3%	4.8%	2.0%
	野崎 2-4、井口、深大寺	321	75.7%	15.0%	4.4%	3.4%	1.6%
	大沢	188	78.2%	14.4%	2.7%	2.7%	2.1%
所得段階	第 1～3 段階	688	67.6%	18.0%	5.8%	6.5%	2.0%
	第 4～5 段階	860	78.8%	12.7%	3.6%	4.1%	0.8%
	第 6 段階～	864	75.7%	15.4%	3.4%	4.3%	1.3%
住居形態	持家	1,755	76.8%	14.5%	3.8%	4.1%	0.9%
	借家	365	72.9%	17.3%	3.3%	4.4%	2.2%
	公営住宅	176	68.2%	17.6%	6.8%	6.3%	1.1%
	その他	79	57.0%	11.4%	10.1%	20.3%	1.3%
世帯構成	単身世帯	420	75.0%	17.4%	4.0%	2.6%	1.0%
	夫婦二人世帯	940	79.3%	13.9%	2.4%	3.3%	1.1%
	子と同居	738	70.9%	16.7%	5.0%	6.0%	1.5%
	子・孫と同居	181	70.7%	13.8%	5.0%	8.3%	2.2%
	その他	122	69.7%	8.2%	9.8%	10.7%	1.6%

注)クロス集計については、属性が不明なケースは除外して分析した。

5) こころの状態

- 抑うつ傾向を把握する指標として広く用いられているK6という指標を用いて、高齢者の心の状態を調べた。これは得点が高いほど気分・不安障害やうつ傾向が強いことを表し、5点以上が気分・不安障害の一次スクリーニングのカットオフ値とされている。今回の調査結果では、「0～4点」70.6%、「5～9点」18.5%、「10～14点」6.9%、「15点以上」2.2%、「不明」1.8%という状況であった。
- 国民生活基礎調査の健康票でもK6を用いており、平成22年の65歳以上の調査結果では「0～4点」49.4%、「5～9点」10.7%、「10～14点」4.2%、「15点以上」1.5%、「不明」34.2%であった^(注)。国民生活基礎調査は三鷹市の調査結果と比べて「不明」の割合が高いが、不明者を除くと、気分・不安障害の問題がないと考えられる「0～4点」の人の割合は、三鷹市72%、国民生活基礎調査75%で、ほぼ同程度であった。
- 男女で明確な差は見られなかった。
- 高齢になるほど「5点以上」の人の割合が増え、加齢とともに精神的な問題を有する人が増加する傾向がうかがえた。
- 要介護度が重くなるに従って精神的な問題を有する人の割合は増加し、特に要介護3～5では「15点以上」の人が14.8%いた。
- 日常生活圏域別では、「野崎2-4、井口、深大寺」で精神的な問題を有する人の割合が若干多い傾向が見られた。
- 所得段階が「第1～3段階」の人では精神的な問題を有する人の割合が高かった。
- 「持ち家」の人では、他の住居形態と比べて精神的な問題を有する人の割合が低かった。
- 「単身世帯」の人では、精神的な問題を有する人の割合が高かった。

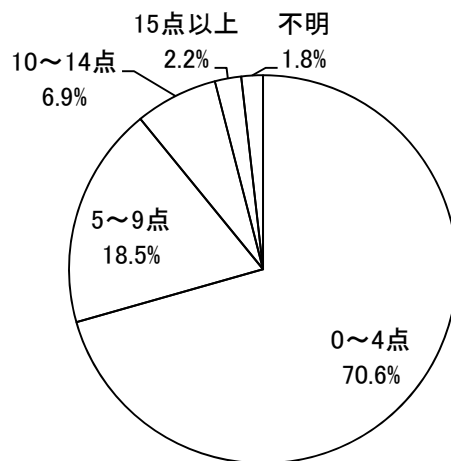


図1-3-4 心の状態(K6指標)

注)厚生労働省.平成23年7月.「平成22年国民生活基礎調査の概況」

<http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/k-tyosa/k-tyosa10/>

表 1-3-8 こころの状態(K6 指標)

		人数	0～4点	5～9点	10～14点	15点以上	不明
総数		2,449	70.6%	18.5%	6.9%	2.2%	1.8%
性別	男性	1,027	71.5%	19.5%	5.2%	1.9%	1.9%
	女性	1,414	70.1%	17.7%	8.2%	2.3%	1.7%
年齢階級	65～69歳	606	80.9%	12.9%	3.8%	1.5%	1.0%
	70～74歳	620	74.7%	16.5%	6.1%	1.3%	1.5%
	75～79歳	518	68.9%	22.0%	5.0%	1.7%	2.3%
	80～84歳	412	62.4%	19.7%	12.6%	4.1%	1.2%
	85歳以上	285	55.4%	26.3%	10.5%	3.5%	4.2%
認定状況	認定なし	2,101	76.1%	16.4%	5.1%	1.2%	1.2%
	要支援 1・2	137	38.0%	32.8%	19.0%	8.0%	2.2%
	要介護 1・2	113	34.5%	35.4%	20.4%	7.1%	2.7%
	要介護 3～5	61	23.0%	23.0%	19.7%	14.8%	19.7%
日常生活圏域	下連雀 1-4、上連雀 1-5	453	73.5%	15.9%	6.8%	1.8%	2.0%
	下連雀 5-9、上連雀 6-9、野崎 1	505	68.9%	19.0%	7.1%	3.4%	1.6%
	井の頭	231	77.5%	11.7%	6.9%	1.7%	2.2%
	牟礼、北野、新川 2-3	347	68.3%	21.0%	6.3%	1.7%	2.6%
	新川 1、4-6、中原	396	69.2%	20.2%	7.1%	1.8%	1.8%
	野崎 2-4、井口、深大寺	321	65.4%	22.4%	9.3%	2.5%	0.3%
	大沢	188	76.6%	16.0%	3.2%	1.6%	2.7%
所得段階	第 1～3 段階	688	60.5%	22.5%	10.8%	3.6%	2.6%
	第 4～5 段階	860	73.5%	17.4%	6.2%	1.9%	1.0%
	第 6 段階～	864	75.8%	16.1%	4.9%	1.4%	1.9%
住居形態	持家	1,755	74.0%	17.0%	5.4%	2.1%	1.5%
	借家	365	63.0%	21.9%	10.4%	1.9%	2.7%
	公営住宅	176	64.2%	24.4%	10.2%	1.1%	0.0%
	その他	79	58.2%	20.3%	11.4%	5.1%	5.1%
世帯構成	単身世帯	420	61.9%	23.6%	10.5%	3.1%	1.0%
	夫婦二人世帯	940	75.4%	16.4%	5.1%	1.4%	1.7%
	子と同居	738	69.6%	19.2%	7.5%	2.0%	1.6%
	子・孫と同居	181	74.6%	11.6%	7.2%	3.3%	3.3%
	その他	122	67.2%	18.9%	6.6%	3.3%	4.1%

注)クロス集計については、属性が不明なケースは除外して分析した。

6) 低栄養 (BMI)

- BMI (Body Mass Index : 体格指数) という指標を用いて、低栄養傾向の高齢者の割合を調べた。健康日本 21 (第 2 次) では、BMI が 20 以下の高齢者を低栄養傾向と定義し、この割合の増加を抑制することが目標となっている。今回の調査結果では、「BMI が 20 以下」の低栄養傾向の高齢者は 22.0%であった。
- 国民健康・栄養調査の平成 24 年の結果では、BMI が 20 以下の低栄養傾向の高齢者は 16.5%であった^(注)。健康日本 21 (第 2 次) では、65 歳以上の者のうち BMI20 以下の者の割合を平成 34 年時点で 22%以下とすることが目標として示されているので、三鷹市では既にこの目標の達成が厳しい状況となっている。ただし、今回の BMI は身長と体重を計測して算出したわけではなく、自己申告の身長・体重から算出した BMI なので、正確な数値でない可能性がある。今後、正確な計測値を基に結果を検証する必要がある。
- 男性よりも女性で低栄養傾向の者の割合が高かった。
- 高齢になるほど低栄養傾向の者の割合が増え、85 歳以上では 3 割が BMI20 以下であった。
- 要介護度が重くなるに従って低栄養傾向の者の割合は増加し、「要介護 3~5」では約 5 割が BMI20 以下であった。
- 所得段階が「第 6 段階以上」の人では低栄養傾向の者の割合が低かった。
- 住居形態や世帯構成は「その他」の人で、低栄養傾向の者の割合が高かった。

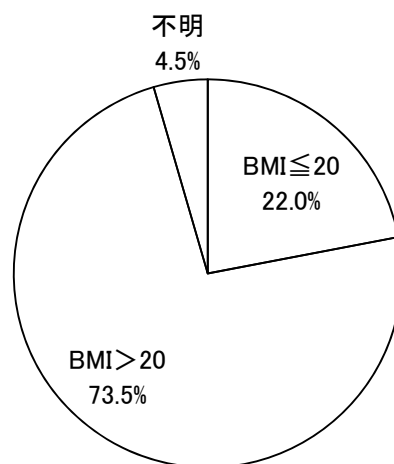


図1-3-5 低栄養傾向の高齢者 (BMI ≤ 20)

注)厚生労働省. 平成 25 年 12 月. 「平成 24 年 国民健康・栄養調査」の結果

<http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000032074.html>

表 1-3-9 低栄養傾向の高齢者の割合 (BMI≤20)

		人数	BMI≤20	BMI>20	不明
総数		2,449	22.0%	73.5%	4.5%
性別	男性	1,027	15.6%	80.5%	3.9%
	女性	1,414	26.8%	68.2%	5.0%
年齢階級	65～69歳	606	18.6%	78.5%	2.8%
	70～74歳	620	20.6%	74.2%	5.2%
	75～79歳	518	21.8%	74.9%	3.3%
	80～84歳	412	23.5%	71.1%	5.3%
	85歳以上	285	30.9%	61.4%	7.7%
認定状況	認定なし	2,101	20.8%	75.2%	3.9%
	要支援 1・2	137	17.5%	75.2%	7.3%
	要介護 1・2	113	35.4%	54.0%	10.6%
	要介護 3～5	61	47.5%	42.6%	9.8%
日常生活圏域	下連雀 1-4、上連雀 1-5	453	22.1%	74.2%	3.8%
	下連雀 5-9、上連雀 6-9、野崎 1	505	22.6%	74.1%	3.4%
	井の頭	231	27.3%	70.6%	2.2%
	牟礼、北野、新川 2-3	347	21.9%	73.2%	4.9%
	新川 1、4-6、中原	396	20.2%	72.7%	7.1%
	野崎 2-4、井口、深大寺	321	19.0%	75.7%	5.3%
	大沢	188	23.9%	71.3%	4.8%
所得段階	第 1～3 段階	688	24.0%	69.0%	7.0%
	第 4～5 段階	860	26.0%	70.3%	3.6%
	第 6 段階～	864	16.4%	80.0%	3.6%
住居形態	持家	1,755	22.4%	73.7%	3.9%
	借家	365	18.9%	75.3%	5.8%
	公営住宅	176	17.6%	74.4%	8.0%
	その他	79	35.4%	60.8%	3.8%
世帯構成	単身世帯	420	23.1%	72.1%	4.8%
	夫婦二世帯	940	20.1%	76.5%	3.4%
	子と同居	738	21.8%	72.6%	5.6%
	子・孫と同居	181	23.2%	74.0%	2.8%
	その他	122	32.0%	63.9%	4.1%

注)クロス集計については、属性が不明なケースは除外して分析した。

4. 医療・介護に関する問題

1) 通院・医療に関する問題

- 過去1年間に病気やケガにもかかわらず、病院や診療所、歯医者に行かなかったことがあったか否かといった受療抑制経験について質問したところ、非該当者（病気やケガはしていない）や無回答者を除外した2,187人中、15.1%が「ある」と答えていた。
- 属性別に見ると、性や年齢、居住地域に関しては受療抑制傾向に特に差は見られなかったが、要介護度、所得段階、住居形態、世帯構成については多少差があり、「要介護1, 2」では受療抑制経験がある人は23.3%、所得段階が「第1～3段階」の人では19.1%、「借家」の人では24.2%、「単身世帯」の人では20.1%であった。
- 健康状態について気軽に相談できる医師の有無については、そのような医師は「いない」という回答が14.4%であった。気軽に相談できる医師への通院時間は、「15分未満」37.0%、「15～30分」28.8%で、全体の65.8%は30分以内のところに相談しやすい医師がいる状況であった。
- 気軽に相談できる医師の有無について属性別にみると、年齢が若い人や要介護認定を受けていない人では「いない」人の割合が高かった。
- 気軽に相談できる医師への通院時間については、「下連雀1-4丁目、上連雀1-5丁目」「井の頭」では「15分未満」のところにいる割合が高かった。

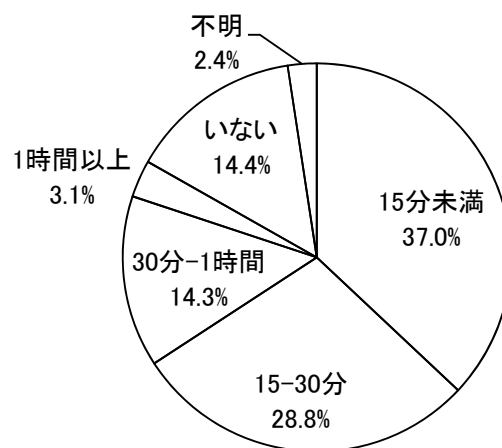


図1-4-1 気軽に相談できる医師への通院時間

表 1-4-1 過去1年間に病気やケガにもかかわらず、病院や診療所、歯医者に行かなかったことがある

		人数	ある	ない	病気・ケガは していない	不明
総数		2,449	13.5%	75.8%	9.2%	1.5%
(病気・ケガはしていない、無回答を除外)		2,187	15.1%	84.9%	—	—
性別	男性	925	16.6%	83.4%	—	—
	女性	1254	14.0%	86.0%	—	—
年齢階級	65～69歳	534	14.0%	86.0%	—	—
	70～74歳	550	17.1%	82.9%	—	—
	75～79歳	465	11.8%	88.2%	—	—
	80～84歳	379	17.7%	82.3%	—	—
	85歳以上	251	15.5%	84.5%	—	—
認定状況	認定なし	1869	14.6%	85.4%	—	—
	要支援 1・2	128	18.0%	82.0%	—	—
	要介護 1・2	103	23.3%	76.7%	—	—
	要介護 3～5	56	14.3%	85.7%	—	—
日常生活圏域	下連雀 1-4、上連雀 1-5	410	12.9%	87.1%	—	—
	下連雀 5-9、上連雀 6-9、野崎 1	439	13.0%	87.0%	—	—
	井の頭	204	17.2%	82.8%	—	—
	牟礼、北野、新川 2-3	308	15.9%	84.1%	—	—
	新川 1、4-6、中原	352	17.3%	82.7%	—	—
	野崎 2-4、井口、深大寺	293	18.4%	81.6%	—	—
	大沢	173	12.1%	87.9%	—	—
所得段階	第1～3段階	606	19.1%	80.9%	—	—
	第4～5段階	756	13.4%	86.6%	—	—
	第6段階～	794	13.9%	86.1%	—	—
住居形態	持家	1595	12.8%	87.2%	—	—
	借家	314	24.2%	75.8%	—	—
	公営住宅	150	18.7%	81.3%	—	—
	その他	70	11.4%	88.6%	—	—
世帯構成	単身世帯	368	20.1%	79.9%	—	—
	夫婦二人世帯	843	13.4%	86.6%	—	—
	子と同居	667	14.5%	85.5%	—	—
	子・孫と同居	158	12.0%	88.0%	—	—
	その他	111	18.9%	81.1%	—	—

注)クロス集計については、「病気や・ケガはしていない」「無回答」「属性が不明なケース」は除外して分析した。

表 1-4-2 気軽に相談できる医師の有無とその医師への通院時間

		人数	15分未満	15分～30分	30分～1時間	1時間以上	いない	不明
総数		2,449	37.0%	28.8%	14.3%	3.1%	14.4%	2.4%
性別	男性	1,027	36.8%	26.2%	14.4%	3.7%	16.9%	1.9%
	女性	1,414	37.0%	30.7%	14.3%	2.8%	12.4%	2.8%
年齢階級	65～69歳	606	36.5%	25.6%	10.1%	3.0%	22.4%	2.5%
	70～74歳	620	38.2%	26.3%	11.6%	3.5%	18.9%	1.5%
	75～79歳	518	35.7%	32.8%	16.8%	2.9%	8.7%	3.1%
	80～84歳	412	35.4%	31.8%	18.2%	3.4%	8.3%	2.9%
	85歳以上	285	39.3%	29.5%	19.3%	2.8%	6.3%	2.8%
認定状況	認定なし	2,101	37.6%	29.0%	12.9%	3.0%	15.8%	1.8%
	要支援 1・2	137	24.1%	30.7%	29.9%	5.1%	5.8%	4.4%
	要介護 1・2	113	31.0%	31.9%	21.2%	3.5%	5.3%	7.1%
	要介護 3～5	61	42.6%	21.3%	18.0%	4.9%	3.3%	9.8%
日常生活圏域	下連雀 1-4、上連雀 1-5	453	49.7%	23.6%	9.7%	2.0%	12.8%	2.2%
	下連雀 5-9、上連雀 6-9、野崎 1	505	35.2%	36.0%	11.5%	2.8%	12.7%	1.8%
	井の頭	231	48.5%	18.6%	15.2%	2.6%	11.7%	3.5%
	牟礼、北野、新川 2-3	347	38.6%	26.2%	15.6%	3.7%	15.0%	0.9%
	新川 1、4-6、中原	396	22.5%	31.8%	18.4%	5.6%	16.9%	4.8%
	野崎 2-4、井口、深大寺	321	29.0%	31.5%	17.4%	1.9%	18.1%	2.2%
	大沢	188	37.2%	28.2%	16.0%	3.7%	12.8%	2.1%
所得段階	第1～3段階	688	31.5%	34.0%	14.8%	3.6%	11.5%	4.5%
	第4～5段階	860	38.7%	28.3%	14.2%	2.4%	14.5%	1.9%
	第6段階～	864	38.8%	25.8%	14.1%	3.5%	16.7%	1.2%
住居形態	持家	1,755	38.8%	29.4%	13.8%	2.7%	13.8%	1.5%
	借家	365	30.7%	26.8%	14.5%	4.4%	20.0%	3.6%
	公営住宅	176	26.1%	36.9%	18.2%	4.5%	11.9%	2.3%
	その他	79	51.9%	7.6%	16.5%	5.1%	8.9%	10.1%
世帯構成	単身世帯	420	32.4%	29.0%	16.9%	2.4%	16.7%	2.6%
	夫婦二人世帯	940	36.2%	27.4%	14.6%	3.8%	16.2%	1.8%
	子と同居	738	40.4%	30.1%	13.0%	2.2%	12.7%	1.6%
	子・孫と同居	181	44.2%	30.9%	13.3%	3.3%	6.6%	1.7%
	その他	122	34.4%	25.4%	13.1%	5.7%	12.3%	9.0%

注)クロス集計については、属性が不明なケースは除外して分析した。

- 医療機関について困っていることや不満に思うことを質問したが、約半数は「困っていることや不満は特になし」と答えていた。困っていることの内容として多かったのは、「待ち時間が長い、会計が遅い」という点で、27.5%が不満に感じていた。「交通の便」「どの医療機関に行ったらよいかわからない」「近くにない」といった通院に伴う困難を感じている人は、いずれも5%前後でさほど多くなかった。

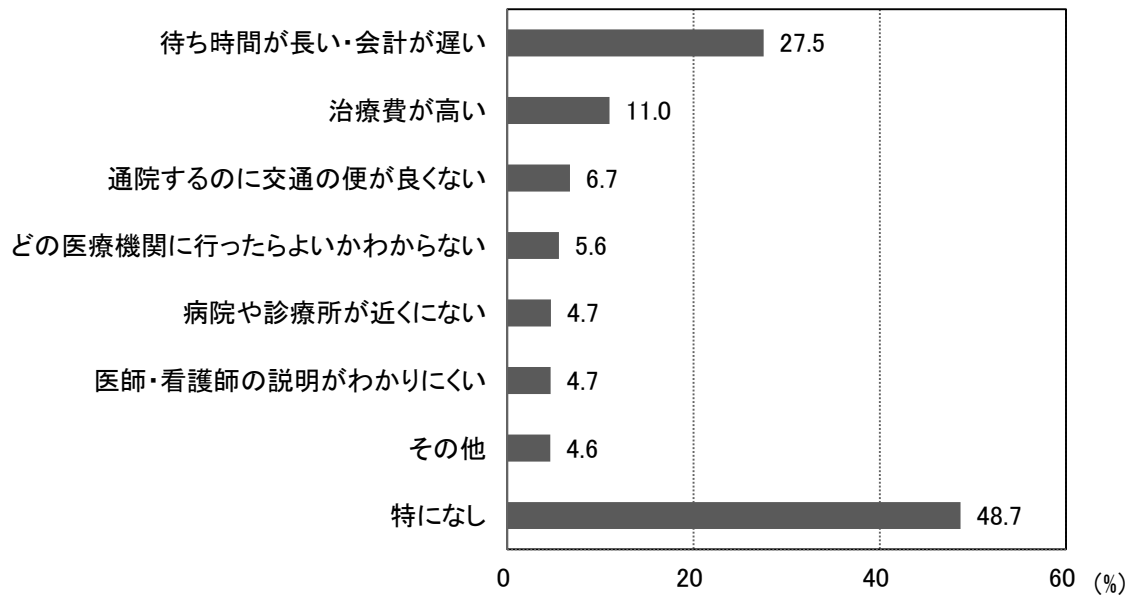


図1-4-2 医療機関について困っていることや不満に思うこと（複数回答）

2) 日常生活における援助の不足

- 日常生活動作と手段的日常生活動作について手助けを要する時に、誰かから十分に援助してもらえているか、もっと援助が必要と思うかを質問した。各項目とも「援助は不要」という人が7～9割を占めていたが、その中で援助不要者の割合が低かったのは、「歩行」75.8%、「一人で外出」74.2%、「食事の用意」76.4%、「掃除」76.3%であった。このことから外出援助や家事援助を要する人が多いことがわかる。
- 援助を要する人の中で、現状では援助が不足しており「もっと必要」と感じている人は、いずれの項目も2割前後であった。その中で援助不足を感じている人の割合が高かったのは、「掃除」（援助を要する人の27.1%）であった。

表1-4-3 日常生活動作の援助を得ているか

	人数	十分に援助を得ている	もっと援助が必要	援助は不要	不明
食事	2,449	11.8%	3.1%	81.6%	3.6%
	364	79.1%	20.9%	—	—
着替え	2,449	6.6%	1.4%	89.0%	3.0%
	195	82.6%	17.4%	—	—
入浴	2,449	6.7%	1.7%	88.6%	3.0%
	205	80.0%	20.0%	—	—
排泄	2,449	4.9%	1.1%	91.0%	3.1%
	145	82.1%	17.9%	—	—
歩行	2,449	17.4%	3.0%	75.8%	3.9%
	500	85.4%	14.6%	—	—

注)各項目の上段は回答者の総数に占める割合、下段は援助を要する人の中での割合を示す。

表1-4-4 手段的日常生活動作の援助を得ているか

	人数	十分に援助を得ている	もっと援助が必要	援助は不要	不明
バスや電車を使って1人で外出	2,449	18.7%	3.5%	74.2%	3.5%
	545	84.2%	15.8%	—	—
日用品の買い物をする	2,449	12.6%	3.8%	79.8%	3.8%
	401	77.1%	22.9%	—	—
自分で食事の用意をする	2,449	16.6%	3.0%	76.4%	4.0%
	480	84.6%	15.4%	—	—
掃除をする	2,449	14.5%	5.4%	76.3%	3.8%
	487	72.9%	27.1%	—	—
服薬管理をする	2,449	8.7%	1.3%	86.4%	3.6%
	244	86.9%	13.1%	—	—

注)各項目の上段は回答者の総数に占める割合、下段は援助を要する人の中での割合を示す。

5. 生活満足度・生活不安

1) 生活満足度

- 自分の生活には「非常に満足」12.2%、「まあまあ満足」59.1%、「どちらともいえない」14.5%、「あまり満足していない」9.3%、「まったく満足していない」2.4%で、7割の人が肯定的な評価をしていた。これは平成22年の調査結果とほぼ同程度の数値であった。
- 「非常に/まあまあ満足」という肯定的な評価について、性や年齢による違いはほとんどなかったが、健康状態が低下すると満足度が下がり、「要介護3～5」の人では肯定的な評価をする人は45.9%にとどまった。
- 日常生活圏域別では、「非常に/まあまあ満足」という回答の割合が最も高かったのは「井の頭」78.3%であった。
- 所得段階が低いほど肯定的な回答は低下し、「第1～3段階」の人では「非常に/まあまあ満足」の割合は60.2%であるのに対して「第6段階以上」の人では77.4%と、格差が大きかった。
- 住居形態では、「借家」の人では「非常に/まあまあ満足」という人の割合が52.3%と低かった。
- 世帯構成別では、「単身世帯」では「非常に/まあまあ満足」という人の割合が61.7%と低かった。

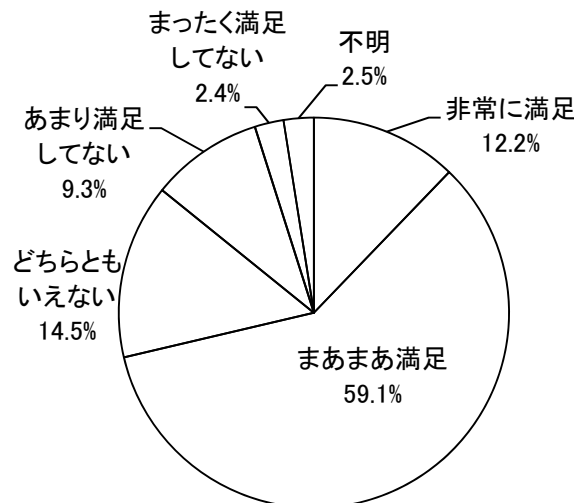


図1-5-1 生活満足度

表 1-5-1 生活満足度

		人数	非常に満足	まあまあ満足	どちらともいえない	あまり満足していない	満足していない	不明
総数		2,449	12.2%	59.1%	14.5%	9.3%	2.4%	2.5%
性別	男性	1,027	12.0%	58.4%	14.0%	10.1%	3.2%	2.2%
	女性	1,414	12.4%	59.7%	14.9%	8.6%	1.8%	2.6%
年齢階級	65～69歳	606	12.0%	58.3%	13.9%	11.2%	2.6%	2.0%
	70～74歳	620	12.7%	61.8%	12.7%	8.4%	3.4%	1.0%
	75～79歳	518	13.7%	56.4%	16.4%	8.7%	1.7%	3.1%
	80～84歳	412	9.0%	60.9%	14.8%	9.0%	2.2%	4.1%
	85歳以上	285	13.3%	57.9%	15.8%	8.4%	1.4%	3.2%
認定状況	認定なし	2,101	12.7%	60.7%	13.8%	8.9%	1.8%	2.1%
	要支援 1・2	137	8.8%	48.9%	18.2%	13.1%	8.0%	2.9%
	要介護 1・2	113	8.0%	51.3%	18.6%	11.5%	5.3%	5.3%
	要介護 3～5	61	3.3%	42.6%	26.2%	11.5%	6.6%	9.8%
日常生活圏域	下連雀 1-4、上連雀 1-5	453	13.2%	59.6%	13.0%	9.7%	2.6%	1.8%
	下連雀 5-9、上連雀 6-9、野崎 1	505	13.9%	57.2%	13.7%	8.7%	4.0%	2.6%
	井の頭	231	17.3%	61.0%	10.8%	7.4%	1.3%	2.2%
	牟礼、北野、新川 2-3	347	12.4%	60.5%	15.0%	8.6%	0.9%	2.6%
	新川 1、4-6、中原	396	8.3%	57.1%	17.9%	11.1%	3.0%	2.5%
	野崎 2-4、井口、深大寺	321	9.7%	61.1%	15.3%	9.0%	1.6%	3.4%
	大沢	188	11.2%	59.6%	15.4%	9.6%	2.1%	2.1%
所得段階	第 1～3 段階	688	9.6%	50.6%	17.3%	13.7%	4.7%	4.2%
	第 4～5 段階	860	12.8%	60.8%	14.5%	7.7%	2.2%	2.0%
	第 6 段階～	864	13.2%	64.2%	12.5%	7.5%	0.9%	1.6%
住居形態	持家	1,755	13.7%	63.4%	12.3%	7.2%	1.5%	1.9%
	借家	365	6.8%	45.5%	20.5%	17.3%	6.3%	3.6%
	公営住宅	176	6.8%	50.0%	23.9%	12.5%	3.4%	3.4%
	その他	79	19.0%	49.4%	17.7%	10.1%	1.3%	2.5%
世帯構成	単身世帯	420	9.3%	52.4%	19.3%	11.7%	5.0%	2.4%
	夫婦二人世帯	940	15.0%	59.7%	13.2%	8.5%	2.1%	1.5%
	子と同居	738	9.8%	63.0%	13.6%	8.8%	1.9%	3.0%
	子・孫と同居	181	16.0%	59.7%	11.6%	8.3%	0.6%	3.9%
	その他	122	7.4%	58.2%	18.0%	11.5%	1.6%	3.3%

注)クロス集計については、属性が不明なケースは除外して分析した。

2) 生活上の不安

- 高齢者の生活に生じやすい問題について、どの程度不安に感じているかを質問した結果、「非常に不安」「やや不安」に感じている人の割合が高かったのは、「必要な時に十分な介護サービスを受けられないこと」と「寝たきりや認知症になるかもしれないこと」で、いずれも5割の人が「非常に不安」または「やや不安」に感じていた。介護給付の抑制につながるような制度改革が議論されていることもあり、高齢者は寝たきりや認知症などの要介護状態になることを不安に思うとともに、そのような事態になった際に十分な介護サービスを受けられないのではないかと不安に感じていることがうかがえる。
- 次に、「必要な時に十分な医療を受けられないこと」「急に具合が悪くなった時に対応してくれる人がいないこと」「生活費や経済的なこと」を「非常に、または、やや不安」に感じている人、それぞれ4割程度いた。介護と同様に医療に対する不安、孤独死への不安、経済的な不安も、高齢者の生活において問題となっていることがわかる。

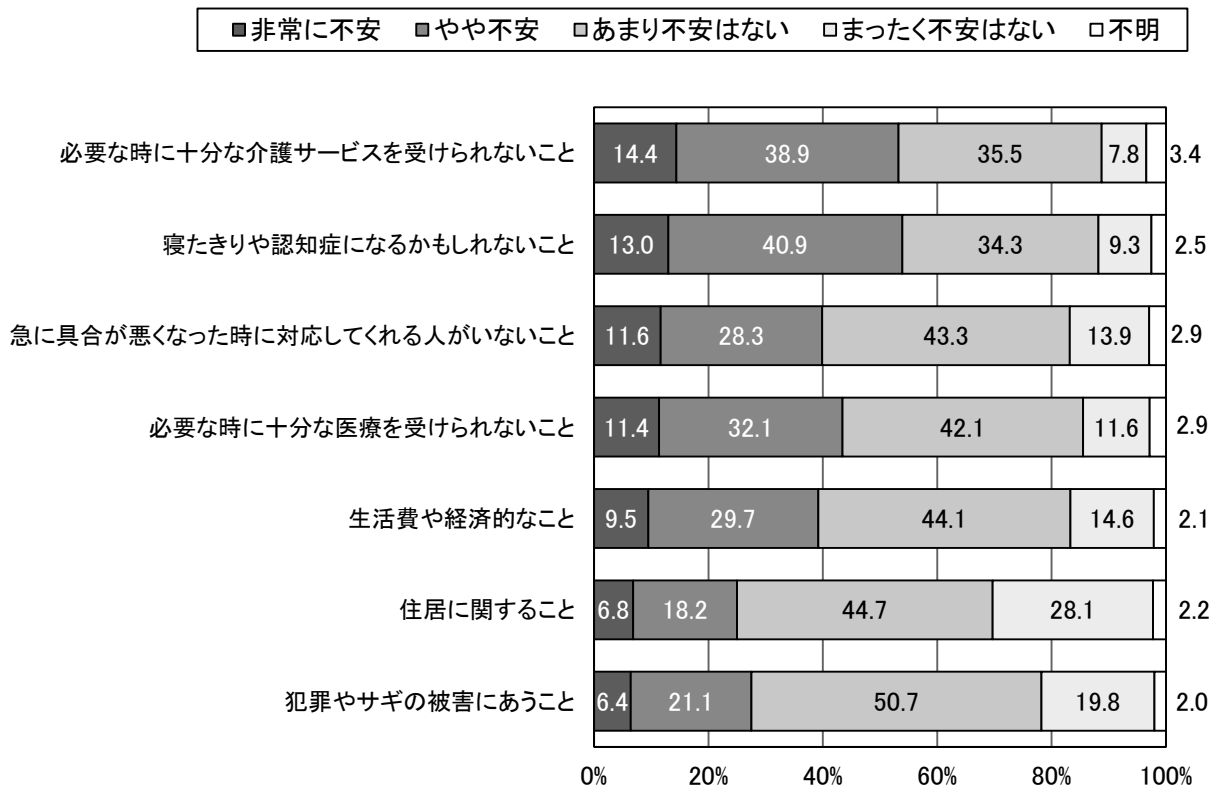


図1-5-2 生活上の不安

3) 暮らし向き

- 毎月のやりくりについて「ゆとりがある」7.8%、「ややゆとりがある」22.2%、「どちらともいえない」42.7%、「やや苦しい」16.3%、「苦しい」7.1%で、約4分の1の人が多少ともやりくりが苦しいと感じていることがわかった。
- 「苦しい/やや苦しい」という評価は年齢が若い人ほど多く、「65～69歳」では30.1%がそのように感じていた。
- 要介護認定を受けていない人と比べると認定者では毎月のやりくりが苦しいと感じている人が多く、「要介護3～5」の人では31.2%が「苦しい/やや苦しい」と答えていた。
- 日常生活圏域別では、「下連雀1-4、上連雀1-5」や「井の頭」では「苦しい/やや苦しい」という人の割合は低かった。
- 所得段階が低くなるほど、やりくりが苦しい人の割合が高くなり、「第1～3段階」の人では「苦しい/やや苦しい」の割合は34.6%で、「第6段階以上」の人の15.9%と比べて、かなり多かった。
- 住居形態では、「借家」の人では51.2%が「苦しい/やや苦しい」と答えており、「公営住宅」に住んでいる人も42.0%が多少とも苦しいと答えていた。
- 世帯構成別では、「単身世帯」で「苦しい/やや苦しい」という人の割合が若干高い傾向が見られたが、大きな差ではなかった。

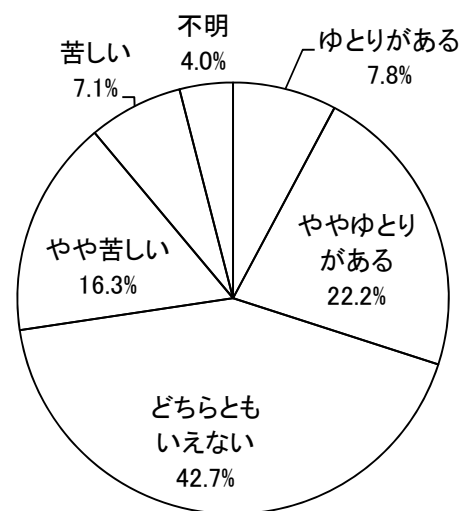


図1-5-3 毎月のやりくり

表 1-5-2 毎月のやりくり

		人数	ゆとりがある	ややゆとりがある	どちらともいえない	やや苦しい	苦しい	不明
総数		2,449	7.8%	22.2%	42.7%	16.3%	7.1%	4.0%
性別	男性	1,027	8.3%	22.7%	38.7%	17.5%	8.1%	4.8%
	女性	1,414	7.6%	21.9%	45.5%	15.2%	6.4%	3.4%
年齢階級	65～69歳	606	9.6%	19.5%	38.1%	21.5%	8.6%	2.8%
	70～74歳	620	6.3%	21.6%	43.2%	15.0%	9.7%	4.2%
	75～79歳	518	7.1%	21.4%	45.9%	16.4%	6.2%	2.9%
	80～84歳	412	6.8%	24.5%	43.4%	13.8%	5.3%	6.1%
	85歳以上	285	10.5%	27.4%	43.9%	10.5%	2.8%	4.9%
認定状況	認定なし	2,101	7.8%	22.5%	43.1%	16.0%	6.9%	3.9%
	要支援 1・2	137	5.8%	19.0%	43.8%	17.5%	10.2%	3.6%
	要介護 1・2	113	9.7%	23.9%	33.6%	16.8%	10.6%	5.3%
	要介護 3～5	61	8.2%	13.1%	44.3%	24.6%	6.6%	3.3%
日常生活圏域	下連雀 1-4、上連雀 1-5	453	12.4%	27.8%	40.0%	10.6%	5.7%	3.5%
	下連雀 5-9、上連雀 6-9、野崎 1	505	7.7%	22.0%	41.6%	17.6%	7.5%	3.6%
	井の頭	231	9.5%	27.7%	38.5%	13.4%	5.2%	5.6%
	牟礼、北野、新川 2-3	347	5.5%	19.0%	47.0%	17.9%	6.6%	4.0%
	新川 1、4-6、中原	396	5.1%	18.7%	46.0%	18.7%	8.1%	3.5%
	野崎 2-4、井口、深大寺	321	7.2%	20.2%	40.5%	21.5%	6.5%	4.0%
	大沢	188	6.9%	19.1%	45.7%	11.7%	11.7%	4.8%
所得段階	第 1～3 段階	688	6.0%	14.5%	41.6%	22.2%	12.4%	3.3%
	第 4～5 段階	860	5.5%	20.2%	47.7%	15.9%	6.4%	4.3%
	第 6 段階～	864	11.5%	30.0%	38.7%	12.0%	3.9%	3.9%
住居形態	持家	1,755	9.6%	27.2%	45.2%	12.3%	4.6%	1.1%
	借家	365	3.3%	8.5%	35.3%	31.2%	20.0%	1.6%
	公営住宅	176	.6%	10.2%	45.5%	31.8%	10.2%	1.7%
	その他	79	12.7%	20.3%	49.4%	12.7%	2.5%	2.5%
世帯構成	単身世帯	420	8.8%	18.1%	41.7%	19.0%	9.5%	2.9%
	夫婦二世帯	940	8.5%	25.1%	41.7%	14.5%	6.7%	3.5%
	子と同居	738	6.6%	20.9%	44.4%	16.9%	6.4%	4.7%
	子・孫と同居	181	8.3%	28.7%	42.0%	13.8%	5.5%	1.7%
	その他	122	7.4%	17.2%	47.5%	18.9%	6.6%	2.5%

注)クロス集計については、属性が不明なケースは除外して分析した。

6. 生活習慣

1) 外出頻度、閉じこもり

- 外出頻度は、「ほぼ毎日」43.0%、「週4～5日」25.1%、「週2～3日」19.6%、「週1日」4.2%、「それより少ない」5.4%という状況であった。
- 外出頻度が「週に1回未満」の場合は「閉じこもりのリスクが高い」と一般的にみなされるが、それに該当する人の割合は5.4%であった。これは平成22年の調査とほぼ同程度であった。
- 外出頻度が「週に1日未満」の閉じこもりが疑われる人は80歳以上で急増し、「85歳以上」の人では19.6%が閉じこもりのリスクが高い状態であった。
- 健康状態が低下すると閉じこもりも増え、「要介護3～5」の人では54.1%が外出は週に1日未満であった。
- 所得段階が低いほど閉じこもりの割合が高い傾向が見られ、「第1～3段階」の人では7.7%が外出は週に1日未満であった。
- 住居形態や世帯構成では、「その他」のカテゴリーの人で閉じこもりの割合が高かった。このカテゴリーは有料老人ホーム等の施設居住者が多く含まれるため、健康上の問題により外出頻度が少なくなっていると考えられる。

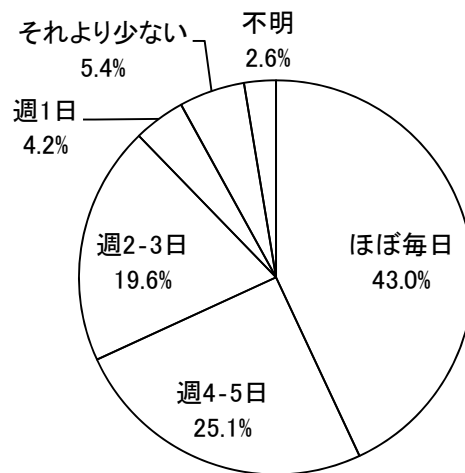


図1-6-1 外出頻度

表 1-6-1 外出頻度

		人数	ほぼ毎日	週 4,5 日	週 2,3 日	週 1 日	1日未満	不明
総 数		2,449	43.0%	25.1%	19.6%	4.2%	5.4%	2.6%
性別	男性	1,027	49.3%	21.6%	18.4%	3.8%	4.1%	2.8%
	女性	1,414	38.7%	27.5%	20.5%	4.5%	6.3%	2.5%
年齢階級	65～69 歳	606	59.1%	21.8%	13.2%	2.6%	2.3%	1.0%
	70～74 歳	620	47.9%	28.9%	15.5%	3.5%	2.4%	1.8%
	75～79 歳	518	42.5%	25.7%	22.0%	4.1%	2.5%	3.3%
	80～84 歳	412	30.3%	26.2%	25.7%	5.3%	8.0%	4.4%
	85 歳以上	285	18.6%	20.7%	29.1%	7.7%	19.6%	4.2%
認定状況	認定なし	2,101	47.7%	26.1%	18.0%	3.6%	2.5%	2.0%
	要支援 1・2	137	22.6%	21.2%	32.8%	10.2%	8.8%	4.4%
	要介護 1・2	113	10.6%	15.0%	33.6%	7.1%	23.9%	9.7%
	要介護 3～5	61	1.6%	16.4%	19.7%	1.6%	54.1%	6.6%
日常生活圏域	下連雀 1-4、上連雀 1-5	453	52.1%	23.2%	13.5%	2.2%	6.2%	2.9%
	下連雀 5-9、上連雀 6-9、野崎 1	505	44.4%	24.8%	20.2%	4.6%	3.8%	2.4%
	井の頭	231	34.2%	28.1%	20.8%	4.3%	8.7%	3.9%
	牟礼、北野、新川 2-3	347	43.5%	26.5%	17.6%	4.3%	6.3%	1.7%
	新川 1、4-6、中原	396	40.7%	23.0%	24.2%	5.8%	4.0%	2.3%
	野崎 2-4、井口、深大寺	321	40.2%	24.9%	21.5%	4.0%	5.3%	4.0%
	大沢	188	38.8%	28.2%	22.3%	4.8%	4.8%	1.1%
所得段階	第 1～3 段階	688	33.3%	24.1%	24.7%	5.8%	7.7%	4.4%
	第 4～5 段階	860	44.8%	28.5%	17.1%	3.4%	4.5%	1.7%
	第 6 段階～	864	50.0%	22.5%	18.1%	3.5%	3.8%	2.2%
住居形態	持家	1,755	43.6%	26.5%	19.4%	3.9%	4.4%	2.2%
	借家	365	47.1%	20.5%	19.5%	4.9%	4.4%	3.6%
	公営住宅	176	38.1%	26.7%	25.6%	4.0%	3.4%	2.3%
	その他	79	25.3%	11.4%	19.0%	10.1%	32.9%	1.3%
世帯構成	単身世帯	420	39.0%	27.9%	23.1%	4.5%	4.0%	1.4%
	夫婦二人世帯	940	47.1%	25.0%	18.2%	4.7%	3.1%	1.9%
	子と同居	738	44.0%	22.4%	20.2%	3.8%	5.7%	3.9%
	子・孫と同居	181	38.7%	33.1%	18.8%	.6%	7.2%	1.7%
	その他	122	27.9%	21.3%	18.0%	6.6%	23.8%	2.5%

注)クロス集計については、属性が不明なケースは除外して分析した。

2) 運動習慣

- 健康日本 21 では運動習慣者を増やすことが目標とされている。「運動習慣のある者」とは、1回30分以上の運動を週2回以上実施し、1年以上継続している者と定義され、平成24年の国民健康・栄養調査ではその割合は「60歳代・男性」43.2%、「70歳以上・男性」49.2%、「60歳代・女性」40.1%、「70歳以上・女性」36.9%と報告されている^(注)。今回の三鷹市の調査では、このような運動習慣者の割合は50.9%で、国民健康・栄養調査の65歳以上男女における運動習慣者の割合よりも高かった。
- 性別にみると運動習慣者の割合は「男性」56.5%、「女性」47.0%で、男性の方が運動習慣者の割合が高かった。
- 年齢階級別では「70～74歳」で58.7%と最も運動習慣者の割合が高く、次いで「75～79歳」の54.2%で、それ以降は年齢が高くなるに従って運動習慣者の割合は低下した。
- 健康状態が低下すると運動習慣者の割合は低下し、「認定を受けていない人」では運動習慣者は54.2%であったが、要介護度が重くなるに従って、その割合は低下した。
- 日常生活圏域別では、「大沢」で運動習慣者の割合が高かった（58.5%）。
- 所得段階別では、「第6段階以上」の人で運動習慣者の割合が56.6%と高かった。
- 住居形態や世帯構成では、「その他」のカテゴリーの人で運動習慣者の割合が低かった。

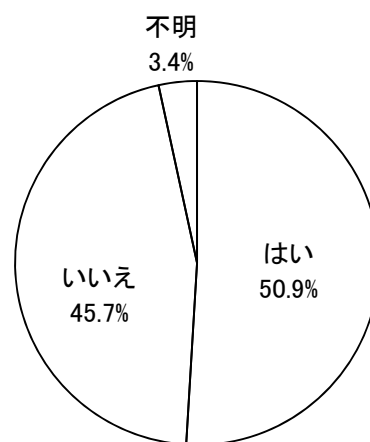


図1-6-2 週に2回以上、1回あたり30分以上の運動を1年以上続けているか

注)厚生労働省.平成25年12月.「平成24年国民健康・栄養調査」の結果

<http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000032074.html>

表 1-6-2 週に2回以上、1回あたり30分以上の運動を1年以上続けているか

		人数	はい	いいえ	不明
総数		2,449	51.0%	45.7%	3.4%
性別	男性	1,027	56.5%	41.2%	2.3%
	女性	1,414	47.0%	48.8%	4.2%
年齢階級	65～69歳	606	52.5%	45.7%	1.8%
	70～74歳	620	58.7%	38.9%	2.4%
	75～79歳	518	54.2%	42.1%	3.7%
	80～84歳	412	46.4%	48.3%	5.3%
	85歳以上	285	31.9%	62.5%	5.6%
認定状況	認定なし	2,101	54.2%	42.7%	3.0%
	要支援 1・2	137	34.3%	61.3%	4.4%
	要介護 1・2	113	31.9%	61.1%	7.1%
	要介護 3～5	61	11.5%	82.0%	6.6%
日常生活圏域	下連雀 1-4、上連雀 1-5	453	51.2%	45.3%	3.5%
	下連雀 5-9、上連雀 6-9、野崎 1	505	51.7%	45.3%	3.0%
	井の頭	231	55.8%	39.8%	4.3%
	牟礼、北野、新川 2-3	347	49.0%	48.1%	2.9%
	新川 1、4-6、中原	396	47.0%	50.5%	2.5%
	野崎 2-4、井口、深大寺	321	48.9%	46.7%	4.4%
	大沢	188	58.5%	37.2%	4.3%
所得段階	第1～3段階	688	48.0%	47.7%	4.4%
	第4～5段階	860	47.7%	48.7%	3.6%
	第6段階～	864	56.6%	41.0%	2.4%
住居形態	持家	1,755	53.2%	44.0%	2.7%
	借家	365	47.1%	48.8%	4.1%
	公営住宅	176	45.5%	50.6%	4.0%
	その他	79	34.2%	60.8%	5.1%
世帯構成	単身世帯	420	50.5%	47.1%	2.4%
	夫婦二世帯	940	56.1%	41.5%	2.4%
	子と同居	738	47.2%	48.1%	4.7%
	子・孫と同居	181	46.4%	51.9%	1.7%
	その他	122	43.4%	50.8%	5.7%

注)クロス集計については、属性が不明なケースは除外して分析した。

3) 食生活

- 食生活の問題について、Nutrition Screening Initiative (NSI) という指標を用いて調べた。最も多くの方が該当した問題は「日に3種類以上の薬を飲んでいる」で、50.9%の方が該当した。次いで、「一人で食事をすることが多い」31.4%、「お金のことが気になって食べ物を買うことを控えることがある」19.1%であった。
- これらの項目のリスクが「ひとつもない人」は非常に少なく(1.0%)、「1項目該当」21.6%、「2項目該当」32.0%、「3項目該当」23.3%、「4項目該当」10.7%、「5項目該当」5.6%、「6項目以上該当」5.8%という状況であった。該当項目数の平均は、2.7項目であった。
- リスクありの項目数の平均を属性別にみると、性別では差がなかったが、年齢階級別では高齢になるほど食生活におけるリスクの数が増える傾向がみられた。
- 認定状況別では、「認定を受けていない人」ではリスクの平均該当数は2.5であるのに対して、「要支援1、2」は3.9、「要介護1～5」は4.1で、要支援や要介護の認定を受けている人で食生活の問題が多いことがうかがえる。
- 日常生活圏域別では、特に違いは見当たらなかった。
- 所得段階別では、「第1～3段階」の人では平均3.3で、食生活上の問題が多かった。
- 住居形態別では、「借家」や「公営住宅」の居住者で食生活上の問題が多かった。
- 世帯構成では、「単身世帯」の人では孤食に該当する人が多いため、食生活上のリスクの該当数も他の世帯構成の人より1項目分多かった。

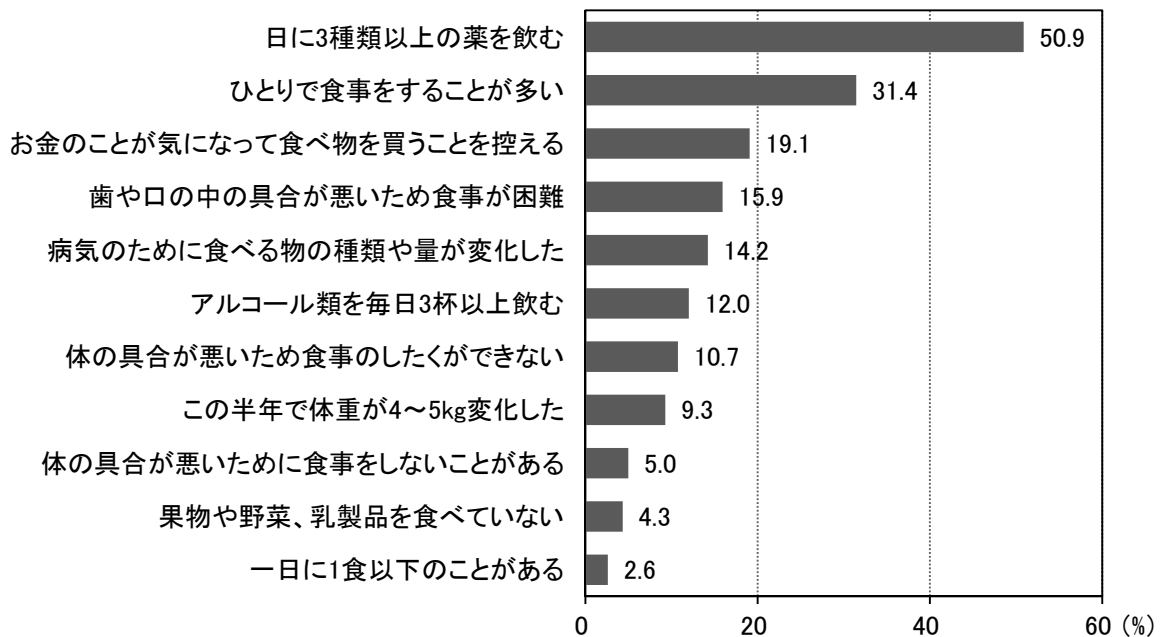


図1-6-3 食生活の調査項目(NSI)における「リスクあり」の割合

表 1-6-3 食生活におけるリスクの数の平均値

		人数	平均
総数		2,449	2.7
性別	男性	1,027	2.7
	女性	1,414	2.6
年齢階級	65～69歳	606	2.3
	70～74歳	620	2.4
	75～79歳	518	2.7
	80～84歳	412	3.1
	85歳以上	285	3.2
認定状況	認定なし	2,101	2.5
	要支援 1・2	137	3.9
	要介護 1・2	113	4.1
	要介護 3～5	61	4.1
日常生活圏域	下連雀 1-4、上連雀 1-5	453	2.5
	下連雀 5-9、上連雀 6-9、野崎 1	505	2.7
	井の頭	231	2.5
	牟礼、北野、新川 2-3	347	2.6
	新川 1、4-6、中原	396	2.8
	野崎 2-4、井口、深大寺	321	2.8
	大沢	188	2.6
所得段階	第 1～3 段階	688	3.3
	第 4～5 段階	860	2.4
	第 6 段階～	864	2.5
住居形態	持家	1,755	2.5
	借家	365	3.2
	公営住宅	176	3.1
	その他	79	2.7
世帯構成	単身世帯	420	3.5
	夫婦二世帯	940	2.3
	子と同居	738	2.6
	子・孫と同居	181	2.5
	その他	122	2.8

注)クロス集計については、属性が不明なケースは除外して分析した。

7. 家族

1) 同居家族

- 同居家族は「配偶者」が最も多く、60.4%であった。「息子」「娘」はどちらも19%程度で、「孫」と暮らしている人は7.6%であった。
- 世帯構成は、「夫婦二世帯」が最多で38.4%、次いで「二世帯（子と同居）」30.1%であった。「単身世帯（ひとり暮らし）」は17.1%であった。
- 単身世帯は、「女性」21.5%、「男性」11.2%で、女性が男性の2倍であった。
- 80歳以上で単身世帯の割合が増え、「80～84歳」19.9%、「85歳以上」22.1%であった。
- 「要支援認定者」で単身世帯が多く、約4割は単身世帯であった。
- 「下連雀5-9、上連雀6-9、野崎1丁目」地域で単身世帯の割合が比較的高く（21.6%）、「大沢」で低かった（13.3%）。
- 所得段階が低いほど単身世帯が多く、「第1～3段階」では36.6%が単身世帯であった。
- 「借家」や「公営住宅」で単身世帯が多かった（36.7%と33.5%）。

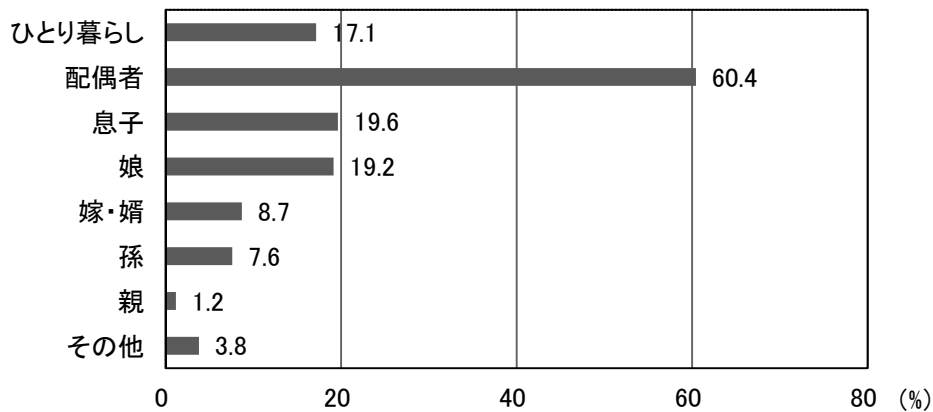


図1-7-1 同居家族（複数回答）

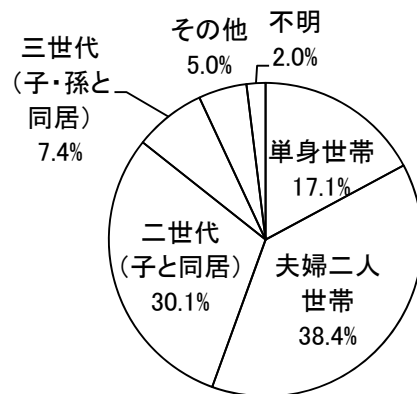


図1-7-2 世帯構成

表 1-7-1 世帯構成

		人数	単身	夫婦	二世帯	三世帯	その他	不明
総数		2,449	17.1%	38.4%	30.1%	7.4%	5.0%	2.0%
性別	男性	1,027	11.2%	49.4%	27.8%	5.8%	3.9%	1.9%
	女性	1,414	21.5%	30.3%	31.8%	8.6%	5.8%	2.0%
年齢階級	65～69歳	606	15.3%	43.7%	26.9%	5.6%	6.4%	2.0%
	70～74歳	620	16.3%	45.6%	26.1%	7.7%	3.2%	1.0%
	75～79歳	518	15.4%	41.7%	30.3%	7.9%	3.1%	1.5%
	80～84歳	412	19.9%	31.8%	31.3%	9.0%	5.1%	2.9%
	85歳以上	285	22.1%	14.4%	43.5%	7.4%	9.1%	3.5%
認定状況	認定なし	2,101	16.0%	40.6%	30.3%	7.6%	3.8%	1.7%
	要支援 1・2	137	38.7%	25.5%	24.1%	3.6%	4.4%	3.6%
	要介護 1・2	113	20.4%	23.0%	31.9%	8.0%	15.0%	1.8%
	要介護 3～5	61	0.0%	16.4%	47.5%	11.5%	19.7%	4.9%
日常生活圏域	下連雀 1-4、上連雀 1-5	453	17.4%	34.4%	31.1%	8.8%	6.0%	2.2%
	下連雀 5-9、上連雀 6-9、野崎 1	505	21.6%	40.6%	26.1%	5.1%	4.2%	2.4%
	井の頭	231	11.3%	41.6%	31.2%	8.2%	6.1%	1.7%
	牟礼、北野、新川 2-3	347	16.7%	41.5%	30.5%	6.6%	3.5%	1.2%
	新川 1、4-6、中原	396	18.2%	37.6%	30.1%	7.3%	5.3%	1.5%
	野崎 2-4、井口、深大寺	321	15.6%	33.6%	34.9%	7.5%	6.2%	2.2%
	大沢	188	13.3%	41.5%	28.2%	10.6%	3.7%	2.7%
所得段階	第 1～3 段階	688	36.6%	19.2%	26.6%	7.7%	6.3%	3.6%
	第 4～5 段階	860	8.7%	44.3%	34.9%	7.3%	3.6%	1.2%
	第 6 段階～	864	9.8%	47.6%	29.2%	7.5%	4.7%	1.2%
住居形態	持家	1,755	11.7%	40.2%	33.6%	9.4%	4.0%	1.0%
	借家	365	36.7%	30.1%	22.7%	3.0%	3.3%	4.1%
	公営住宅	176	33.5%	44.3%	18.2%	1.1%	1.1%	1.7%
	その他	79	16.5%	27.8%	6.3%	2.5%	40.5%	6.3%

注)クロス集計については、属性が不明なケースは除外して分析した。

2) 日中独居

- 日中のほとんどの時間、一人になることが「よくある」という人が 36.4%、「たまにある」29.8%、「ほとんどない」30.6%で、いわゆる日中独居の人は4割弱であった。
- 日中独居の割合は「女性」41.4%、「男性」29.6%で、女性の方が男性よりも割合が高かった。
- 高齢になるほど日中独居の割合が増える傾向にあり、「85歳以上」では43.9%が日中独居であった。
- 認定状況別では「要支援認定者」で最も割合が高く、56.9%が日中独居であった。これは、要支援認定者で単身世帯の人が多いためである。
- 居住地域に関しては、下連雀・上連雀地域で若干、日中独居の割合が高い傾向があったが、大きな差ではなかった。
- 所得段階では、「第1～3段階」の人で日中独居の割合が高かった（52.0%）。
- 住居別では、「借家」や「公営住宅」で日中独居の割合が高い傾向がみられた（49.0%と48.9%）。
- 世帯構成別では、「単身世帯」では77.9%が日中独居であったが、三世代家族でも3割の人は日中独居であった。

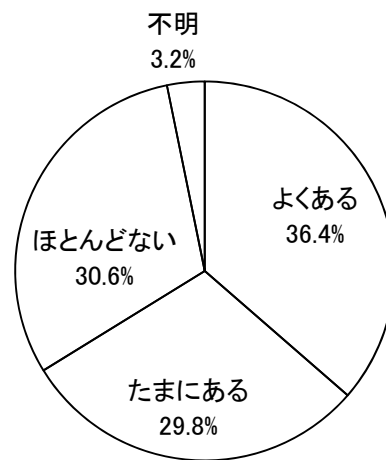


図1-7-3 日中のほとんどの時間、一人になることがあるか

表 1-7-2 日中独居

		人数	よくある	たまにある	ほとんどない	不明
総数		2,449	36.4%	29.8%	30.6%	3.2%
性別	男性	1,027	29.6%	33.7%	34.0%	2.7%
	女性	1,414	41.4%	27.1%	27.9%	3.6%
年齢階級	65～69歳	606	36.8%	26.9%	34.0%	2.3%
	70～74歳	620	31.3%	34.2%	32.6%	1.9%
	75～79歳	518	36.3%	31.7%	29.9%	2.1%
	80～84歳	412	38.8%	28.9%	26.0%	6.3%
	85歳以上	285	43.9%	24.9%	25.6%	5.6%
認定状況	認定なし	2,101	35.6%	30.4%	31.2%	2.9%
	要支援 1・2	137	56.9%	27.0%	12.4%	3.6%
	要介護 1・2	113	33.6%	31.0%	27.4%	8.0%
	要介護 3～5	61	29.5%	23.0%	44.3%	3.3%
日常生活圏域	下連雀 1-4、上連雀 1-5	453	38.6%	31.1%	27.4%	2.9%
	下連雀 5-9、上連雀 6-9、野崎 1	505	38.6%	26.7%	31.3%	3.4%
	井の頭	231	33.8%	30.7%	32.5%	3.0%
	牟礼、北野、新川 2-3	347	35.4%	32.3%	30.0%	2.3%
	新川 1、4-6、中原	396	36.4%	27.8%	33.1%	2.8%
	野崎 2-4、井口、深大寺	321	35.8%	30.8%	29.0%	4.4%
	大沢	188	31.9%	32.4%	30.9%	4.8%
所得段階	第 1～3 段階	688	52.0%	23.8%	18.2%	6.0%
	第 4～5 段階	860	29.5%	31.7%	36.4%	2.3%
	第 6 段階～	864	31.1%	33.2%	33.8%	1.9%
住居形態	持家	1,755	32.8%	32.0%	33.0%	2.2%
	借家	365	49.0%	23.6%	21.6%	5.8%
	公営住宅	176	48.9%	23.3%	25.0%	2.8%
	その他	79	35.4%	25.3%	32.9%	6.3%
世帯構成	単身世帯	420	77.9%	12.1%	4.8%	5.2%
	夫婦二人世帯	940	22.8%	36.9%	39.7%	0.6%
	子と同居	738	33.3%	30.6%	34.6%	1.5%
	子・孫と同居	181	30.4%	38.7%	30.9%	0.0%
	その他	122	33.6%	27.9%	33.6%	4.9%

注)クロス集計については、属性が不明なケースは除外して分析した。

3) 介護状況

- 現在、家族の介護をしている人は8.1%であった。
- 介護をしているか否かについて、性差はほとんどなかった。
- 年齢は「65～69歳」で介護をしている人の割合が最も高く、12.0%であった。
- 認定状況別では、「要支援認定者」で最も介護をしている人の割合が高く、自らも支援を要するにもかかわらず、家族の介護もしている人が1割程度いることがわかった。
- その他の属性については顕著な傾向は見いだせなかったが、世帯構成が「その他」に分類された人で、介護をしている割合が17.2%と高い傾向がみられた。

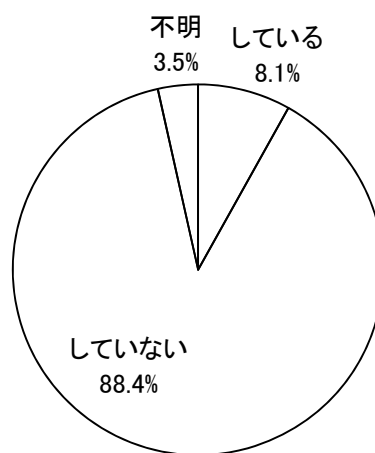


図1-7-4 現在、家族の介護をしているか

表 1-7-3 現在、家族の介護をしているか(同別居は問わない)

		人数	している	していない	不明
総数		2,449	8.1%	88.4%	3.5%
性別	男性	1,027	7.6%	89.1%	3.3%
	女性	1,414	8.6%	87.8%	3.6%
年齢階級	65～69歳	606	12.0%	85.3%	2.6%
	70～74歳	620	7.7%	90.2%	2.1%
	75～79歳	518	5.6%	90.0%	4.4%
	80～84歳	412	8.3%	87.4%	4.4%
	85歳以上	285	5.3%	89.5%	5.3%
認定状況	認定なし	2,101	7.8%	89.1%	3.1%
	要支援 1・2	137	13.9%	81.8%	4.4%
	要介護 1・2	113	8.0%	86.7%	5.3%
	要介護 3～5	61	8.2%	83.6%	8.2%
日常生活圏域	下連雀 1-4、上連雀 1-5	453	9.1%	87.0%	4.0%
	下連雀 5-9、上連雀 6-9、野崎 1	505	8.3%	88.5%	3.2%
	井の頭	231	10.0%	87.0%	3.0%
	牟礼、北野、新川 2-3	347	7.8%	87.9%	4.3%
	新川 1、4-6、中原	396	5.8%	90.9%	3.3%
	野崎 2-4、井口、深大寺	321	8.4%	87.9%	3.7%
	大沢	188	8.5%	89.4%	2.1%
所得段階	第 1～3 段階	688	7.6%	87.6%	4.8%
	第 4～5 段階	860	9.4%	87.0%	3.6%
	第 6 段階～	864	7.3%	90.6%	2.1%
住居形態	持家	1,755	8.5%	89.1%	2.5%
	借家	365	6.3%	87.9%	5.8%
	公営住宅	176	8.5%	88.1%	3.4%
	その他	79	5.1%	91.1%	3.8%
世帯構成	単身世帯	420	3.1%	94.3%	2.6%
	夫婦二世帯	940	9.3%	88.8%	1.9%
	子と同居	738	8.1%	89.0%	2.8%
	子・孫と同居	181	8.8%	90.1%	1.1%
	その他	122	17.2%	78.7%	4.1%

注)クロス集計については、属性が不明なケースは除外して分析した。

8. 社会関係

1) 社会的孤立・心理的孤独

- 「別居子や親戚」「友人」「近所の人」と会ったり、電話やメールなどで連絡をとる頻度や、「町内会・自治会・老人クラブ」「趣味関係、スポーツ、学習・教養のグループやクラブ・サークル」「ボランティアのグループ」への参加頻度のいずれも月に1回より少ないか、まったくない場合を『社会的孤立』と定義したところ、5.7%が社会的孤立に該当した。平成22年の調査では社会的孤立が疑われた人は12.7%であったが、今回の調査では交流手段の中にメールでのやりとりも含めたためか、社会的孤立が疑われる人の割合は減少していた。
- 「人づきあいが足りないと感じる」「疎外されているように感じる」「他の人たちから孤立していると感じる」の3項目すべてについて、「時々、または、よくある」と答えた人を『心理的孤独』と定義したところ、11.0%が該当した。この割合は平成22年の調査結果とほぼ同じであった。
- 社会的孤立は、男性の方が女性よりも割合が高かった。心理的孤独については、顕著な性差はなかった。
- 高齢になるほど社会的孤立は増加する傾向にあり、「85歳以上」では11.2%が該当した。心理的孤独については、目立った年齢差は見当たらなかった。
- 要介護度が重くなるに従って社会的孤立の割合が増加し、「要介護3～5」では16.4%が該当した。心理的孤独については要支援・要介護認定者で多く、「認定なし」の人では9.6%であるのに対して、「要支援1,2」では22.9%、「要介護1,2」では17.8%、「要介護3～5」では36.0%が、心理的孤独が疑われる状況であった。
- 日常生活圏域別では、「大沢」で社会的孤立の割合が1.6%と低かった。
- 所得段階別では、社会的孤立・心理的孤独とも「第1～3段階」の人が多かった。
- 住宅別では、社会的孤立・心理的孤独とも「借家」で該当者率が高かった。
- 世帯構成別では、社会的孤立については顕著な差は見当たらなかったが、心理的孤独に関しては「単身世帯」で該当者が17.0%と高い傾向が見られた。

表1-8-1 社会的孤立の状況

	週に 2回以上	週に 1回	月に 2-3回	月に 1回	月1回 未満	ほとんど ない	不明
別居子や親戚との交流頻度	25.9%	14.7%	15.3%	16.0%	9.6%	13.8%	4.7%
友人との交流頻度	25.4%	13.6%	17.1%	12.7%	8.6%	19.4%	3.1%
近所の人との交流頻度	25.2%	13.5%	9.9%	7.1%	5.5%	35.4%	3.5%
地域組織への参加	0.7%	2.6%	3.2%	5.7%	8.0%	77.6%	2.3%
趣味等のグループへの参加	6.0%	13.2%	11.5%	12.7%	3.7%	50.6%	2.3%
ボランティアのグループへの参加	0.7%	1.4%	2.2%	3.9%	4.0%	85.3%	2.7%
社会的孤立 (上記のいずれも月に1回未満か、まったくない人)	5.7%						

注) 総数: 2,449人

交流頻度は、会ったり、電話やメールなどで連絡をとる頻度を質問した。

「地域組織」は町内会、自治会、老人クラブを、「趣味等のグループ」は趣味関係、スポーツ、学習・教養のグループやクラブについて質問した。

表1-8-2 心理的孤独

	ほとんどない	時々ある	よくある	不明
人づきあいが足りないと感じる事	55.9%	28.3%	12.5%	3.3%
疎外されているように感じる事	81.7%	11.7%	2.8%	3.8%
他の人たちから孤立していると感じる事	78.4%	14.3%	3.4%	3.9%
心理的孤独 (上記のいずれも時々またはよくある人)	11.0%			

注) 総数: 2,449人

表 1-8-3 社会的孤立と心理的孤独

		人数	社会的孤立	心理的孤独
総数		2,449	5.7%	11.0%
性別	男性	1,027	8.0%	12.8%
	女性	1,414	4.3%	10.4%
年齢階級	65～69歳	606	5.4%	10.5%
	70～74歳	620	4.6%	10.3%
	75～79歳	518	4.1%	11.6%
	80～84歳	412	7.1%	14.0%
	85歳以上	285	11.2%	12.0%
認定状況	認定なし	2,101	4.8%	9.6%
	要支援 1・2	137	11.9%	22.9%
	要介護 1・2	113	12.7%	17.8%
	要介護 3～5	61	16.4%	36.0%
日常生活圏域	下連雀 1-4、上連雀 1-5	453	5.7%	10.8%
	下連雀 5-9、上連雀 6-9、野崎 1	505	7.3%	10.8%
	井の頭	231	5.8%	8.6%
	牟礼、北野、新川 2-3	347	5.3%	12.2%
	新川 1、4-6、中原	396	8.0%	11.2%
	野崎 2-4、井口、深大寺	321	4.2%	15.7%
	大沢	188	1.6%	10.1%
所得段階	第 1～3 段階	688	8.4%	13.9%
	第 4～5 段階	860	5.1%	9.1%
	第 6 段階～	864	4.6%	11.5%
住居形態	持家	1,755	5.0%	9.5%
	借家	365	10.6%	18.7%
	公営住宅	176	2.9%	13.8%
	その他	79	6.8%	17.8%
世帯構成	単身世帯	420	6.0%	17.0%
	夫婦二世帯	940	4.1%	9.5%
	子と同居	738	7.8%	11.0%
	子・孫と同居	181	6.2%	9.1%
	その他	122	7.6%	11.9%

注)クロス集計については、属性が不明なケースは除外して分析した。

2) 社会的支援

- 日常生活で、ちょっとした手助けが必要な時に手助けしてくれる人（手段的支援）は、「家族・親戚」が最も多く（80.0%）、次いで「近隣の人」14.5%、「友人・知人」11.8%で、「誰もいない」は7.3%であった。
- 話を聴いてくれたり、理解してくれる人（情緒的支援）は、「家族・親戚」が最も多く（83.7%）、次いで「友人・知人」で（37.6%）、「誰もいない」は3.6%であった。
- 健康・生活・福祉のことで相談にのってくれたり、情報を提供してくれる人（情動的支援）も、「家族・親戚」が最も多く（75.1%）、次いで「友人・知人」で（28.5%）、「誰もいない」は8.0%であった。
- 同居家族以外で、定期的に（週に1回以上）様子を見に来てくれたり、電話等で連絡してくれる人（安否確認）は、「家族・親戚」47.4%、「友人・知人」17.7%、「近隣の人」8.9%で、「誰もいない人」は18.8%であった。
- いずれの支援も男性の方が女性よりも「誰もいない人」の割合が高く、特に「安否確認」については男性の2割が誰もいないと答えていた。
- 手段的支援、情緒的支援、情動的支援については、高齢になるに従って、また要介護度が重くなるに従って「誰もいない人」の割合は低下する傾向がうかがえた。しかし安否確認については、高齢または要介護度が重くなったとしても「誰もいない人」の割合が減るわけではなかった。
- 日常生活圏域別では、支援の種類によって傾向が異なっていた。
- 所得段階別では、手段的支援、情緒的支援、情動的支援は「第1～3段階」で誰もいない人の割合が高かったが、安否確認は「第6段階以上」で誰もいない人の割合が高かった。
- 住宅別では、すべての支援について「借家」の人で誰もいない人の割合が最も高かった。
- 世帯構成別では、「単身世帯」でいずれの支援についても誰もいない人の割合が高かった。単身世帯で安否確認をしてくれる人が誰もいない人は、17.6%であった。

表1-8-4 社会的支援

	家族 親戚	近隣の人	友人 知人	ヘルパー・ケア マネジャー	その他	誰も いない
日常生活でちょっとした手助けをしてくれる人	80.0%	14.5%	11.8%	5.7%	3.3%	7.3%
話を聴いてくれたり、理解してくれる人	83.7%	15.8%	37.6%	5.5%	2.4%	3.6%
健康・生活・福祉の相談にのってくれたり情報を提供してくれる人	75.1%	14.1%	28.5%	8.5%	4.0%	8.0%
定期的に（週に1回以上）様子を見に来てくれたり、電話等で連絡してくれる人（同居家族以外）	47.4%	8.9%	17.7%	5.1%	2.5%	18.8%

注) 複数回答

表 1-8-5 社会的支援(誰もいない人の割合)

		人数	手段的支援	情緒的支援	情報の支援	安否確認
総数		2,449	7.3%	3.6%	8.0%	18.8%
性別	男性	1,027	9.3%	5.0%	11.2%	20.3%
	女性	1,414	5.9%	2.6%	5.7%	10.0%
年齢階級	65～69歳	606	9.4%	4.8%	10.4%	18.3%
	70～74歳	620	9.2%	4.0%	10.0%	12.6%
	75～79歳	518	6.6%	3.5%	7.9%	14.3%
	80～84歳	412	5.1%	3.2%	6.1%	12.1%
	85歳以上	285	3.9%	1.1%	1.8%	12.6%
認定状況	認定なし	2,101	7.8%	3.9%	8.7%	14.9%
	要支援 1・2	137	8.8%	2.2%	6.6%	9.5%
	要介護 1・2	113	3.5%	1.8%	3.5%	11.5%
	要介護 3～5	61	0.0%	1.6%	0.0%	13.1%
日常生活圏域	下連雀 1-4、上連雀 1-5	453	6.8%	3.3%	6.8%	12.6%
	下連雀 5-9、上連雀 6-9、野崎 1	505	7.7%	4.0%	8.5%	13.3%
	井の頭	231	6.5%	2.6%	5.6%	14.7%
	牟礼、北野、新川 2-3	347	7.5%	2.3%	6.9%	15.0%
	新川 1、4-6、中原	396	8.6%	6.3%	10.1%	14.9%
	野崎 2-4、井口、深大寺	321	5.3%	1.2%	6.5%	14.3%
	大沢	188	9.6%	5.3%	12.8%	18.1%
所得段階	第 1～3 段階	688	10.3%	6.0%	10.9%	13.2%
	第 4～5 段階	860	5.7%	2.4%	6.6%	11.7%
	第 6 段階～	864	6.9%	3.0%	7.4%	18.1%
住居形態	持家	1,755	5.3%	2.5%	6.5%	14.0%
	借家	365	18.1%	7.7%	15.3%	17.8%
	公営住宅	176	8.0%	6.3%	9.7%	13.1%
	その他	79	2.5%	1.3%	6.3%	5.1%
世帯構成	単身世帯	420	22.4%	10.2%	16.9%	17.6%
	夫婦二人世帯	940	5.5%	3.0%	7.3%	14.4%
	子と同居	738	3.0%	1.8%	5.8%	14.5%
	子・孫と同居	181	1.7%	0.6%	1.7%	9.9%
	その他	122	4.1%	0.8%	5.7%	9.8%

注)クロス集計については、属性が不明なケースは除外して分析した。

9. 社会活動・社会参加

1) 就労

- 収入のある仕事の頻度について調べた結果、「週4回以上」13.0%、「週2～3回」7.5%、「週1回」2.4%、「月に1～3回」3.2%、「年に数回」1.6%、「していない」69.7%であった。全体の約7割が「していない」という結果となった。平成24年の国民生活基礎調査では、65歳以上の「仕事あり」の割合は24.2%であった^(注)。本調査では仕事を「月に1回以上」している人が26.1%、「週1回以上」している人が22.9%であったので、国民生活基礎調査の結果との大きな違いはないと言えるだろう。
- 性別では、仕事をしていない人は「男性」60.9%、「女性」76.0%で、男性の方が仕事をしていることがわかる。
- 年齢階級別にみると、仕事をしていない人の割合は「65～69歳」では52.3%で、半数近くが多少とも仕事をしていたが、高齢になるに従って仕事をしていない人の割合が高くなり、「85歳以上」では9割が仕事をしていなかった。
- 日常生活圏域別にみると、仕事をしていない人の割合が最も低かったのは「野崎2-4、井口、深大寺」であった(63.9%)。その他の地域では、仕事をしていない人の割合に顕著な違いが見られなかった。
- 所得段階別にみると、「第1～3段階」と「第4～5段階」ではさほど違いがなかったが、「第6段階以上」の人では仕事をしていない人は57.4%と少なく、「週に4回以上」仕事をしている人が22.7%いて、仕事をしている人が多いことがうかがえた。

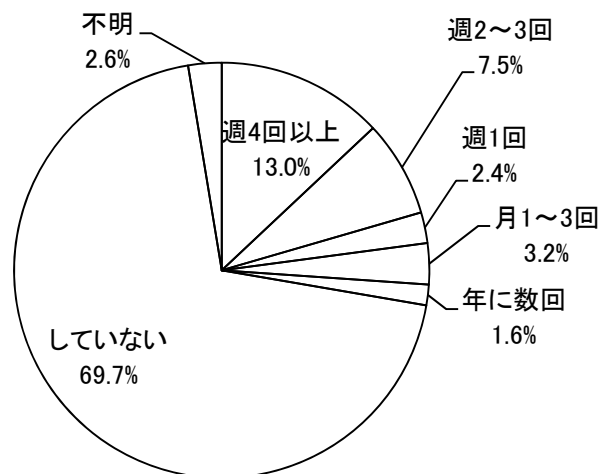


図1-9-1 収入のある仕事をしているか

注)厚生労働省、「平成24年国民生活基礎調査の概況」の「結果の概要」

<http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/k-tyosa/k-tyosa12/dl/02.pdf>

表 1-9-1 収入のある仕事の頻度

		人数	週4回 以上	週2～ 3回	週1回	月1～ 3回	年に 数回	して いない	不明
総数		2,449	13.0%	7.5%	2.4%	3.2%	1.6%	69.7%	2.6%
性別	男性	1,027	18.7%	9.7%	2.2%	3.9%	2.2%	60.9%	2.3%
	女性	1,414	8.9%	5.9%	2.4%	2.8%	1.1%	76.0%	2.8%
年齢階級	65～69歳	606	24.4%	13.0%	2.8%	3.3%	2.1%	52.3%	2.0%
	70～74歳	620	15.8%	9.5%	3.2%	4.0%	1.9%	63.2%	2.3%
	75～79歳	518	8.9%	5.4%	2.5%	3.5%	1.9%	75.3%	2.5%
	80～84歳	412	4.6%	3.2%	1.2%	2.9%	1.0%	83.0%	4.1%
	85歳以上	285	2.5%	1.8%	0.7%	1.4%	0.0%	90.9%	2.8%
認定状況	認定なし	2,101	14.9%	8.6%	2.6%	3.6%	1.8%	65.9%	2.5%
	要支援1・2	137	0.7%	1.5%	1.5%	1.5%	0.7%	90.5%	3.6%
	要介護1・2	113	0.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	95.6%	3.5%
	要介護3～5	61	0.0%	1.6%	0.0%	0.0%	0.0%	96.7%	1.6%
日常生活圏域	下連雀1-4、上連雀1-5	453	14.3%	6.8%	1.8%	2.2%	2.4%	71.1%	1.3%
	下連雀5-9、上連雀6-9、野崎1	505	9.9%	8.1%	2.6%	3.2%	1.4%	71.9%	3.0%
	井の頭	231	12.1%	6.9%	3.5%	3.0%	0.9%	69.3%	4.3%
	牟礼、北野、新川2-3	347	12.1%	9.2%	3.2%	2.3%	1.7%	70.0%	1.4%
	新川1、4-6、中原	396	13.6%	5.8%	1.3%	3.5%	1.8%	70.7%	3.3%
	野崎2-4、井口、深大寺	321	16.2%	7.5%	2.5%	5.6%	1.6%	63.9%	2.8%
	大沢	188	14.4%	9.0%	2.1%	3.2%	0.5%	67.6%	3.2%
所得段階	第1～3段階	688	6.7%	7.4%	1.7%	3.2%	1.0%	76.2%	3.8%
	第4～5段階	860	8.6%	5.3%	2.4%	3.0%	1.7%	76.3%	2.6%
	第6段階～	864	22.7%	10.1%	2.8%	3.5%	2.0%	57.4%	1.6%
住居形態	持家	1,755	12.5%	7.1%	2.7%	3.4%	1.7%	70.8%	1.8%
	借家	365	16.7%	9.9%	2.2%	3.3%	1.6%	62.2%	4.1%
	公営住宅	176	10.2%	8.0%	0.6%	2.3%	1.7%	72.2%	5.1%
	その他	79	6.3%	3.8%	0.0%	2.5%	1.3%	83.5%	2.5%
世帯構成	単身世帯	420	10.5%	8.3%	2.1%	2.4%	1.4%	71.2%	4.0%
	夫婦二世帯	940	13.9%	8.3%	2.9%	3.8%	1.7%	68.0%	1.4%
	子と同居	738	14.6%	6.4%	2.2%	2.3%	1.6%	70.6%	2.3%
	子・孫と同居	181	12.2%	5.5%	2.8%	6.1%	1.7%	68.5%	3.3%
	その他	122	7.4%	8.2%	0.8%	2.5%	1.6%	76.2%	3.3%

注)クロス集計については、属性が不明なケースは除外して分析した。

2) ボランティア活動

- ボランティアグループへの参加頻度について調べた結果、「週4回以上」0.7%、「週2～3回」1.4%、「週1回」2.2%、「月に1～3回」3.9%、「年に数回」4.0%、「していない」85.1%であった。
- 「性別」「所得段階」「住居形態」「世帯構成」では、ボランティアグループに参加しているかどうかの違いは見られなかった。
- 日常生活圏域別に見てみると、ボランティアグループに参加している人の割合は、「大沢」地域が他の地域に比べて高かった。
- ボランティア活動の中でも、地域の高齢者や子どもなどを支援する活動への参加頻度について調べた結果、「週4回以上」1.0%、「週2～3回」1.5%、「週1回」2.0%、「月に1～3回」2.8%、「年に数回」2.9%、「していない」87.1%であった。
- 日常生活圏域別に見てみると、地域の高齢者や子どもなどを支援する活動に参加している人の割合は、「大沢」で他の地域に比べて高かった。
- 地域の生活環境を改善・美化する活動への参加頻度については、「週4回以上」0.6%、「週2～3回」0.8%、「週1回」1.3%、「月に1～3回」3.4%、「年に数回」4.1%、「していない」86.9%であった。
- 住居形態別に見てみると、地域の生活環境を改善・美化する活動への参加率は「公営住宅」で最も高かった。「公営住宅」という住居形態の性格上、生活環境を改善・美化する活動への参加協力が求められている可能性が考えられる。

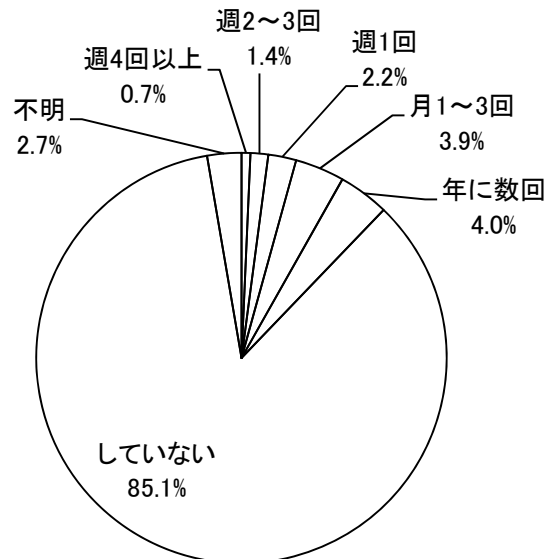


図1-9-2 ボランティアグループへの参加頻度

表 1-9-2 ボランティアグループへの参加頻度

		人数	週4回 以上	週2～ 3回	週1回	月1～ 3回	年に 数回	して いない	不明
総数		2,449	0.7%	1.4%	2.2%	3.9%	4.0%	85.1%	2.7%
性別	男性	1,027	1.0%	1.5%	1.9%	3.4%	4.9%	85.7%	1.8%
	女性	1,414	0.4%	1.3%	2.4%	4.2%	3.3%	84.9%	3.3%
年齢階級	65～69歳	606	0.5%	1.2%	4.0%	3.3%	4.6%	85.0%	1.5%
	70～74歳	620	1.0%	0.8%	2.3%	4.2%	5.2%	84.4%	2.3%
	75～79歳	518	1.0%	2.1%	1.9%	6.2%	3.9%	82.0%	2.9%
	80～84歳	412	0.2%	1.9%	1.0%	3.2%	2.9%	86.2%	4.6%
	85歳以上	285	0.4%	1.1%	0.4%	1.4%	1.8%	92.3%	2.8%
認定状況	認定なし	2,101	0.8%	1.5%	2.4%	4.3%	4.3%	84.2%	2.5%
	要支援1・2	137	0.0%	0.0%	1.5%	2.2%	2.2%	88.3%	5.8%
	要介護1・2	113	0.0%	2.7%	0.0%	0.9%	0.9%	93.8%	1.8%
	要介護3～5	61	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	98.4%	1.6%
日常生活圏域	下連雀1-4、上連雀1-5	453	0.9%	1.3%	2.2%	3.8%	2.9%	87.2%	1.8%
	下連雀5-9、上連雀6-9、野崎1	505	0.2%	2.8%	2.4%	4.8%	3.4%	84.2%	2.4%
	井の頭	231	0.0%	1.7%	2.6%	2.2%	3.5%	87.9%	2.2%
	牟礼、北野、新川2-3	347	0.3%	0.3%	2.0%	3.5%	4.9%	86.7%	2.3%
	新川1、4-6、中原	396	1.3%	0.8%	2.3%	3.0%	3.8%	85.9%	3.0%
	野崎2-4、井口、深大寺	321	0.3%	1.2%	1.9%	4.4%	4.0%	85.4%	2.8%
	大沢	188	2.1%	1.1%	1.6%	5.9%	7.4%	76.1%	5.9%
所得段階	第1～3段階	688	0.7%	1.2%	2.5%	2.8%	2.6%	86.2%	4.1%
	第4～5段階	860	0.3%	1.3%	1.7%	5.5%	3.3%	85.0%	2.9%
	第6段階～	864	0.9%	1.7%	2.4%	3.4%	5.7%	84.6%	1.3%
住居形態	持家	1,755	0.6%	1.4%	2.5%	4.6%	4.1%	85.0%	1.9%
	借家	365	0.8%	0.3%	1.6%	2.2%	3.6%	86.6%	4.9%
	公営住宅	176	0.6%	1.7%	1.7%	3.4%	3.4%	86.4%	2.8%
	その他	79	0.0%	3.8%	0.0%	0.0%	3.8%	89.9%	2.5%
世帯構成	単身世帯	420	0.7%	0.7%	3.1%	3.6%	2.4%	85.7%	3.8%
	夫婦二世帯	940	0.4%	1.6%	2.4%	5.0%	3.7%	85.2%	1.6%
	子と同居	738	0.7%	0.9%	1.9%	3.3%	5.3%	85.2%	2.7%
	子・孫と同居	181	1.1%	2.8%	0.6%	3.3%	6.1%	83.4%	2.8%
	その他	122	0.0%	3.3%	1.6%	1.6%	1.6%	89.3%	2.5%

注)クロス集計については、属性が不明なケースは除外して分析した。

表 1-9-3 地域の高齢者や子どもなどを支援する活動への参加頻度

		人数	週4回 以上	週2～ 3回	週1回	月1～ 3回	年に 数回	して いない	不明
総数		2,449	1.0%	1.5%	2.0%	2.8%	2.9%	87.1%	2.7%
性別	男性	1,027	1.3%	1.2%	2.0%	2.6%	4.1%	86.6%	2.2%
	女性	1,414	0.8%	1.8%	2.0%	3.0%	2.1%	87.3%	3.0%
年齢階級	65～69歳	606	1.7%	1.8%	2.5%	2.6%	4.3%	85.6%	1.5%
	70～74歳	620	1.1%	2.1%	2.7%	2.9%	2.4%	86.5%	2.3%
	75～79歳	518	1.2%	1.4%	2.3%	4.1%	4.2%	84.2%	2.7%
	80～84歳	412	0.5%	1.0%	1.0%	2.9%	1.7%	88.3%	4.6%
	85歳以上	285	0.0%	0.7%	0.4%	0.7%	0.7%	94.4%	3.2%
認定状況	認定なし	2,101	1.2%	1.8%	2.3%	3.2%	3.2%	85.9%	2.5%
	要支援1・2	137	0.0%	0.0%	0.7%	1.5%	1.5%	91.2%	5.1%
	要介護1・2	113	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.9%	96.5%	2.7%
	要介護3～5	61	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	96.7%	3.3%
日常生活圏域	下連雀1-4、上連雀1-5	453	0.7%	0.7%	2.2%	2.0%	2.4%	90.3%	1.8%
	下連雀5-9、上連雀6-9、野崎1	505	0.8%	2.2%	2.2%	3.0%	2.4%	86.9%	2.6%
	井の頭	231	0.9%	2.2%	3.9%	1.7%	1.3%	87.0%	3.0%
	牟礼、北野、新川2-3	347	0.3%	1.2%	2.6%	2.6%	3.5%	88.8%	1.2%
	新川1、4-6、中原	396	2.0%	0.8%	1.3%	2.8%	3.3%	86.4%	3.5%
	野崎2-4、井口、深大寺	321	0.9%	2.2%	0.9%	3.4%	2.8%	86.6%	3.1%
	大沢	188	2.1%	2.1%	1.1%	5.3%	6.4%	78.2%	4.8%
所得段階	第1～3段階	688	0.4%	1.9%	1.5%	2.0%	1.7%	88.2%	4.2%
	第4～5段階	860	1.0%	1.6%	2.1%	2.7%	2.8%	87.2%	2.6%
	第6段階～	864	1.5%	1.2%	2.4%	3.7%	4.1%	85.6%	1.5%
住居形態	持家	1,755	1.0%	1.8%	2.5%	2.9%	3.2%	87.0%	1.6%
	借家	365	1.4%	1.4%	0.8%	1.9%	2.2%	87.9%	4.4%
	公営住宅	176	1.7%	0.6%	1.1%	5.7%	2.3%	83.0%	5.7%
	その他	79	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.5%	94.9%	2.5%
世帯構成	単身世帯	420	1.0%	1.7%	1.0%	2.4%	1.7%	87.6%	4.8%
	夫婦二世帯	940	1.2%	1.3%	2.3%	3.1%	2.9%	88.1%	1.2%
	子と同居	738	0.9%	1.4%	2.4%	3.1%	3.9%	86.0%	2.2%
	子・孫と同居	181	1.1%	2.8%	1.7%	3.3%	3.3%	85.1%	2.8%
	その他	122	0.0%	2.5%	1.6%	0.8%	1.6%	90.2%	3.3%

注)クロス集計については、属性が不明なケースは除外して分析した。

表 1-9-4 地域の生活環境を改善・美化する活動への参加頻度

		人数	週4回 以上	週2～ 3回	週1回	月1～ 3回	年に 数回	して いない	不明
総数		2,449	0.6%	0.8%	1.3%	3.4%	4.1%	86.9%	2.8%
性別	男性	1,027	0.4%	0.8%	1.9%	3.3%	5.9%	85.5%	2.2%
	女性	1,414	0.8%	0.8%	1.0%	3.5%	2.8%	87.8%	3.3%
年齢階級	65～69歳	606	0.7%	0.7%	1.2%	3.6%	3.1%	88.9%	1.8%
	70～74歳	620	0.8%	1.0%	0.8%	3.5%	5.3%	86.6%	1.9%
	75～79歳	518	0.4%	0.8%	1.9%	3.5%	5.8%	84.4%	3.3%
	80～84歳	412	0.7%	0.7%	1.0%	3.9%	4.1%	85.4%	4.1%
	85歳以上	285	0.4%	0.7%	2.5%	2.1%	0.7%	89.5%	4.2%
認定状況	認定なし	2,101	0.6%	0.9%	1.5%	3.8%	4.8%	85.8%	2.6%
	要支援1・2	137	1.5%	0.0%	0.7%	2.2%	0.0%	90.5%	5.1%
	要介護1・2	113	0.0%	0.0%	0.9%	0.9%	0.9%	93.8%	3.5%
	要介護3～5	61	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	96.7%	3.3%
日常生活圏域	下連雀1-4、上連雀1-5	453	1.1%	0.4%	1.1%	2.6%	4.0%	89.4%	1.3%
	下連雀5-9、上連雀6-9、野崎1	505	0.4%	0.8%	1.6%	4.2%	3.0%	86.1%	4.0%
	井の頭	231	0.4%	2.2%	1.3%	2.6%	3.5%	87.0%	3.0%
	牟礼、北野、新川2-3	347	0.3%	0.9%	1.7%	3.5%	4.9%	87.6%	1.2%
	新川1、4-6、中原	396	0.8%	0.5%	2.0%	3.3%	5.1%	85.1%	3.3%
	野崎2-4、井口、深大寺	321	0.0%	0.0%	0.6%	4.0%	3.7%	88.2%	3.4%
	大沢	188	1.6%	1.6%	0.5%	3.7%	5.9%	82.4%	4.3%
所得段階	第1～3段階	688	0.3%	0.7%	1.3%	3.6%	3.6%	85.9%	4.5%
	第4～5段階	860	1.0%	1.0%	1.3%	3.0%	3.3%	87.3%	3.0%
	第6段階～	864	0.5%	0.6%	1.5%	3.8%	5.6%	86.8%	1.3%
住居形態	持家	1,755	0.6%	0.7%	1.3%	3.0%	4.5%	88.0%	1.9%
	借家	365	0.5%	1.4%	0.8%	2.5%	2.7%	87.7%	4.4%
	公営住宅	176	1.1%	0.0%	4.0%	10.8%	5.7%	73.9%	4.5%
	その他	79	0.0%	1.3%	1.3%	0.0%	0.0%	94.9%	2.5%
世帯構成	単身世帯	420	0.2%	1.0%	1.4%	4.5%	2.1%	86.9%	3.8%
	夫婦二世帯	940	1.0%	0.6%	1.1%	3.5%	5.1%	87.1%	1.6%
	子と同居	738	0.4%	0.5%	1.8%	3.1%	4.5%	87.3%	2.4%
	子・孫と同居	181	0.0%	2.8%	1.7%	2.8%	3.9%	86.2%	2.8%
	その他	122	0.8%	0.0%	0.8%	2.5%	3.3%	88.5%	4.1%

注)クロス集計については、属性が不明なケースは除外して分析した。

3) 町内会・自治会等の地域活動

- 町内会、自治会、老人クラブへの参加頻度について調べた結果、「週4回以上」0.7%、「週2～3回」2.6%、「週1回」3.2%、「月に1～3回」5.7%、「年に数回」8.0%、「していない」77.5%であった。
- 年齢階級別に見てみると、「74歳以下」に比べて「75歳以上」の方が参加している人の割合が高かった。
- 日常生活圏域では、「大沢」地域は他の地域に比べて参加している人の割合が高く、「井の頭」地域では低い傾向が見られた。
- 住居形態では、「公営住宅」で参加率が高く、「借家」や「その他」では低い傾向が見られた。

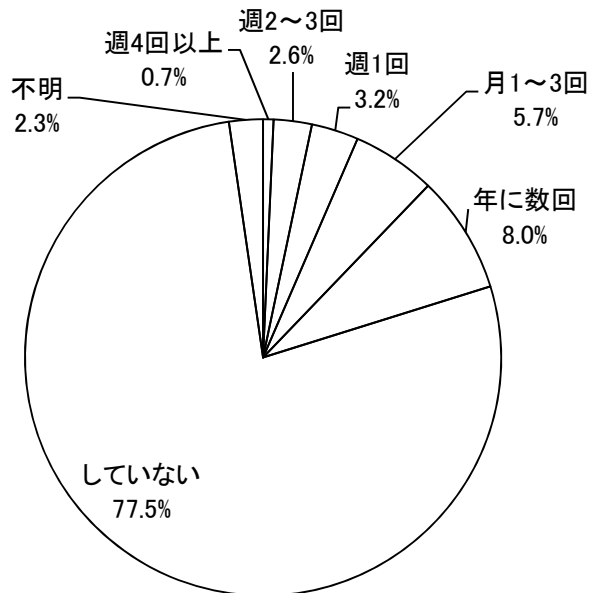


図1-9-3 町内会、自治会、老人クラブへの参加頻度

表 1-9-5 町内会、自治会、老人クラブへの参加頻度

		人数	週4回 以上	週2～ 3回	週1回	月1～ 3回	年に 数回	して いない	不明
総数		2,449	0.7%	2.6%	3.2%	5.7%	8.0%	77.6%	2.3%
性別	男性	1,027	0.7%	2.4%	2.1%	5.6%	8.2%	79.0%	1.9%
	女性	1,414	0.7%	2.6%	4.0%	5.7%	7.9%	76.7%	2.5%
年齢階級	65～69歳	606	0.2%	1.3%	1.3%	4.0%	10.2%	81.5%	1.5%
	70～74歳	620	1.0%	1.9%	3.2%	5.3%	6.8%	80.0%	1.8%
	75～79歳	518	0.6%	4.2%	3.1%	6.8%	8.9%	73.9%	2.5%
	80～84歳	412	1.0%	3.4%	4.4%	7.0%	6.8%	73.8%	3.6%
	85歳以上	285	1.1%	2.1%	5.6%	6.0%	6.0%	76.5%	2.8%
認定状況	認定なし	2,101	0.7%	2.7%	3.0%	6.0%	8.7%	76.7%	2.2%
	要支援1・2	137	0.0%	2.2%	6.6%	5.8%	4.4%	76.6%	4.4%
	要介護1・2	113	0.0%	2.7%	4.4%	1.8%	4.4%	85.0%	1.8%
	要介護3～5	61	3.3%	0.0%	0.0%	1.6%	1.6%	91.8%	1.6%
日常生活圏域	下連雀1-4、上連雀1-5	453	0.7%	2.0%	3.3%	5.5%	9.1%	77.7%	1.8%
	下連雀5-9、上連雀6-9、野崎1	505	0.8%	2.8%	3.4%	7.3%	5.3%	78.0%	2.4%
	井の頭	231	0.0%	1.7%	3.0%	3.0%	7.4%	82.3%	2.6%
	牟礼、北野、新川2-3	347	0.3%	2.3%	3.5%	5.8%	7.5%	79.5%	1.2%
	新川1、4-6、中原	396	1.3%	1.8%	3.3%	5.3%	8.3%	76.8%	3.3%
	野崎2-4、井口、深大寺	321	0.6%	3.7%	2.5%	5.0%	10.0%	76.0%	2.2%
	大沢	188	1.1%	4.3%	3.2%	6.4%	10.1%	71.8%	3.2%
所得段階	第1～3段階	688	0.3%	2.5%	5.1%	6.8%	7.0%	74.9%	3.5%
	第4～5段階	860	0.9%	3.1%	2.6%	5.5%	7.9%	77.6%	2.4%
	第6段階～	864	0.8%	2.1%	2.4%	5.1%	9.0%	79.4%	1.2%
住居形態	持家	1,755	0.7%	2.6%	2.9%	5.5%	8.5%	78.2%	1.6%
	借家	365	0.8%	2.7%	3.6%	3.0%	3.8%	82.7%	3.3%
	公営住宅	176	0.0%	2.8%	4.5%	13.1%	14.8%	60.8%	4.0%
	その他	79	0.0%	0.0%	0.0%	1.3%	3.8%	92.4%	2.5%
世帯構成	単身世帯	420	0.5%	3.1%	4.5%	6.2%	5.2%	77.6%	2.9%
	夫婦二世帯	940	0.4%	2.8%	2.3%	5.1%	8.8%	79.3%	1.3%
	子と同居	738	0.9%	2.6%	4.3%	6.6%	8.1%	74.9%	2.4%
	子・孫と同居	181	1.1%	1.7%	2.8%	4.4%	11.6%	76.2%	2.2%
	その他	122	0.0%	1.6%	0.0%	4.9%	5.7%	84.4%	3.3%

注)クロス集計については、属性が不明なケースは除外して分析した。

4) 趣味・自己啓発活動

- 趣味関係、スポーツ、学習・教養等のグループやクラブ・サークルへの参加頻度について調べた結果、「週4回以上」6.0%、「週2～3回」13.2%、「週1回」11.5%、「月に1～3回」12.7%、「年に数回」3.7%、「していない」50.6%であった。
- 性別では、このような活動をしていない人の割合は「男性」では54.8%、「女性」では47.4%であり、女性の方が参加率は高い傾向にあった。
- 住居形態別に見てみると、このような活動をしていない人の割合は「持家」47.0%、「借家」63.6%、「公営住宅」61.4%であり、「持家」の人で趣味関係やスポーツ、学習・教養グループやクラブ、サークルへの参加率が高い傾向が見られた。

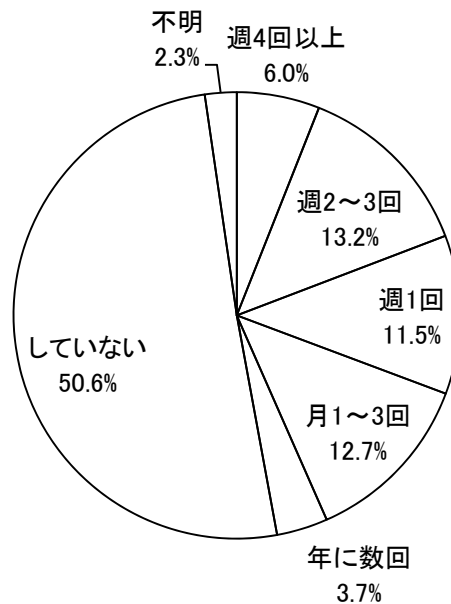


図1-9-4 趣味、スポーツ、学習等のグループへの参加頻度

表 1-9-6 趣味関係、スポーツ、学習・教養等のグループやクラブ・サークルへの参加頻度

		人数	週4回 以上	週2～ 3回	週1回	月1～ 3回	年に 数回	して いない	不明
総数		2,449	6.0%	13.2%	11.5%	12.7%	3.7%	50.6%	2.3%
性別	男性	1,027	5.1%	10.0%	10.6%	11.9%	5.6%	54.8%	1.9%
	女性	1,414	6.6%	15.5%	12.2%	13.4%	2.3%	47.4%	2.5%
年齢階級	65～69歳	606	5.1%	14.7%	12.0%	13.4%	4.0%	49.2%	1.7%
	70～74歳	620	7.9%	14.8%	12.6%	15.3%	3.9%	43.5%	1.9%
	75～79歳	518	6.9%	14.9%	11.6%	11.8%	4.6%	47.9%	2.3%
	80～84歳	412	4.1%	11.9%	11.7%	11.4%	3.2%	54.4%	3.4%
	85歳以上	285	4.6%	5.3%	8.1%	9.8%	1.8%	67.7%	2.8%
認定状況	認定なし	2,101	6.6%	14.6%	12.1%	13.7%	4.0%	47.2%	2.0%
	要支援1・2	137	3.6%	4.4%	8.8%	7.3%	1.5%	68.6%	5.8%
	要介護1・2	113	0.0%	2.7%	8.0%	5.3%	1.8%	79.6%	2.7%
	要介護3～5	61	0.0%	1.6%	3.3%	8.2%	1.6%	80.3%	4.9%
日常生活圏域	下連雀1-4、上連雀1-5	453	6.6%	13.2%	14.8%	13.2%	4.6%	45.9%	1.5%
	下連雀5-9、上連雀6-9、野崎1	505	6.5%	15.2%	10.7%	10.7%	3.8%	51.1%	2.0%
	井の頭	231	3.5%	15.6%	13.9%	14.3%	3.5%	47.6%	1.7%
	牟礼、北野、新川2-3	347	4.3%	9.2%	11.5%	13.3%	4.0%	56.2%	1.4%
	新川1、4-6、中原	396	5.3%	11.9%	10.1%	12.6%	3.0%	54.3%	2.8%
	野崎2-4、井口、深大寺	321	8.1%	12.8%	10.0%	12.8%	2.8%	51.7%	1.9%
	大沢	188	6.9%	15.4%	9.0%	14.9%	3.7%	43.1%	6.9%
所得段階	第1～3段階	688	4.4%	10.3%	10.2%	10.9%	3.6%	56.8%	3.8%
	第4～5段階	860	7.8%	15.2%	11.0%	13.3%	2.2%	48.0%	2.4%
	第6段階～	864	5.3%	13.2%	13.1%	13.8%	5.1%	48.6%	0.9%
住居形態	持家	1,755	6.6%	14.8%	12.5%	14.2%	3.3%	47.0%	1.5%
	借家	365	2.5%	9.3%	7.9%	8.5%	4.1%	63.6%	4.1%
	公営住宅	176	5.1%	6.8%	9.7%	8.0%	6.8%	61.4%	2.3%
	その他	79	6.3%	13.9%	11.4%	15.2%	5.1%	45.6%	2.5%
世帯構成	単身世帯	420	6.2%	13.6%	9.8%	9.3%	3.8%	54.8%	2.6%
	夫婦二世帯	940	6.5%	14.0%	12.2%	15.0%	3.9%	46.8%	1.5%
	子と同居	738	5.3%	12.3%	10.4%	12.9%	3.3%	53.7%	2.2%
	子・孫と同居	181	7.2%	13.8%	12.2%	11.6%	2.8%	49.7%	2.8%
	その他	122	4.1%	12.3%	18.9%	9.0%	4.9%	46.7%	4.1%

注)クロス集計については、属性が不明なケースは除外して分析した。

5) ボランティア活動への関心・要望

- ボランティア活動への関心について、「配食ボランティア（高齢者や障がいのある方などに食事を届ける活動）」と「ひとり暮らしの高齢者等への声かけ・見守り活動」を取り上げ、これらの活動への関心を調べた。
- 「配食ボランティア」については、「すでに活動している」1.0%、「すぐにでも活動してみたい」0.5%、「今後、活動してみたい」14.8%、「関心がない、または、活動できない」78.4%であった。
- 配食ボランティアについて「今後活動してみたい」という人の割合を年齢階級別に見てみると、「65～69歳」24.3%、「70～74歳」17.6%、「75～79歳」12.5%、「80～84歳」8.3%、「85歳以上」2.8%であり、年齢の若い人で関心が高い傾向が見られた。
- 「ひとり暮らしの高齢者等への声かけ・見守り活動」については、「すでに活動している」6.4%、「すぐにでも活動してみたい」0.8%、「今後、活動してみたい」23.1%、「関心がない、または、活動できない」64.2%であった。配食ボランティアよりも、声かけ・見守り活動の方が、「活動してみたい人」の割合が高かった。
- 声かけ・見守り活動について「今後活動してみたい」という人の割合を年齢階級別に見てみると、「65～69歳」33.3%、「70～74歳」27.4%、「75～79歳」21.6%、「80～84歳」14.6%、「85歳以上」7.7%であり、年齢の若い世代で関心が高い傾向が見られた。
- 高齢者が地域でボランティア活動をする上での市への要望としては、「情報をもっと提供する」25.4%、「活動のための施設を利用しやすくする」25.0%、「研修や講習会を増やす」13.8%、「資金の援助をする」11.7%、「その他」3.3%、「特に要望はない」42.8%であった。

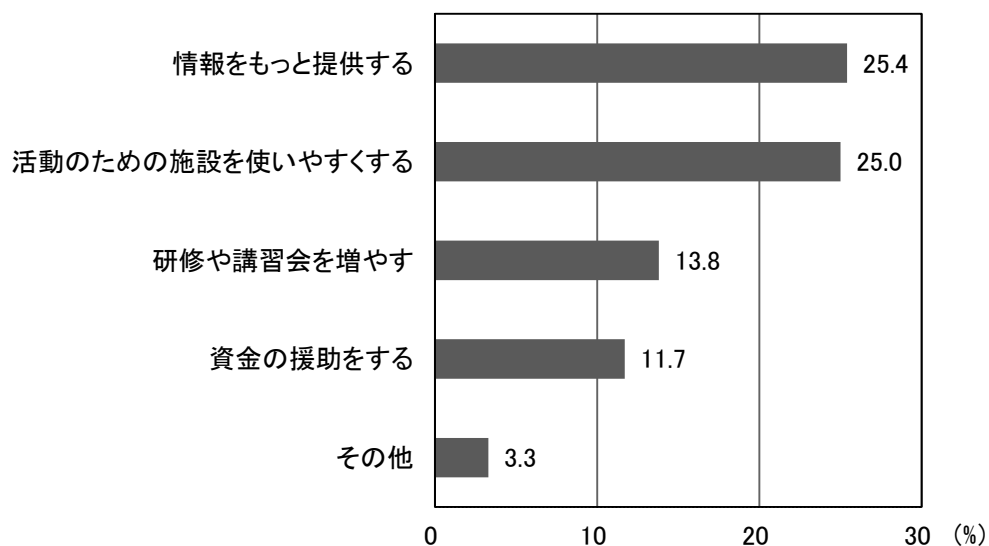


図1-9-5 高齢者が地域のために奉仕的な活動をする上での市への要望

表 1-9-7 配食ボランティア(高齢者や障がいのある方などに食事を届ける活動)への関心

		人数	すでに活動している	すぐにも活動してみたい	今後、活動してみたい	関心がないまたは活動できない	不明
総数		2,449	1.0%	0.5%	14.8%	78.4%	5.3%
性別	男性	1,027	0.6%	0.6%	16.3%	78.3%	4.3%
	女性	1,414	1.3%	0.5%	13.9%	78.3%	6.0%
年齢階級	65～69歳	606	1.7%	0.8%	24.3%	70.1%	3.1%
	70～74歳	620	1.3%	0.5%	17.6%	76.6%	4.0%
	75～79歳	518	0.8%	0.2%	12.5%	80.3%	6.2%
	80～84歳	412	0.7%	0.0%	8.3%	82.8%	8.3%
	85歳以上	285	0.0%	1.4%	2.8%	89.1%	6.7%
認定状況	認定なし	2,101	1.1%	0.6%	16.9%	76.2%	5.1%
	要支援 1・2	137	0.0%	0.7%	2.2%	87.6%	9.5%
	要介護 1・2	113	0.9%	0.0%	0.0%	94.7%	4.4%
	要介護 3～5	61	0.0%	0.0%	1.6%	96.7%	1.6%
日常生活圏域	下連雀 1-4、上連雀 1-5	453	0.7%	0.7%	13.0%	81.0%	4.6%
	下連雀 5-9、上連雀 6-9、野崎 1	505	1.4%	1.0%	15.4%	77.8%	4.4%
	井の頭	231	2.6%	0.0%	13.4%	80.1%	3.9%
	牟礼、北野、新川 2-3	347	0.9%	0.3%	17.6%	74.6%	6.6%
	新川 1、4-6、中原	396	0.5%	0.3%	13.6%	78.3%	7.3%
	野崎 2-4、井口、深大寺	321	0.6%	0.6%	16.2%	79.1%	3.4%
	大沢	188	1.1%	0.5%	14.9%	76.1%	7.4%
所得段階	第1～3段階	688	1.3%	0.1%	12.8%	79.1%	6.7%
	第4～5段階	860	1.2%	0.7%	15.1%	77.3%	5.7%
	第6段階～	864	0.7%	0.7%	16.4%	78.5%	3.7%
住居形態	持家	1,755	0.9%	0.4%	14.3%	80.2%	4.2%
	借家	365	1.9%	1.1%	18.4%	71.0%	7.7%
	公営住宅	176	0.6%	0.6%	19.9%	73.3%	5.7%
	その他	79	0.0%	1.3%	6.3%	83.5%	8.9%
世帯構成	単身世帯	420	1.0%	0.5%	16.9%	75.5%	6.2%
	夫婦二人世帯	940	1.2%	0.4%	15.1%	79.3%	4.0%
	子と同居	738	0.9%	0.5%	14.6%	78.5%	5.4%
	子・孫と同居	181	0.6%	1.1%	12.2%	82.3%	3.9%
	その他	122	0.8%	0.8%	14.8%	79.5%	4.1%

注)クロス集計については、属性が不明なケースは除外して分析した。

表 1-9-8 ひとり暮らしの高齢者などへの声かけ・見守り活動への関心

		人数	すでに活動している	すぐにも活動してみたい	今後、活動してみたい	関心がないまたは活動できない	不明
総数		2,449	6.4%	0.8%	23.1%	64.2%	5.5%
性別	男性	1,027	3.9%	1.0%	25.2%	65.9%	4.0%
	女性	1,414	8.2%	0.7%	21.7%	62.7%	6.6%
年齢階級	65～69歳	606	6.4%	1.3%	33.3%	55.3%	3.6%
	70～74歳	620	6.6%	0.5%	27.4%	60.3%	5.2%
	75～79歳	518	8.3%	0.8%	21.6%	63.5%	5.8%
	80～84歳	412	5.8%	1.0%	14.6%	70.1%	8.5%
	85歳以上	285	3.2%	0.4%	7.7%	83.2%	5.6%
認定状況	認定なし	2,101	7.3%	0.9%	26.0%	60.4%	5.5%
	要支援 1・2	137	0.7%	0.7%	9.5%	81.0%	8.0%
	要介護 1・2	113	0.9%	0.0%	2.7%	92.9%	3.5%
	要介護 3～5	61	0.0%	0.0%	1.6%	95.1%	3.3%
日常生活圏域	下連雀 1-4、上連雀 1-5	453	4.9%	0.9%	21.6%	67.8%	4.9%
	下連雀 5-9、上連雀 6-9、野崎 1	505	6.9%	0.8%	22.6%	64.6%	5.1%
	井の頭	231	7.4%	0.4%	20.3%	66.2%	5.6%
	牟礼、北野、新川 2-3	347	5.8%	0.6%	24.2%	63.7%	5.8%
	新川 1、4-6、中原	396	6.1%	1.0%	24.5%	61.1%	7.3%
	野崎 2-4、井口、深大寺	321	7.5%	1.2%	25.2%	62.0%	4.0%
	大沢	188	7.4%	0.5%	23.9%	61.7%	6.4%
所得段階	第1～3段階	688	6.0%	0.4%	20.9%	66.0%	6.7%
	第4～5段階	860	9.0%	1.2%	22.8%	60.6%	6.5%
	第6段階～	864	4.4%	0.7%	25.8%	65.6%	3.5%
住居形態	持家	1,755	6.4%	0.8%	22.8%	65.1%	4.8%
	借家	365	6.3%	0.8%	26.6%	59.2%	7.1%
	公営住宅	176	8.5%	1.1%	27.8%	56.8%	5.7%
	その他	79	1.3%	1.3%	6.3%	84.8%	6.3%
世帯構成	単身世帯	420	4.0%	0.5%	27.1%	62.1%	6.2%
	夫婦二人世帯	940	7.1%	0.7%	24.9%	63.0%	4.3%
	子と同居	738	7.0%	0.8%	21.3%	65.0%	5.8%
	子・孫と同居	181	4.4%	1.1%	17.7%	71.8%	5.0%
	その他	122	7.4%	1.6%	17.2%	68.0%	5.7%

注)クロス集計については、属性が不明なケースは除外して分析した。

表 1-9-9 高齢者が地域のために奉仕的な活動をする上での市への要望（複数回答）

		人数	情報をもっと提供する	研修や講習会を増やす	活動のための施設を使いやすくする	資金の援助をする	その他
総数		2,449	25.4%	13.8%	25.0%	11.7%	3.3%
性別	男性	1,027	24.7%	14.3%	22.5%	13.9%	3.6%
	女性	1,414	25.7%	13.4%	26.9%	10.0%	3.2%
年齢階級	65～69歳	606	34.0%	19.8%	29.9%	16.3%	4.0%
	70～74歳	620	31.6%	15.0%	29.0%	14.5%	2.7%
	75～79歳	518	20.7%	12.4%	22.8%	8.7%	2.9%
	80～84歳	412	16.0%	9.2%	20.6%	6.8%	4.4%
	85歳以上	285	15.1%	7.7%	16.5%	8.1%	2.8%
認定状況	認定なし	2,101	27.2%	14.9%	26.4%	12.2%	3.2%
	要支援 1・2	137	17.5%	7.3%	21.2%	7.3%	4.4%
	要介護 1・2	113	9.7%	8.8%	15.0%	10.6%	6.2%
	要介護 3～5	61	14.8%	4.9%	9.8%	9.8%	1.6%
日常生活圏域	下連雀 1-4、上連雀 1-5	453	23.8%	15.5%	24.3%	11.5%	2.2%
	下連雀 5-9、上連雀 6-9、野崎 1	505	27.1%	15.0%	25.5%	10.9%	2.4%
	井の頭	231	24.7%	14.3%	19.9%	14.7%	3.9%
	牟礼、北野、新川 2-3	347	24.2%	15.3%	27.1%	12.1%	3.2%
	新川 1、4-6、中原	396	24.0%	10.9%	23.7%	11.1%	4.3%
	野崎 2-4、井口、深大寺	321	28.0%	12.5%	27.4%	11.2%	3.4%
	大沢	188	25.0%	11.7%	26.6%	11.7%	6.4%
所得段階	第1～3段階	688	19.5%	10.9%	21.7%	10.0%	3.1%
	第4～5段階	860	27.2%	14.3%	27.6%	11.7%	3.1%
	第6段階～	864	28.7%	16.1%	25.5%	13.2%	3.8%
住居形態	持家	1,755	27.2%	14.9%	25.2%	11.6%	3.9%
	借家	365	24.4%	13.7%	28.2%	15.3%	1.9%
	公営住宅	176	23.3%	12.5%	25.6%	10.8%	3.4%
	その他	79	7.6%	3.8%	17.7%	5.1%	1.3%
世帯構成	単身世帯	420	24.5%	13.8%	25.7%	7.6%	3.1%
	夫婦二人世帯	940	26.9%	14.1%	26.3%	13.5%	3.5%
	子と同居	738	25.5%	13.6%	24.4%	12.7%	3.3%
	子・孫と同居	181	27.6%	18.2%	24.9%	10.5%	5.0%
	その他	122	19.7%	8.2%	18.9%	8.2%	1.6%

注)クロス集計については、属性が不明なケースは除外して分析した。

10. 地域環境

1) 地域環境の問題

- 同じ町内会くらいの範囲の地域環境について問題に感じていることを調べた結果、「特に問題は感じていない」という人が半数弱を占めた。
- 問題として多く挙げたのは、「住民同士の交流が乏しい」20.4%で、次いで「日常の買い物が不便」12.2%、「空き巣やひったくりなどの犯罪が心配」11.3%であった。
- 性別で見ると、「男性」よりも「女性」の方が「日常の買い物が不便」「病院への通院が不便」「空き巣やひったくりなどの犯罪が心配」と感じている割合が高い傾向が見られた。
- 日常生活圏域別に見ると、「大沢」地域は「日常の買い物が不便」「病院への通院が不便」「バス、電車などの公共交通機関が不足」といった点に困難を感じている人が多い傾向が見られた。

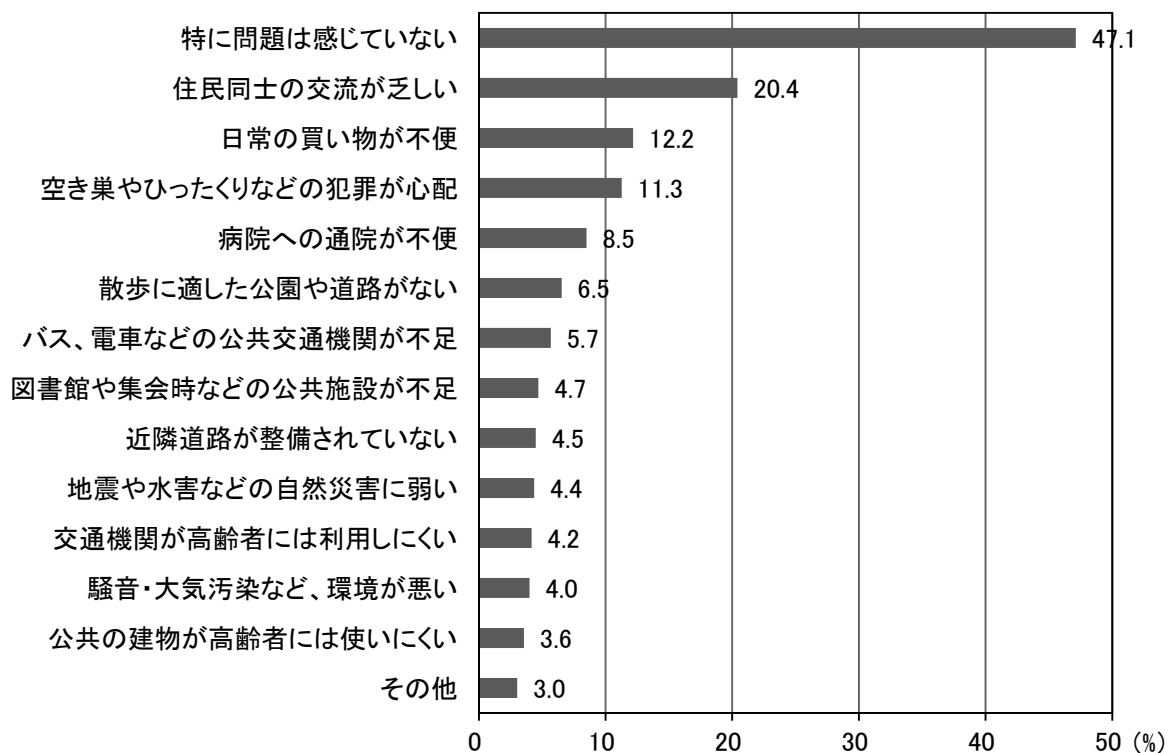


図1-10-1 地域環境の問題

表 1-10-1 地域(同じ町内会位の範囲)で感じている問題(1) (複数回答)

		人数	日常の 買い物が 不便	病院への 通院が 不便	図書館や 集会所等 の公共 施設不足	バス電車 等の公共 交通機関 が不足	公共の建 物が高齢 者には使 いにくい	交通機関 が高齢者 には利用 しにくい
総 数		2,449	12.2%	8.5%	4.7%	5.7%	3.6%	4.2%
性別	男性	1,027	7.0%	6.7%	4.6%	5.1%	3.2%	3.5%
	女性	1,414	16.9%	10.6%	5.1%	6.6%	4.0%	5.0%
年齢階級	65～69 歳	606	12.4%	6.8%	4.4%	5.6%	3.2%	2.7%
	70～74 歳	620	10.0%	7.3%	6.5%	7.0%	2.7%	3.2%
	75～79 歳	518	13.8%	10.4%	2.8%	6.5%	3.3%	2.8%
	80～84 歳	412	14.7%	9.8%	5.4%	4.7%	6.7%	8.3%
	85 歳以上	285	14.6%	13.5%	5.4%	5.4%	3.5%	8.1%
認定状況	認定なし	2,101	11.4%	7.2%	4.9%	5.5%	3.4%	3.1%
	要支援 1・2	137	24.4%	27.6%	6.3%	12.6%	7.1%	17.3%
	要介護 1・2	113	24.0%	17.3%	5.8%	6.7%	7.7%	12.5%
	要介護 3～5	61	13.2%	17.0%	0.0%	7.5%	0.0%	7.5%
日常生活圏域	下連雀 1-4、上連雀 1-5	453	6.0%	3.9%	3.9%	3.0%	2.1%	3.7%
	下連雀 5-9、上連雀 6-9、野崎 1	505	7.7%	5.4%	2.5%	2.7%	3.3%	2.9%
	井の頭	231	9.4%	8.1%	6.7%	7.6%	2.2%	4.9%
	牟礼、北野、新川 2-3	347	9.1%	10.9%	5.5%	8.2%	6.1%	5.8%
	新川 1、4-6、中原	396	12.4%	10.3%	5.5%	4.2%	5.0%	4.7%
	野崎 2-4、井口、深大寺	321	16.8%	11.2%	7.2%	5.3%	3.6%	3.9%
	大沢	188	45.9%	20.8%	4.9%	20.2%	3.3%	6.6%
所得段階	第 1～3 段階	688	16.2%	11.7%	4.4%	6.6%	4.5%	6.7%
	第 4～5 段階	860	13.7%	9.4%	4.8%	5.4%	4.0%	4.5%
	第 6 段階～	864	9.1%	6.6%	5.4%	6.2%	2.9%	2.6%
住居形態	持家	1,755	13.7%	8.8%	5.6%	6.4%	3.4%	3.8%
	借家	365	10.1%	7.8%	2.9%	4.3%	4.3%	5.5%
	公営住宅	176	11.2%	12.4%	1.8%	4.7%	5.9%	6.5%
	その他	79	11.1%	8.3%	8.3%	5.6%	2.8%	6.9%
世帯構成	単身世帯	420	14.9%	9.7%	5.0%	4.2%	4.5%	5.2%
	夫婦二人世帯	940	11.5%	8.3%	5.0%	6.1%	3.1%	3.2%
	子と同居	738	12.3%	8.3%	4.5%	5.6%	4.7%	4.8%
	子・孫と同居	181	13.6%	11.9%	3.4%	9.6%	1.7%	5.6%
	その他	122	12.8%	7.7%	6.8%	5.1%	3.4%	4.3%

注)クロス集計については、属性が不明なケースは除外して分析した。

表 1-10-2 地域(同じ町内会位の範囲)で感じている問題(2) (複数回答)

		人数	近隣道路 が整備 されて いない	散歩に適 した公園 や道路が ない	騒音や大 気汚染な ど、環境 が悪い	空き巣や ひったくり などの犯 罪が心配	地震や水 害などの 自然災害 に弱い	住民同士 の交流が 乏しい
総数		2,449	4.5%	6.5%	4.0%	11.3%	4.4%	20.4%
性別	男性	1,027	4.3%	6.5%	4.1%	9.7%	3.5%	20.4%
	女性	1,414	5.1%	7.1%	4.3%	13.3%	5.4%	22.0%
年齢階級	65～69歳	606	2.9%	5.9%	4.2%	11.0%	4.1%	21.9%
	70～74歳	620	4.5%	8.1%	3.6%	12.1%	4.0%	21.7%
	75～79歳	518	4.5%	6.9%	4.9%	12.2%	4.3%	20.7%
	80～84歳	412	8.5%	7.5%	5.2%	12.9%	7.0%	20.9%
	85歳以上	285	4.2%	5.0%	2.7%	10.4%	4.2%	20.8%
認定状況	認定なし	2,101	4.5%	6.8%	4.4%	11.6%	4.2%	21.3%
	要支援 1・2	137	7.1%	8.7%	3.9%	17.3%	10.2%	29.1%
	要介護 1・2	113	5.8%	8.7%	2.9%	15.4%	6.7%	22.1%
	要介護 3～5	61	7.5%	5.7%	0.0%	3.8%	3.8%	7.5%
日常生活圏域	下連雀 1-4、上連雀 1-5	453	3.7%	7.6%	6.0%	13.2%	4.4%	20.6%
	下連雀 5-9、上連雀 6-9、野崎 1	505	6.2%	9.1%	5.0%	10.0%	5.0%	21.0%
	井の頭	231	7.6%	0.9%	2.7%	13.5%	5.4%	18.8%
	牟礼、北野、新川 2-3	347	5.8%	6.4%	2.7%	11.9%	3.0%	22.5%
	新川 1、4-6、中原	396	1.8%	7.9%	5.5%	11.3%	5.8%	22.1%
	野崎 2-4、井口、深大寺	321	6.2%	9.2%	3.0%	10.5%	3.0%	23.0%
	大沢	188	1.1%	1.1%	1.6%	14.2%	6.0%	20.2%
所得段階	第 1～3 段階	688	5.1%	6.7%	4.2%	13.3%	6.7%	20.1%
	第 4～5 段階	860	3.9%	6.8%	3.8%	11.3%	4.4%	24.3%
	第 6 段階～	864	5.2%	7.3%	4.5%	11.6%	3.3%	19.5%
住居形態	持家	1,755	4.8%	7.0%	3.7%	12.2%	4.4%	20.6%
	借家	365	2.9%	5.2%	5.2%	13.6%	7.2%	27.0%
	公営住宅	176	5.9%	7.7%	3.0%	8.9%	4.1%	18.3%
	その他	79	5.6%	6.9%	9.7%	2.8%	1.4%	16.7%
世帯構成	単身世帯	420	3.7%	7.5%	6.5%	11.9%	6.2%	23.1%
	夫婦二人世帯	940	4.4%	7.1%	3.3%	11.9%	3.5%	23.7%
	子と同居	738	5.1%	6.6%	3.8%	11.6%	5.2%	18.9%
	子・孫と同居	181	5.6%	6.2%	3.4%	13.6%	5.6%	19.8%
	その他	122	6.0%	5.1%	6.0%	7.7%	2.6%	17.1%

注)クロス集計については、属性が不明なケースは除外して分析した。

2) 地域の人への信頼感

- 地域の人々同士の信頼関係や交流など、地域社会の結束力を表すものを「社会関係資本」という。社会関係資本が豊かな地域では、住民の地域活動への参加や健康等が向上することが指摘されている。ここでは、社会関係資本の指標のひとつである「社会的凝集性」を調べた。「社会的凝集性」とは、住民の結束が強いことを意味する。
- 「地域の人々は信頼できるか」という質問に「そう思う/どちらかというと思う」といった肯定的な回答をした人は58.5%、「地域の人々は結束が強い」という質問に肯定的な回答をした人は32.7%、「地域の人々は喜んで近所の人を手助けする」は38.3%、「地域の人はお互いに関係がよくない」は6.9%、「地域では同じような価値観をもった人はいない」は14.3%という結果であった。
- 「地域の人々は信頼できる」という回答は、住居形態によって違いが大きく、「持家」の人では肯定的な回答が64.1%であったのに対して、「借家」では43.8%、「公営住宅」では58.5%で、持ち家の人の方が地域への信頼感が高い傾向にあった。
- 一方、「地域の人々は結束が強い」という質問に関しては、肯定的な回答は「持家」の人では34.6%、「借家」26.3%、「公営住宅」40.3%と、公営住宅に住んでいる人で地域の結束感強い傾向が見られた。「地域の人々は喜んで近所の人を手助けする」に関しても、肯定的な回答は「持家」41.0%、「借家」30.1%、「公営住宅」48.9%で、公営住宅で肯定的な回答が多かった。
- 生活圏域による違いは多少あったが、さほど大きな違いではなかった。

表 1-10-3 地域住民に対する評価（「そう思う」「どちらかというと思う」を合計した割合）

		人数	信頼 できる	結束が 強い	喜んで近所 の人を手助 けする	お互いの 関係がよく ない	同じような 価値観を 持った人 はいない
総数		2,449	58.5%	32.7%	38.3%	6.9%	14.3%
性別	男性	1027	58.3%	31.6%	35.2%	8.0%	17.5%
	女性	1414	58.6%	33.6%	40.7%	6.1%	12.0%
年齢階級	65～69歳	606	56.8%	30.7%	34.2%	6.9%	13.4%
	70～74歳	620	56.0%	30.5%	37.9%	6.8%	14.0%
	75～79歳	518	60.4%	33.6%	40.0%	7.9%	15.3%
	80～84歳	412	59.5%	37.6%	39.8%	6.6%	15.8%
	85歳以上	285	62.8%	33.7%	43.5%	5.6%	13.3%
認定状況	認定なし	2,101	58.7%	33.0%	38.8%	6.8%	14.4%
	要支援 1・2	137	59.1%	32.1%	35.0%	11.7%	20.4%
	要介護 1・2	113	59.3%	36.3%	43.4%	4.4%	8.8%
	要介護 3～5	61	57.4%	24.6%	31.1%	6.6%	11.5%
日常生活圏域	下連雀 1-4、上連雀 1-5	453	60.3%	35.3%	39.7%	6.6%	11.7%
	下連雀 5-9、上連雀 6-9、野崎 1	505	54.7%	28.3%	33.7%	7.7%	16.2%
	井の頭	231	66.2%	35.5%	40.3%	6.9%	16.5%
	牟礼、北野、新川 2-3	347	57.6%	33.7%	41.2%	7.5%	13.8%
	新川 1、4-6、中原	396	59.3%	32.3%	37.6%	6.3%	14.9%
	野崎 2-4、井口、深大寺	321	55.8%	33.6%	38.0%	5.3%	14.6%
	大沢	188	59.6%	33.0%	42.6%	8.0%	12.2%
所得段階	第1～3段階	688	54.7%	33.4%	40.7%	7.0%	15.1%
	第4～5段階	860	58.6%	33.1%	39.4%	7.4%	13.4%
	第6段階～	864	62.0%	32.2%	36.1%	6.5%	14.9%
住居形態	持家	1,755	64.1%	34.6%	41.0%	7.0%	14.1%
	借家	365	43.8%	26.3%	30.1%	7.4%	16.7%
	公営住宅	176	58.5%	40.3%	48.9%	8.0%	15.9%
	その他	79	45.6%	26.6%	22.8%	2.5%	15.2%
世帯構成	単身世帯	420	53.8%	31.4%	38.6%	8.6%	16.9%
	夫婦二世帯	940	58.8%	31.1%	37.1%	8.0%	14.6%
	子と同居	738	60.6%	33.5%	39.0%	5.7%	12.9%
	子・孫と同居	181	64.6%	40.9%	45.9%	3.9%	10.5%
	その他	122	58.2%	36.9%	36.9%	5.7%	17.2%

注)クロス集計については、属性が不明なケースは除外して分析した。

3) 地域の問題への関心

- 地域の人々が自ら地域にある課題を解決しようとする力を、「地域の力」や「地域住民のパワー」と呼ぶ。ここでは、地域住民のパワーの指標の1つである「地域の課題の共有意識」について調べた。
- 「地域住民が抱えている問題は、自分の問題でもあると思う」という質問に「そう思う/どちらかというと思う」といった肯定的な回答をした人は50.3%、「地域住民の中に困っている人がいたら、見て見ぬふりはできないと思う」という質問に肯定的な回答をした人は67.5%、「地域住民に関係がありそうな情報に、気をつけておこうと思う」は74.5%という結果であった。
- 住居形態別に見ると、「持家」や「公営住宅」に住んでいる人に比べて、「借家」の人では、すべての項目において低い傾向が見られた。

表 1-10-4 地域の課題の共有意識（「そう思う」「どちらかというと思う」を合計した割合）

		人数	地域住民の問題 は自分の問題 でもある	困っている人を 見て見ぬふりは できない	地域住民に関係 しそうな情報に 気をつける
総数		2,449	50.3%	67.5%	74.5%
性別	男性	1,027	50.3%	64.7%	73.2%
	女性	1,414	50.4%	69.7%	75.7%
年齢階級	65～69歳	606	52.8%	69.0%	76.2%
	70～74歳	620	50.8%	68.9%	75.2%
	75～79歳	518	50.2%	69.9%	77.6%
	80～84歳	412	48.5%	65.0%	73.1%
	85歳以上	285	47.0%	61.4%	67.4%
認定状況	認定なし	2,101	50.3%	69.3%	76.5%
	要支援 1・2	137	56.2%	59.1%	71.5%
	要介護 1・2	113	45.1%	60.2%	66.4%
	要介護 3～5	61	50.8%	47.5%	44.3%
日常生活圏域	下連雀 1-4、上連雀 1-5	453	48.8%	68.2%	74.2%
	下連雀 5-9、上連雀 6-9、野崎 1	505	52.9%	64.8%	72.5%
	井の頭	231	53.7%	72.7%	77.5%
	牟礼、北野、新川 2-3	347	45.0%	63.7%	75.5%
	新川 1、4-6、中原	396	53.3%	68.7%	74.7%
	野崎 2-4、井口、深大寺	321	48.3%	66.7%	72.9%
	大沢	188	50.5%	73.9%	79.8%
所得段階	第1～3段階	688	47.4%	65.6%	71.8%
	第4～5段階	860	52.1%	68.7%	76.6%
	第6段階～	864	51.0%	68.6%	75.7%
住居形態	持家	1,755	52.8%	71.0%	78.5%
	借家	365	46.0%	66.3%	71.5%
	公営住宅	176	53.4%	68.2%	79.0%
	その他	79	48.1%	48.1%	57.0%
世帯構成	単身世帯	420	49.8%	66.4%	75.0%
	夫婦二人世帯	940	52.6%	69.0%	78.1%
	子と同居	738	48.6%	66.3%	70.5%
	子・孫と同居	181	52.5%	73.5%	82.9%
	その他	122	45.1%	65.6%	68.9%

注)クロス集計については、属性が不明なケースは除外して分析した。

11. 介護保険制度・保健福祉サービス

1) 介護保険料の負担感

- 介護保険料については、「負担に感じている」25.4%、「多少負担に感じている」39.9%で、両者を合わせると65.3%が多少とも負担に感じていた。「あまり負担に感じていない」と「負担には感じていない」の合計は、32.1%であった。平成22年の調査では負担に感じている人の割合が77.1%であったので、3年前と比べると負担感は若干低下していた。
- 負担に感じている人の割合（「負担に感じている/多少負担に感じている」の合計）は、「男性」で68.6%、「女性」で62.7%と、男性の方が負担感は高い傾向があった。
- 高齢になるほど負担に感じている人の割合が低下し、「65～69歳」では70.0%であったが、「85歳以上」の人では46.6%まで下がった。
- 認定状況別では、負担に感じている人の割合は「認定なし」の人では66.1%、「要介護度3～5」の人は60.7%で、認定者では負担感が多少低くなる傾向があった。
- 日常生活圏域別では、負担に感じている人の割合が高かったのは「牟礼、北野、新川2-3」72.3%と「野崎2-4、井口、深大寺」71.7%であった。この割合が最も低かったのは「井の頭」58.9%と「下連雀1-4、上連雀1-5」60.1%であった。
- 負担に感じている人の割合は「第1～3段階」の人では59.4%、「第4～5段階」70.6%、「第6段階以上」65.1%で、所得段階が中程度の人で負担に感じている人が多い傾向が見られた。
- 住居形態では、負担に感じている人の割合は「持ち家」の人では62.8%であったのに対して、「借家」の居住者では75.4%と、負担に感じる人が多い傾向がみられた。
- 世帯構成別では、負担に感じている人の割合は「子と同居世帯」では67.5%と、「単身世帯」の60.5%と比較して高い傾向がみられた。

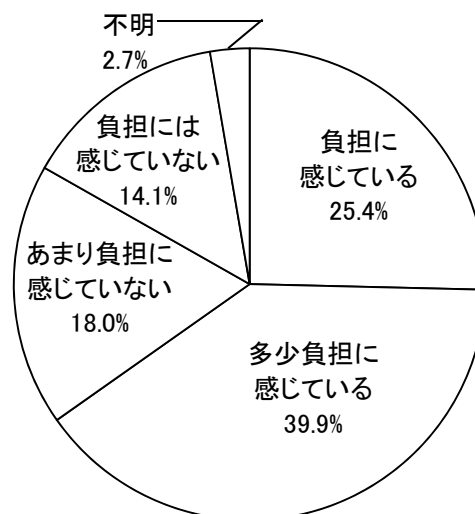


図 1-11-1 介護保険料の負担感

表 1-11-1 介護保険料の負担感

		人数	負担に 感じている	多少負担 に感じている	あまり 負担に 感じて いない	負担には 感じて いない	不明
総数		2,449	25.4%	39.9%	18.0%	14.1%	2.7%
性別	男性	1,027	29.7%	38.9%	14.0%	14.8%	2.6%
	女性	1,414	22.1%	40.6%	20.9%	13.6%	2.7%
年齢階級	65～69歳	606	27.6%	42.4%	16.7%	12.2%	1.2%
	70～74歳	620	29.4%	41.1%	15.2%	12.1%	2.3%
	75～79歳	518	26.8%	38.8%	17.0%	14.5%	2.9%
	80～84歳	412	22.8%	39.6%	18.0%	15.5%	4.1%
	85歳以上	285	12.6%	34.0%	29.1%	20.0%	4.2%
認定状況	認定なし	2,101	25.7%	40.4%	17.7%	13.9%	2.3%
	要支援 1・2	137	20.4%	43.8%	20.4%	11.7%	3.6%
	要介護 1・2	113	23.0%	33.6%	19.5%	21.2%	2.7%
	要介護 3～5	61	27.9%	32.8%	16.4%	14.8%	8.2%
日常生活圏域	下連雀 1-4、上連雀 1-5	453	17.7%	42.4%	19.9%	17.9%	2.2%
	下連雀 5-9、上連雀 6-9、野崎 1	505	27.5%	35.6%	18.4%	15.2%	3.2%
	井の頭	231	18.6%	40.3%	20.8%	16.5%	3.9%
	牟礼、北野、新川 2-3	347	28.5%	43.8%	15.9%	9.5%	2.3%
	新川 1、4-6、中原	396	28.8%	38.1%	18.7%	11.4%	3.0%
	野崎 2-4、井口、深大寺	321	26.8%	44.9%	15.6%	10.6%	2.2%
	大沢	188	30.3%	32.4%	16.0%	19.7%	1.6%
所得段階	第1～3段階	688	22.5%	36.9%	20.3%	16.6%	3.6%
	第4～5段階	860	26.9%	43.7%	17.0%	10.1%	2.3%
	第6段階～	864	26.2%	38.9%	16.9%	16.2%	1.9%
住居形態	持家	1,755	22.5%	40.3%	18.8%	16.4%	1.9%
	借家	365	36.2%	39.2%	14.5%	6.3%	3.8%
	公営住宅	176	20.7%	44.3%	13.6%	8.0%	3.4%
	その他	79	20.3%	26.6%	29.1%	15.2%	8.9%
世帯構成	単身世帯	420	21.0%	39.5%	19.0%	17.6%	2.9%
	夫婦二世帯	940	25.3%	42.1%	16.1%	14.1%	2.3%
	子と同居	738	28.5%	39.0%	18.0%	12.1%	2.4%
	子・孫と同居	181	24.9%	41.4%	18.8%	12.7%	2.2%
	その他	122	24.6%	31.1%	24.6%	17.2%	2.5%

注)クロス集計については、属性が不明なケースは除外して分析した。

2) 介護保険制度の給付と負担に関する意見

- 「介護保険制度は、納めている保険料に見合うだけの制度だと思うか」という質問に対して、「非常にそう思う」4.9%、「まあそう思う」38.8%と肯定的な評価をした人は43.7%であった。「あまりそう思わない」は38.2%、「まったくそう思わない」は12.6%であったので、肯定的評価と否定的評価はほぼ同程度であった。平成16年、平成19年、平成22年にも同じ項目で調査をしている。この3回の調査では、肯定的な評価をしていた人の割合は45%前後であったので、今回の調査もほぼ同様な結果と言える。
- 肯定的な評価の割合は、「男性」で41.1%、「女性」で45.6%と、女性で高い傾向がみられた。
- 高齢になるほど肯定的な評価の割合が増加し、「65～69歳」では37.8%であったが、「85歳以上」の人では63.8%まで増加した。
- 認定状況によっても大きな差がみられ、肯定的な評価の割合は「認定なし」の人では40.7%であったのに対し、「要介護3～5」の人では68.9%と30ポイント高かった。
- 日常生活圏域別では、肯定的評価の割合は「大沢地区」で37.8%とやや低かったが、それ以外の住区では40～45%程度であった。
- 所得段階別では、肯定的な評価の割合は「第1～3段階」で54.3%と、「第4～5段階」38.4%や「第6段階以上」40.1%と比較して、10ポイント以上高かった。
- 住居形態では、肯定的な評価の割合はいずれも45%前後で大きな差はみられなかった。
- 世帯構成別では、肯定的な評価の割合は「単身世帯」では55.0%で、「子と同居世帯」「子と孫と同居世帯」の40%程度と比較して高かった。

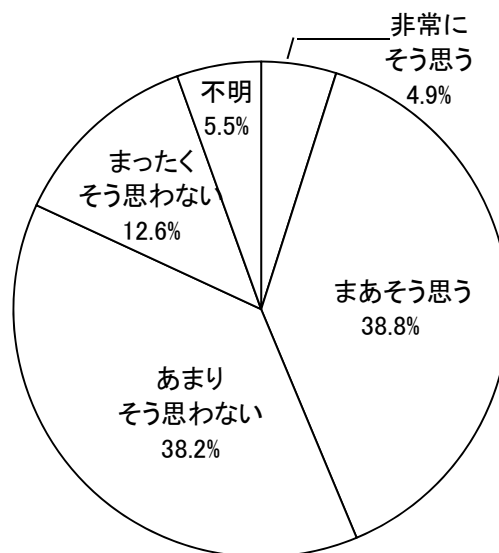


図 1-11-2 介護保険制度は納めている保険料に見合うだけの制度か

表 1-11-2 介護保険制度は納めている保険料に見合うだけの制度か

		人数	非常に そう思う	まあ そう思う	あまり そう思わ ない	まったく そう思わ ない	不明
総 数		2,449	4.9%	38.8%	38.2%	12.6%	5.5%
性別	男性	1,027	4.3%	36.8%	39.1%	15.7%	4.1%
	女性	1,414	5.4%	40.2%	37.6%	10.3%	6.5%
年齢階級	65～69 歳	606	2.5%	35.3%	43.4%	14.5%	4.3%
	70～74 歳	620	2.7%	34.4%	40.2%	16.3%	6.6%
	75～79 歳	518	4.6%	37.5%	41.1%	12.0%	4.8%
	80～84 歳	412	5.8%	44.7%	32.0%	11.2%	6.3%
	85 歳以上	285	14.0%	49.8%	26.7%	3.5%	6.0%
認定状況	認定なし	2,101	3.6%	37.1%	40.5%	13.3%	5.5%
	要支援 1・2	137	7.3%	52.6%	27.0%	7.3%	5.8%
	要介護 1・2	113	17.7%	45.1%	23.9%	10.6%	2.7%
	要介護 3～5	61	24.6%	44.3%	16.4%	6.6%	8.2%
日常生活圏域	下連雀 1-4、上連雀 1-5	453	4.6%	41.7%	37.5%	11.0%	5.1%
	下連雀 5-9、上連雀 6-9、野崎 1	505	7.1%	37.0%	37.4%	12.9%	5.5%
	井の頭	231	6.1%	39.8%	34.2%	13.0%	6.9%
	牟礼、北野、新川 2-3	347	3.5%	39.5%	37.2%	15.0%	4.9%
	新川 1、4-6、中原	396	5.1%	40.2%	36.9%	12.1%	5.8%
	野崎 2-4、井口、深大寺	321	2.8%	37.4%	44.2%	11.2%	4.4%
	大沢	188	4.3%	33.5%	41.5%	13.8%	6.9%
所得段階	第 1～3 段階	688	7.1%	47.2%	30.2%	9.0%	6.4%
	第 4～5 段階	860	4.8%	33.6%	42.3%	13.1%	6.2%
	第 6 段階～	864	3.5%	36.6%	40.7%	15.2%	4.1%
住居形態	持家	1,755	4.4%	38.7%	39.9%	12.0%	4.9%
	借家	365	5.2%	38.9%	33.7%	16.2%	6.0%
	公営住宅	176	6.8%	39.2%	38.1%	11.4%	4.5%
	その他	79	8.9%	49.4%	24.1%	7.6%	10.1%
世帯構成	単身世帯	420	4.0%	51.0%	31.4%	8.1%	5.5%
	夫婦二人世帯	940	4.3%	33.8%	42.3%	14.4%	5.2%
	子と同居	738	5.6%	37.0%	38.3%	13.6%	5.6%
	子・孫と同居	181	3.9%	40.3%	39.8%	11.6%	4.4%
	その他	122	7.4%	46.7%	30.3%	9.8%	5.7%

注)クロス集計については、属性が不明なケースは除外して分析した。

3) 介護サービス水準維持に関する意見

- 高齢者数が増えると、介護サービスの水準を維持するために、どうしても介護保険料が高くなってしまふ。これに対する意見を質問したところ、「サービスの水準を大幅に下げて保険料を安くする」が17.1%、「サービスの水準をある程度下げて保険料は従来通り」が31.5%、「介護サービスの水準を保つために、ある程度の介護保険料の増加はやむを得ない」が42.3%、「介護サービスの水準を引き上げるために、大幅な介護保険料の増加もやむを得ない」が1.0%であった。「介護サービスの水準を保つために、ある程度の介護保険料の増加はやむを得ない」という意見が最も高い割合を占めていた。
- 性別では、サービス水準維持への意見に大きな違いはみられなかった。
- 高齢になるほど「介護サービスの水準を保つために、ある程度の介護保険料の増加はやむを得ない」という意見が増加し、「85歳以上」の人では51.6%であった。
- 認定状況によっても大きな差がみられ、「サービスの水準をある程度下げて保険料は従来通り」という意見は、「認定なし」の人では32.5%であったのに対し、「要介護3～5」の人では11.5%と3分の1に減少した。
- 日常生活圏域別では、「介護サービスの水準を保つために、ある程度の介護保険料の増加はやむを得ない」という意見の割合は、「下連雀1-4、上連雀1-5」で最も高く(49.4%)、「大沢地区」で最も低かった(37.2%)。
- 所得段階別では、サービス水準維持への意見に大きな違いがみられなかった。
- 住居形態では、「介護サービスの水準を保つために、ある程度の介護保険料の増加はやむを得ない」と考える人の割合は、「持家」の人では45.1%であったが、「借家」や「公営住宅」の人では、この割合はそれぞれ30%程度と低かった。
- 世帯構成別では、「サービスの水準を大幅に下げて保険料を安くする」という意見が「子と同居世帯」では20.7%で、「単身世帯」の14.8%よりも多かった。

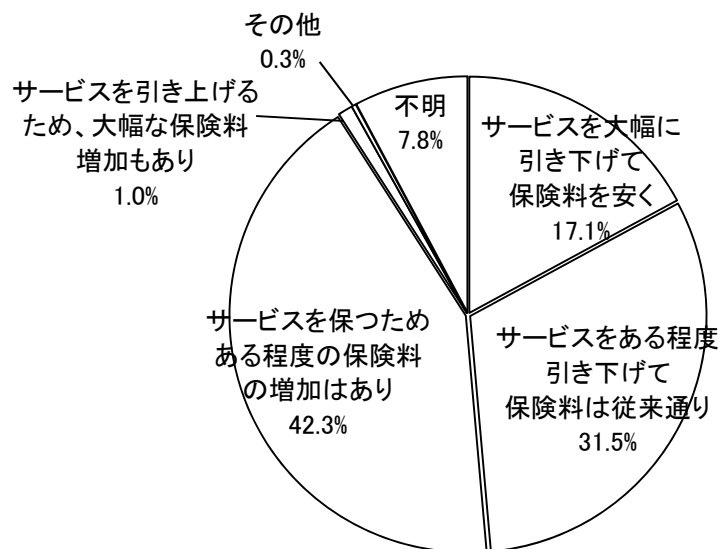


図 1-11-3 介護サービスの水準維持と保険料に関する意見

表 1-11-3 介護サービス水準維持と保険料に関する意見

		人数	サービスを大幅に引き下げて、保険料を安くする	サービスをある程度引き下げ保険料は従来通り	サービスを保つためある程度の保険料の増加はあり	サービスを引き上げるために大幅な保険料の値上げもあり	その他	不明
総数		2,449	17.1%	31.5%	42.3%	1.0%	0.3%	7.8%
性別	男性	1,027	19.0%	31.4%	41.4%	1.8%	0.4%	6.1%
	女性	1,414	15.9%	31.6%	43.1%	0.5%	0.2%	7.6%
年齢階級	65～69歳	606	16.3%	30.7%	44.1%	1.3%	0.3%	7.3%
	70～74歳	620	20.5%	32.7%	38.4%	1.0%	0.3%	7.1%
	75～79歳	518	18.0%	33.6%	38.6%	0.8%	0.6%	8.5%
	80～84歳	412	15.5%	32.3%	44.2%	1.2%	0.0%	6.8%
	85歳以上	285	13.0%	25.6%	51.6%	0.7%	0.3%	9.1%
認定状況	認定なし	2,101	17.7%	32.5%	41.2%	1.1%	0.3%	7.2%
	要支援1・2	137	18.2%	30.7%	44.5%	0.7%	0.0%	5.8%
	要介護1・2	113	12.4%	25.7%	52.2%	0.9%	0.0%	8.8%
	要介護3～5	61	14.8%	11.5%	55.7%	0.0%	0.0%	18.0%
日常生活圏域	下連雀1-4、上連雀1-5	453	13.7%	30.0%	49.4%	1.3%	0.0%	5.5%
	下連雀5-9、上連雀6-9、野崎1	505	19.2%	28.7%	43.2%	0.6%	0.2%	8.1%
	井の頭	231	18.2%	29.9%	41.1%	1.7%	0.4%	8.7%
	牟礼、北野、新川2-3	347	18.4%	34.6%	37.8%	0.6%	0.0%	8.6%
	新川1、4-6、中原	396	15.2%	32.3%	42.4%	1.8%	0.3%	8.1%
	野崎2-4、井口、深大寺	321	18.1%	34.3%	39.9%	0.3%	0.6%	6.9%
	大沢	188	19.7%	32.4%	37.2%	1.1%	1.1%	8.5%
所得段階	第1～3段階	688	16.3%	32.3%	41.9%	0.6%	0.3%	8.7%
	第4～5段階	860	18.3%	32.4%	40.2%	0.7%	0.0%	8.4%
	第6段階～	864	17.4%	30.1%	44.6%	1.7%	0.6%	5.7%
住居形態	持家	1,755	15.7%	31.4%	45.1%	1.0%	0.3%	6.4%
	借家	365	24.4%	31.8%	33.4%	0.8%	0.3%	9.3%
	公営住宅	176	20.5%	35.8%	33.5%	0.6%	0.0%	9.7%
	その他	79	6.3%	24.1%	50.6%	0.0%	0.0%	19.0%
世帯構成	単身世帯	420	14.8%	31.9%	44.3%	1.4%	0.2%	7.4%
	夫婦二世帯	940	16.6%	32.3%	41.7%	1.3%	0.5%	7.5%
	子と同居	738	20.7%	31.4%	39.2%	0.7%	0.1%	7.9%
	子・孫と同居	181	14.4%	34.3%	46.4%	0.0%	0.0%	5.0%
	その他	122	13.1%	23.0%	54.9%	0.8%	0.0%	8.2%

注)クロス集計については、属性が不明なケースは除外して分析した。

4) 療養場所の希望

- 寝たきりのような状態になった時に「現在の自宅で、妻あるいは夫にみてもらいたい」21.0%、「同居している子どもや嫁にみてもらいたい」5.7%、「別居の子どもや嫁を現在の家に呼び寄せ、彼らにみてもらいたい」1.6%、「現在の自宅を離れ、別居の子どもや嫁のところに行き、彼らにみてもらいたい」0.7%といった『家族介護志向』の人は29.0%であった。「家族に頼るよりも主にヘルパーなど在宅福祉サービスを活用し、自宅で生活したい」といった『在宅サービス志向』の人は24.1%であった。「老人ホームなどの施設で生活したい」23.8%、「病院に入院したい」13.4%といった『施設介護志向』の人は37.2%であった。平成10年の調査では、『家族介護志向』34.8%、『在宅サービス志向』18.2%、『施設介護志向』29.9%であったので、家族介護志向が徐々に減少し、在宅サービス志向や施設介護志向が徐々に増加する傾向にあった。
- 性別では、家族介護志向の割合は「男性」で40.2%と女性（21.0%）の2倍であった。
- 高齢になるほど在宅サービス志向が減少し、「65～69歳」では27.2%であったが、「85歳以上」の人では16.1%であった
- 認定状況によっても差がみられ、家族介護志向は「認定なし」の人では29.9%であったが、「要介護3～5」では41.0%とかなり高かった。他方、在宅サービス志向は「認定なし」の人では24.8%であるが、「要介護3～5」では4.9%とかなり低かった。
- 日常生活圏域別では、施設志向の割合は「野崎2～4、井口、深大寺」では42.4%と最も高く、「井の頭」は32.0%で最も低かった。
- 所得段階別では、家族介護志向は「第1～3段階」では23.0%であったが、「第6段階以上」では36.3%と高かった。逆に、在宅サービス志向は所得段階が低い方で、割合が高かった
- 住居形態では、「単身世帯」では在宅サービス志向と施設志向の割合がそれぞれ33.3%と48.1%で、他の世帯よりも10ポイント程度高かった。

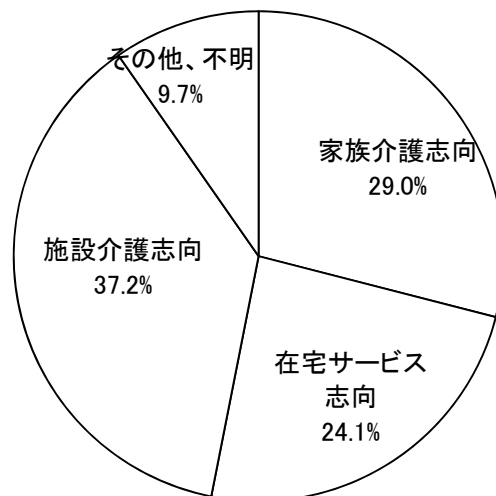


図 1-11-4 療養場所の希望

表 1-11-4 療養場所の希望

		人数	家族介護 志向	在宅サービス 志向	施設介護 志向	その他 不明
総数		2,449	29.0%	24.1%	37.2%	9.7%
性別	男性	1,027	40.2%	18.0%	33.1%	8.7%
	女性	1,414	21.0%	28.6%	40.2%	10.2%
年齢階級	65～69歳	606	28.2%	27.2%	35.0%	9.6%
	70～74歳	620	27.3%	24.5%	39.4%	8.9%
	75～79歳	518	27.6%	25.7%	36.7%	10.0%
	80～84歳	412	31.3%	22.6%	35.9%	10.2%
	85歳以上	285	34.4%	16.1%	40.4%	9.1%
認定状況	認定なし	2,101	29.9%	24.8%	36.3%	9.0%
	要支援 1・2	137	17.5%	31.4%	44.5%	6.6%
	要介護 1・2	113	29.2%	19.5%	41.6%	9.7%
	要介護 3～5	61	41.0%	4.9%	34.4%	19.7%
日常生活圏域	下連雀 1-4、上連雀 1-5	453	28.3%	21.9%	39.5%	10.4%
	下連雀 5-9、上連雀 6-9、野崎 1	505	28.5%	26.3%	34.1%	11.1%
	井の頭	231	35.1%	24.7%	32.0%	8.2%
	牟礼、北野、新川 2-3	347	27.4%	24.8%	39.8%	8.1%
	新川 1、4-6、中原	396	30.6%	21.7%	36.6%	11.1%
	野崎 2-4、井口、深大寺	321	27.1%	24.3%	42.4%	6.2%
	大沢	188	28.7%	26.6%	34.6%	10.1%
所得段階	第 1～3 段階	688	23.0%	28.6%	36.8%	11.6%
	第 4～5 段階	860	27.7%	26.9%	37.1%	8.4%
	第 6 段階～	864	36.3%	18.6%	36.9%	8.1%
住居形態	持家	1,755	32.1%	25.2%	34.7%	8.0%
	借家	365	16.4%	21.4%	46.8%	15.3%
	公営住宅	176	31.2%	29.0%	31.8%	8.0%
	その他	79	6.3%	2.5%	65.8%	25.3%
世帯構成	単身世帯	420	6.0%	33.3%	48.1%	12.6%
	夫婦二人世帯	940	37.3%	20.9%	34.6%	7.2%
	子と同居	738	34.1%	23.6%	33.3%	8.9%
	子・孫と同居	181	34.8%	24.9%	31.5%	8.8%
	その他	122	11.5%	19.7%	52.5%	16.4%

注)クロス集計については、属性が不明なケースは除外して分析した。

5) 有料老人ホーム等の利用意向

- 有料老人ホームやサービス付き高齢者住宅への入居意向を質問した。「すでに入居」が2.6%、「入居したい」が8.1%、「費用が安ければ入居したい」が34.7%、「入居したくない」が47.9%であった。
- 性別では、「費用が安ければ利用したい」の割合は「男性」30.4%、「女性」37.8%、「入居したくない」の割合は「男性」53.5%、「女性」44.0%で、男性よりも女性の方が入居の希望は高い傾向がみられた。
- 年齢階級別では、高齢になるほど「すでに入居／入居したい」や「入居したくない」が増加し、「費用が安ければ入居したい」が減少していた。
- 認定状況によっても差がみられ、要介護度が高まるに伴って、「すでに入居／入居したい」が増加していた。
- 日常生活圏域別では、「井の頭」では「入居したくない」の割合は57.1%と全体よりも10ポイント高く、「費用が安ければ入居したい」が19.9%と全体よりも10ポイント以上低かった。
- 所得段階別では、「すでに入居／入居したい」が「第1～3段階」では7.7%であったが、「第6段階以上」では13.2%と高かった。
- 住居形態では、「費用が安ければ入居したい」は「持家」の人では34.2%と、「借家」の人（46.6%）よりも低く、「入居したくない」については「持家」の人では52.3%と、「借家」の人（40.5%）よりも高かった。
- 世帯構成では、「すでに入居／入居したい」の割合は「単身世帯」では13.1%、「子どもと同居世帯」では5.6%で、単身世帯の高齢者の方が2倍程度、入居を希望する人の割合が高かった。

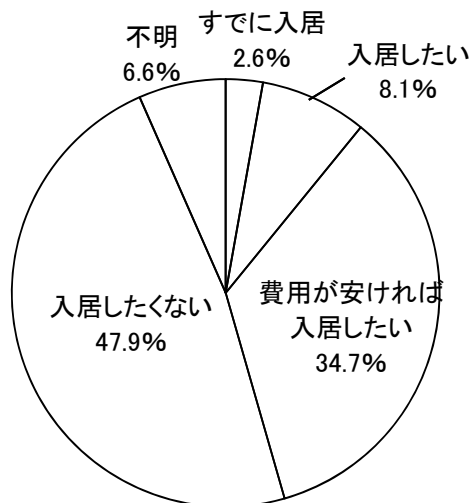


図 1-11-5 有料老人ホーム等の利用意向

表 1-11-5 有料老人ホーム等の利用意向

		人数	すでに入居／ 入居したい	費用が安ければ 入居したい	入居 したくない	不明
総数		2,449	10.7%	34.7%	47.9%	6.6%
性別	男性	1,027	9.5%	30.4%	53.5%	6.6%
	女性	1,414	11.6%	37.8%	44.0%	6.6%
年齢階級	65～69歳	606	7.4%	42.9%	44.9%	4.8%
	70～74歳	620	9.7%	34.5%	49.4%	6.5%
	75～79歳	518	11.8%	35.3%	47.3%	5.6%
	80～84歳	412	12.6%	31.1%	47.8%	8.5%
	85歳以上	285	15.4%	21.4%	53.0%	10.2%
認定状況	認定なし	2,101	8.7%	35.2%	49.8%	6.3%
	要支援 1・2	137	12.4%	39.4%	40.9%	7.3%
	要介護 1・2	113	15.0%	34.5%	41.6%	8.8%
	要介護 3～5	61	29.5%	23.0%	36.1%	11.5%
日常生活圏域	下連雀 1-4、上連雀 1-5	453	13.0%	31.8%	48.6%	6.6%
	下連雀 5-9、上連雀 6-9、野崎 1	505	13.3%	36.0%	44.4%	6.4%
	井の頭	231	12.6%	19.9%	57.1%	10.4%
	牟礼、北野、新川 2-3	347	5.8%	40.1%	46.7%	7.5%
	新川 1、4-6、中原	396	9.1%	37.4%	47.5%	6.1%
	野崎 2-4、井口、深大寺	321	10.0%	39.9%	45.8%	4.4%
	大沢	188	10.1%	31.4%	52.1%	6.4%
所得段階	第 1～3 段階	688	7.7%	34.4%	49.6%	8.3%
	第 4～5 段階	860	7.9%	39.2%	46.9%	6.0%
	第 6 段階～	864	13.2%	31.5%	49.4%	5.9%
住居形態	持家	1,755	9.9%	34.2%	52.3%	3.6%
	借家	365	7.1%	46.6%	40.5%	5.8%
	公営住宅	176	2.8%	38.1%	54.5%	4.5%
	その他	79	72.2%	12.2%	11.4%	3.8%
世帯構成	単身世帯	420	13.1%	37.9%	43.3%	5.7%
	夫婦二世帯	940	11.9%	35.9%	47.6%	4.7%
	子と同居	738	5.6%	33.7%	52.3%	8.4%
	子・孫と同居	181	6.1%	32.0%	56.9%	5.0%
	その他	122	29.5%	31.1%	32.0%	7.4%

注)クロス集計については、属性が不明なケースは除外して分析した。

6) サービス利用意向

(1) 介護関連の事業の利用意向

- 「すでに利用している」「すぐに利用したい」「必要になったら利用したい」を合計した利用意向のある人の割合は、「介護予防事業」が79.9%、「要介護認定申請」が92.5%、「権利擁護事業」が64.8%、「緊急通報システム」が88.4%であった。
- 性別では、「権利擁護事業」の利用意向の割合に差があり、「男性」では70.4%と「女性」の60.9%よりも10ポイント高かった。
- 年齢階級別では、「介護予防事業」「権利擁護事業」の2つの事業で差がみられ、「65～69歳」では各事業の利用意向がそれぞれ85.8%、70.6%であったが、「85歳以上」ではそれぞれ62.5%、50.5%で、20ポイント程度低かった。

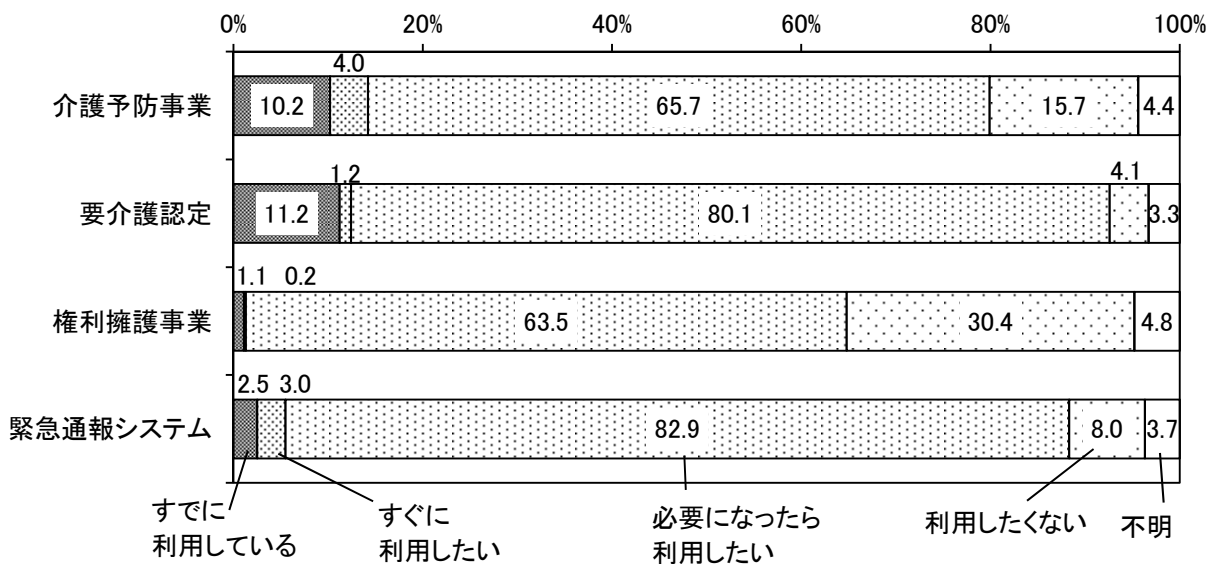


図 1-11-6 介護関連の事業の利用意向

表 1-11-6 介護関連事業の利用意向

		人数	介護予防事業	要介護認定申請	権利擁護事業	緊急通報システム
総数		2,449	79.9%	92.5%	64.8%	88.4%
性別	男性	1,027	80.9%	92.3%	70.4%	88.8%
	女性	1,414	79.2%	92.6%	60.9%	88.1%
年齢階級	65～69歳	606	85.8%	93.6%	70.6%	90.9%
	70～74歳	620	83.4%	92.9%	66.5%	89.0%
	75～79歳	518	81.7%	92.7%	64.9%	90.2%
	80～84歳	412	76.0%	91.0%	64.1%	89.3%
	85歳以上	285	62.5%	91.2%	50.5%	77.2%

注 1) 利用意向のある人とは、「すでに利用している」「すぐに利用したい」「必要になったら利用したい」と回答した人である。

注 2) クロス集計については、属性が不明なケースは除外して分析した。

(2) 食事サービスの利用意向

- 自分で食事の用意ができなくなり、用意してくれる人がいなくなった場合の食事サービス利用意向についてサービスの種類別にみると、「公的配食サービス」が48.3%と最も利用意向が高く、次いで「民間配食サービス」30.5%、「ヘルパーによる食事用意」19.8%となっていた。
- 性別では、いずれの種類の手配サービスとも大きな差はみられなかった。
- 年齢階級別では、高齢になるほど「民間配食サービス」の利用意向が低下し、「65～69歳」では34.2%であったが、「85歳以上」では26.0%であった。

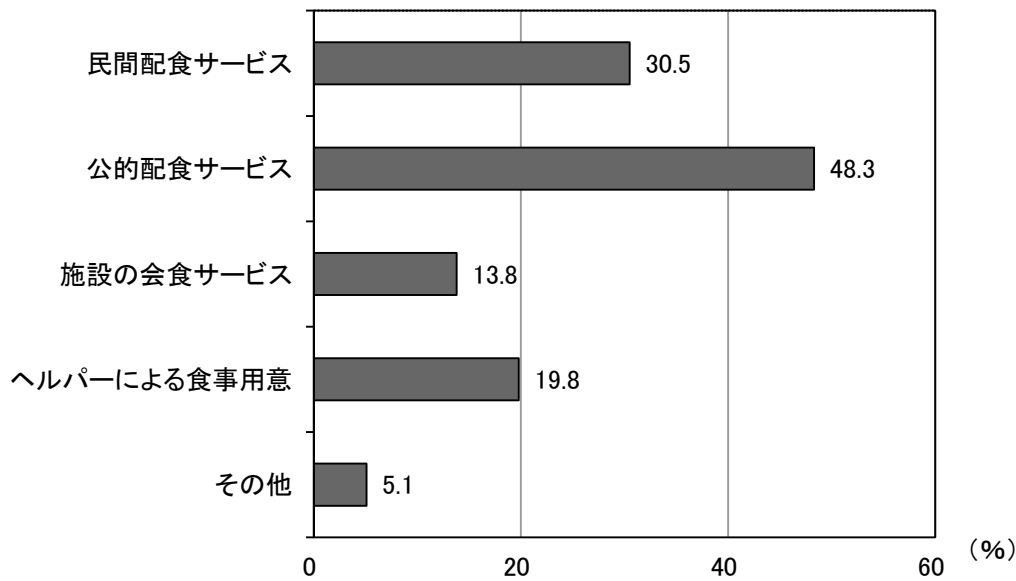


図 1-11-7 食事サービスの種類別利用意向 (複数回答)

注)「別になし」「不明」という回答も含めた割合を示した。

表 1-11-7 食事サービスの種類別にみた利用意向

		人数	民間配食サービス	公的配食サービス	施設会食サービス	ヘルパーによる用意	その他
総数		2,449	30.5%	48.3%	13.8%	19.8%	5.1%
性別	男性	1,027	30.5%	47.2%	13.4%	21.5%	4.6%
	女性	1,414	30.3%	48.9%	14.1%	18.5%	5.4%
年齢階級	65～69歳	606	34.2%	49.7%	13.0%	21.6%	3.1%
	70～74歳	620	33.2%	49.0%	16.5%	18.2%	4.8%
	75～79歳	518	27.0%	47.5%	13.3%	23.9%	5.6%
	80～84歳	412	27.7%	48.3%	11.2%	15.8%	6.6%
	85歳以上	285	26.0%	44.2%	14.7%	17.2%	6.7%

注)クロス集計については、属性が不明なケースは除外して分析した。

(3) 見守りや声かけの希望

- ひとり暮らしになった時に、見守りや声かけを誰にしてもらいたいかをたずねたところ、「親族」が62.0%と最も多く、「ホームヘルパー」「近隣の人」「友人・知人」がそれぞれ20%台となっていた。「必要ない、希望しない」という人は8.4%であった。
- 性別では、「友人・知人」という人の割合に差がみられ、「男性」では16.4%に対し、「女性」では27.0%と10ポイント以上高かった。
- 年齢階級別では、高齢になるほど「友人・知人」の割合は減少し、「65～69歳」では28.1%であったが、「85歳以上」では13.3%まで減少していた。

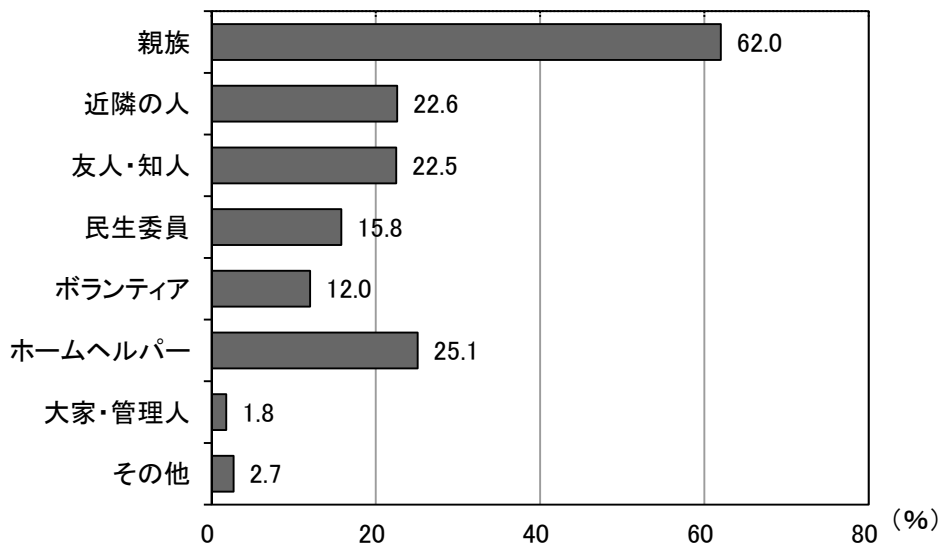


図 1-11-8 見守りや声かけを行ってほしい人（複数回答）

注) 別になし、不明も含めた割合である。

表 1-11-8 見守りや声かけを行ってほしい人

		人数	親族	近隣	友人・知人	民生委員	ボランティア	ホームヘルパー	大家・管理人	その他
総数		2,449	62.0%	22.6%	22.5%	15.8%	12.0%	25.1%	1.8%	2.7%
性別	男性	1,027	59.2%	20.5%	16.4%	17.1%	12.4%	24.6%	2.1%	2.7%
	女性	1,414	64.0%	24.1%	27.0%	14.9%	11.7%	25.5%	1.6%	2.6%
年齢階級	65～69歳	606	59.7%	22.9%	28.1%	13.5%	13.9%	28.2%	2.0%	1.3%
	70～74歳	620	61.8%	19.7%	27.7%	16.6%	14.8%	24.2%	1.8%	3.1%
	75～79歳	518	63.9%	24.9%	19.3%	16.6%	12.0%	26.6%	0.8%	3.7%
	80～84歳	412	60.9%	24.8%	17.0%	19.2%	7.5%	22.6%	2.4%	2.9%
	85歳以上	285	65.3%	21.1%	13.3%	13.0%	8.4%	21.4%	2.5%	2.5%

注) クロス集計については、属性が不明なケースは除外して分析した。

12. 市の施策への要望

- 高齢者に対する政策や支援のうち、今後、特に力を入れてほしい政策や支援を3つまで選んでもらったところ、最も多かったのは「介護や福祉サービス」52.3%で、2番目は「医療サービス」44.7%、3番目は「公的な年金制度」33.9%であった。介護・福祉、医療、年金という社会保障制度については個人の努力だけでは対応が難しい場合も多いため、公的な制度や支援に期待する意見が多いことがわかった。
- 「高齢者に配慮した町づくり」21.2%や「高齢者向けの住宅」16.2%といった「住まいや住環境、地域環境」に関する要望も2割前後の人から挙がっていた。
- 「働く場」「介護予防」「学習」「ボランティア活動」といった社会参加や社会活動関連の施策については、社会保障関連の項目と比べると要望として挙げる人が少なかった。

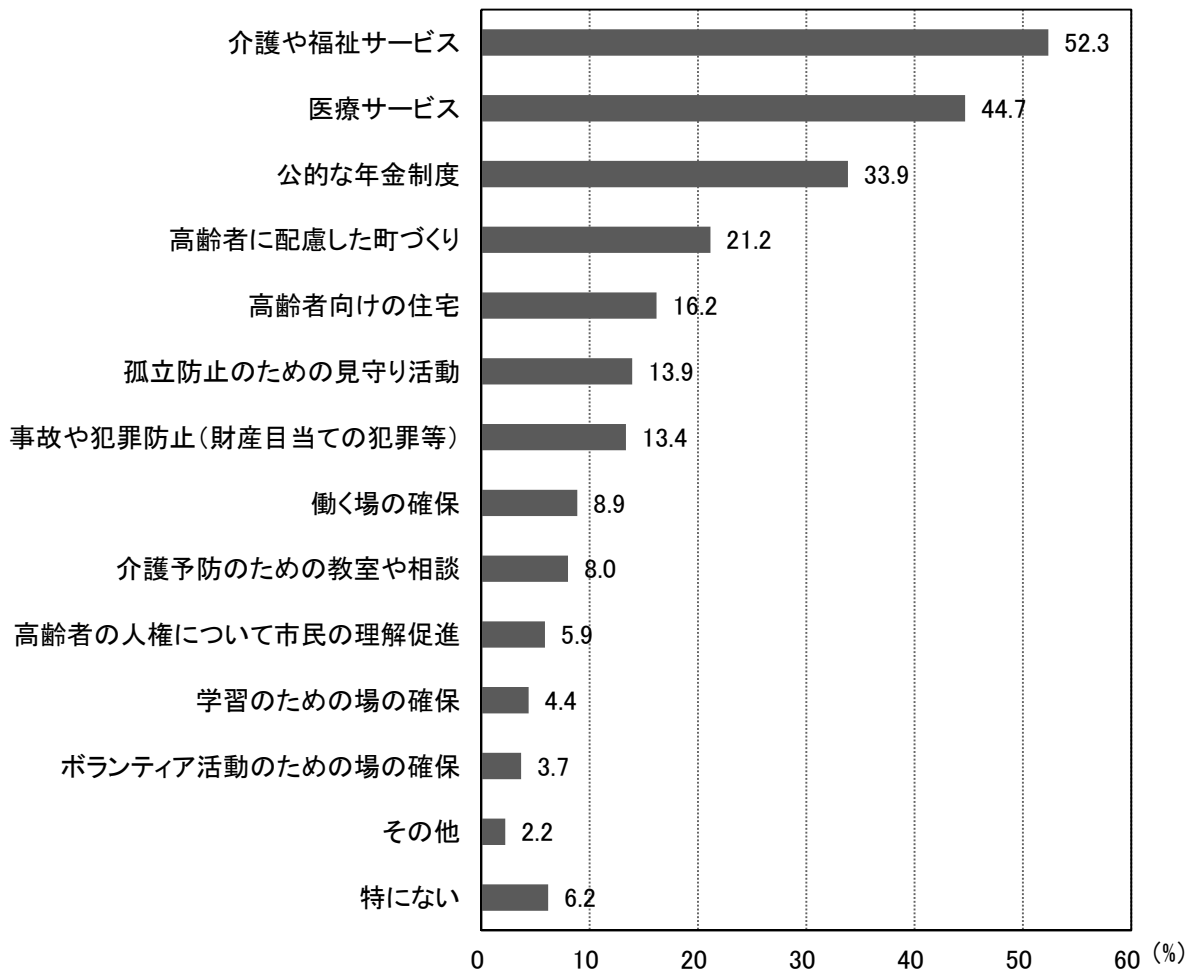


図1-12-1 特に力を入れてほしい「高齢者に関する政策や支援」(3つまで選択)